

令和5年度

文部科学省委託調査

**「幼児教育施設の機能を生かした幼児の
学び強化学業」
（幼児教育施設と家庭等との
連携強化に関する調査研究）**

調査報告書

令和6年3月

株式会社 リベルタス・コンサルティング

目次

| | |
|--------------------------|-----|
| 第1章 調査概要 | 1 |
| 1-1 調査目的 | 1 |
| 1-2 調査概要 | 2 |
| 第2章 幼児教育施設アンケート | 4 |
| 2-1 調査概要 | 4 |
| 2-2 在園児の家庭とのやり取りや情報共有 | 10 |
| 2-3 幼児教育に対する考え方 | 16 |
| 2-4 幼児教育における遊びについての考え | 22 |
| 2-5 地域との連携状況 | 33 |
| 2-6 家庭や地域とのやり取り、連携に関する意見 | 36 |
| 2-7 まとめ | 37 |
| 第3章 保護者アンケート | 38 |
| 3-1 調査概要 | 38 |
| 3-2 第一子が通う幼児教育施設について | 51 |
| 3-3 幼児教育施設との情報共有 | 61 |
| 3-4 幼児教育施設に求める教育・活動内容 | 66 |
| 3-5 幼児教育施設における遊びの理解 | 77 |
| 3-6 保護者による子育てや教育に関する情報収集 | 82 |
| 3-7 まとめ | 85 |
| 第4章 比較分析 | 86 |
| 4-1 幼児教育施設と家庭とのやり取り | 86 |
| 4-2 教育内容に関する考え | 90 |
| 4-3 幼児教育施設について | 94 |
| 4-4 遊びについて | 96 |
| 4-5 まとめ | 99 |
| 第5章 ヒアリング調査 | 100 |
| 5-1 調査方法 | 100 |
| 5-2 ヒアリング結果 | 102 |
| 5-3 まとめ | 108 |
| 第6章 まとめ | 110 |
| 6-1 施設アンケート | 110 |
| 6-2 保護者アンケート | 111 |
| 6-3 幼児教育施設と保護者の比較 | 112 |
| 6-4 まとめ | 114 |

第1章 調査概要

1-1 調査目的

幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、この時期に質の高い幼児教育が提供されることが重要である。このため、幼児教育施設としての幼稚園、認定こども園、保育所の機能を生かし、幼児の学びが豊かなものとなるよう、幼児教育の質の向上に関する課題や、子育ての支援や家庭等との連携強化等に関する調査研究を進め、幼児教育の一層の充実を図る。

幼児教育施設における生活、家庭や地域での生活といった幼児の生活全体を豊かにし、健やかな成長を確保していくためには、遊びを通して学ぶという幼児期の特性を踏まえた幼児教育の重要性等について、幼児教育施設と家庭や地域との間で認識を共有することが重要である。こうしたことを踏まえ、幼児教育の特性等に関する認識や重要性の共有など、幼児教育施設と家庭等との連携等に関する調査研究を行い、その成果をまとめる。

1-2 調査概要

以下の調査を行った。

1-2-1 調査研究実行委員会の開催

有識者等による委員会を開催し、調査の設計・分析に関するご意見を頂いた。委員は下記の通り（50音順）。

| | |
|--------|----------------------------|
| 池田 幸恭 | 和洋女子大学 人文学部 心理学科 教授 |
| 岩崎 久美子 | 放送大学 教養学部 心理と教育コース 教授 |
| 鈴木 みゆき | 國學院大學 人間開発学部 子ども支援学科 教授 |
| 向井 美穂 | 十文字学園女子大学 教育人文学部 幼児教育学科 教授 |

委員会の開催概要は、下記の通り。

| | |
|-------|-------------------------------|
| 第一回日時 | 令和5年10月12日 16時～18時 |
| 開催場所 | オンライン (Zoom) |
| 議題 | (1) 調査概要について (2) アンケートについて |

| | |
|-------|------------------------------------|
| 第二回日時 | 令和6年1月15日 13時～15時 |
| 開催場所 | オンライン (Zoom) |
| 議題 | (1) アンケート結果について (2) ヒアリング調査について |

| | |
|-------|----------------------------------|
| 第三回日時 | 令和6年3月4日 16時～18時 |
| 開催場所 | オンライン (Zoom) |
| 議題 | (1) ヒアリング調査結果について (2) 報告書について |

1-2-2 幼児教育施設アンケート

全国の幼稚園・保育所・認定こども園を対象にアンケートを実施し、幼稚園等における家庭や地域等との連携の状況や実施内容、幼児教育の重要性に関する認識状況、連携における課題等を明らかにする。

1-2-3 保護者アンケート

全国の幼稚園・保育所・認定こども園等に通う幼児の保護者を対象に、幼児教育の情報の取得方法や重要視している事柄についてアンケートを実施し、幼稚園等と保護者の認識の共有状況やずれを比較する。

1-2-4 ヒアリング調査の実施

幼稚園等の幼児教育施設が、どのような方法で家庭等との連携を行っているか、具体的な取組内容を明らかにするためにヒアリング調査を行う。

第2章 幼児教育施設アンケート

全国の幼稚園・保育所・認定こども園を対象にアンケートを実施し、幼稚園等における家庭や地域等との連携の状況や実施内容、幼児教育の重要性に関する認識状況、連携における課題等を明らかにした。

2-1 調査概要

2-1-1 対象

- ①幼稚園・幼稚園型認定こども園 8,837 件（全数／令和 5 年 5 月 1 日現在）（出所：文部科学省 学校基本調査（幼稚園））
- ②保育所、幼保連携型認定こども園・保育所型認定こども園 計 5,000 件（無作為抽出）
（抽出数：保育所：3,000 件、幼保連携型：1,500 件、保育所型：500 件）
【参考】全数：保育所：22,719 件、幼保連携型：6,111 件、保育所型：1,164 件（出所：厚生労働省 社会福祉施設等調査）

なお、①幼稚園・幼稚園型認定こども園は全数調査（悉皆調査）、②保育所、幼保連携型認定こども園・保育所型認定こども園は無作為抽出調査と抽出方法が異なっている。全体値の集計結果には、悉皆調査と抽出依頼調査という調査方法が異なる回答が混在することに注意を要する。施設種による結果への影響や施設別の特徴については、別紙の施設種別集計結果を確認いただきたい。

2-1-2 方法

配布：①依頼状を、文部科学省・都道府県・市区町村を通じて幼稚園・幼稚園型認定こども園へメールで送付

②依頼状を郵送

回収：施設①②ともに WEB アンケート画面からの回答

2-1-3 実施期間

令和 5 年 11 月 6 日～令和 5 年 12 月 4 日

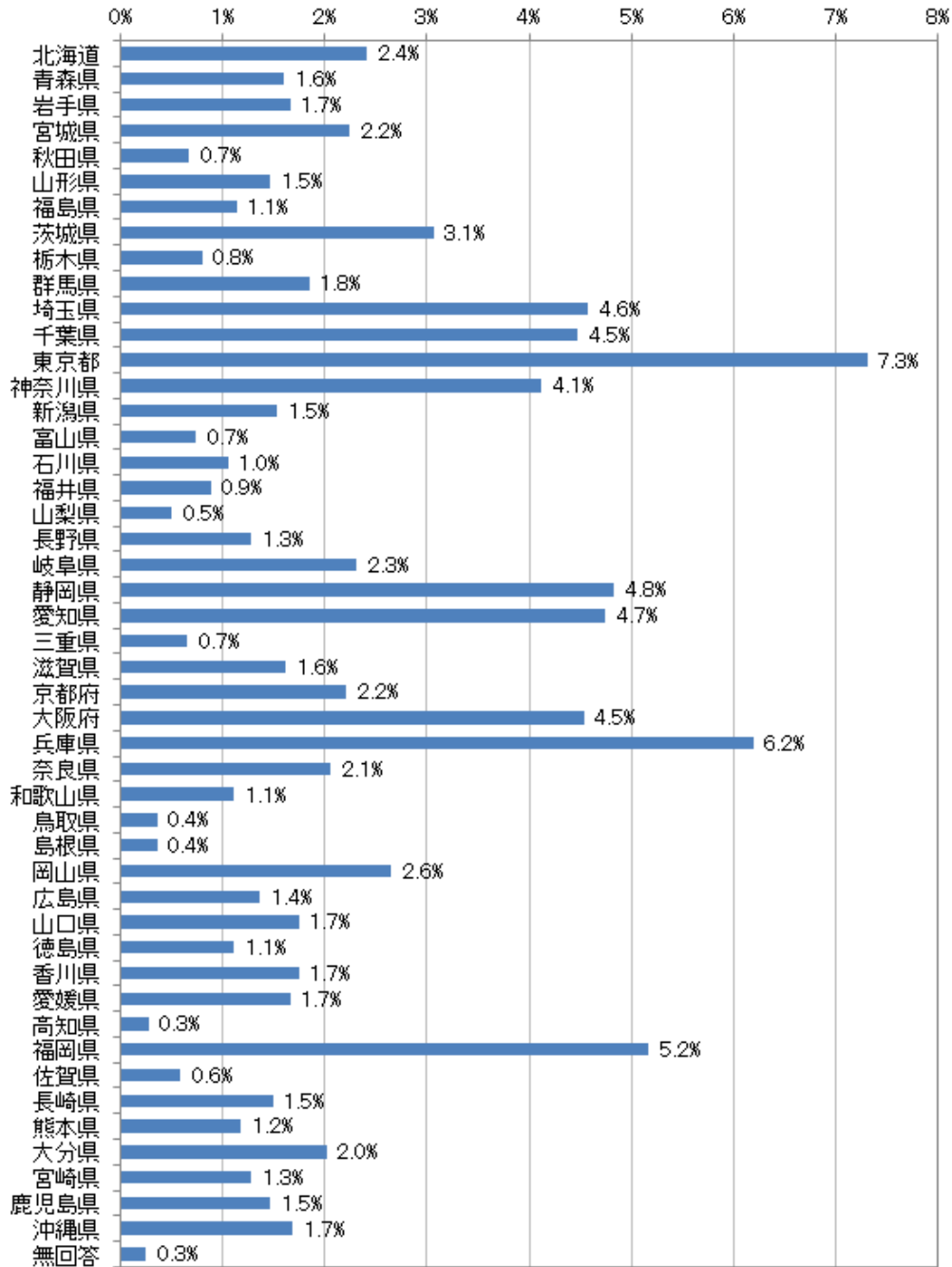
2-1-4 有効回収数

- ①幼稚園・幼稚園型認定こども園：3,134 件（回収率 35.5%）
- ②保育所、幼保連携型・保育所型認定こども園：1,628 件（回収率 32.6%）
（保育所：742 件（24.7%）、幼保連携型：707（47.1%）件、保育所型：179 件（35.8%））

2-1-5 回答者属性

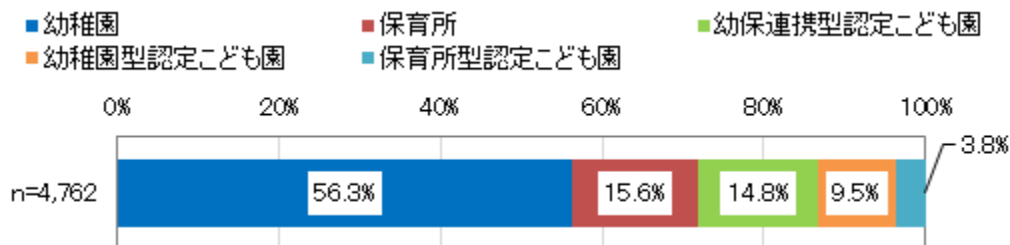
(1)所在地

図表 2-1 施設の所在地 (n=4,762)



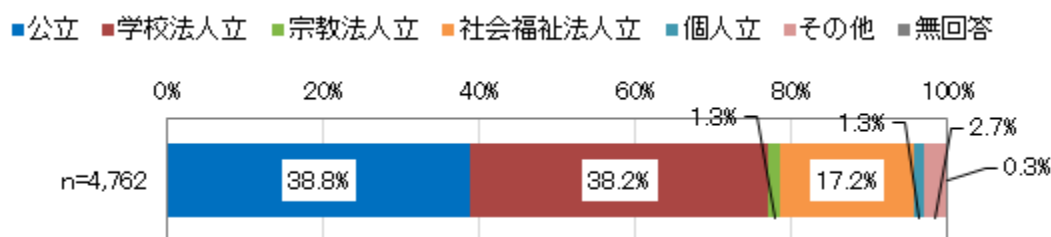
(2)設置形態

図表 2-2 施設の設置形態



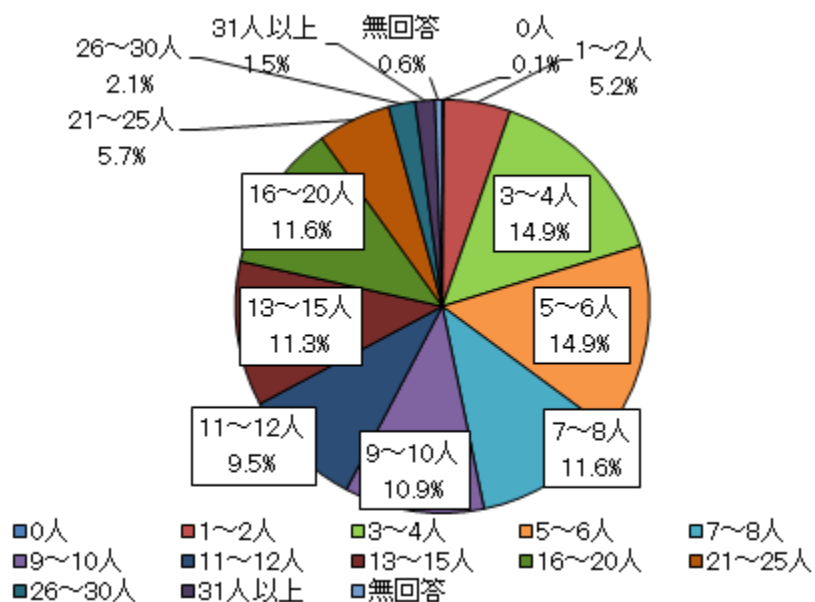
(3)運営主体

図表 2-3 施設の運営主体

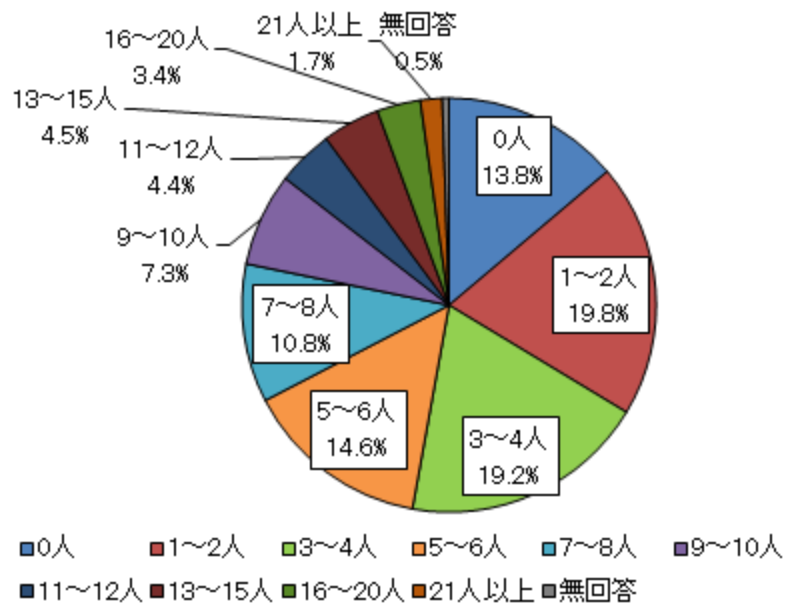


(4)施設の職員数

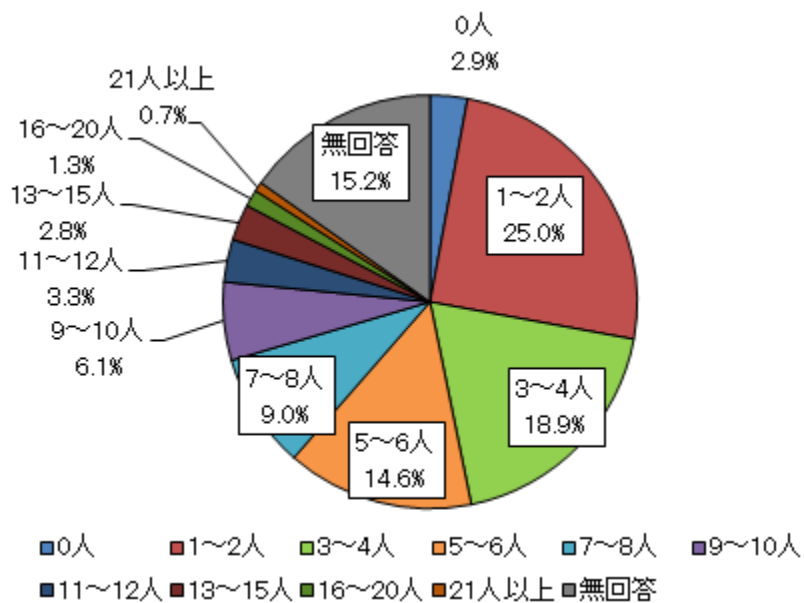
図表 2-4 施設の職員数 [幼稚園教諭・保育士 (常勤)] (n=4,762)



図表 2-5 施設の職員数 [幼稚園教諭・保育士 (非常勤・パートタイム)] (n=4,762)

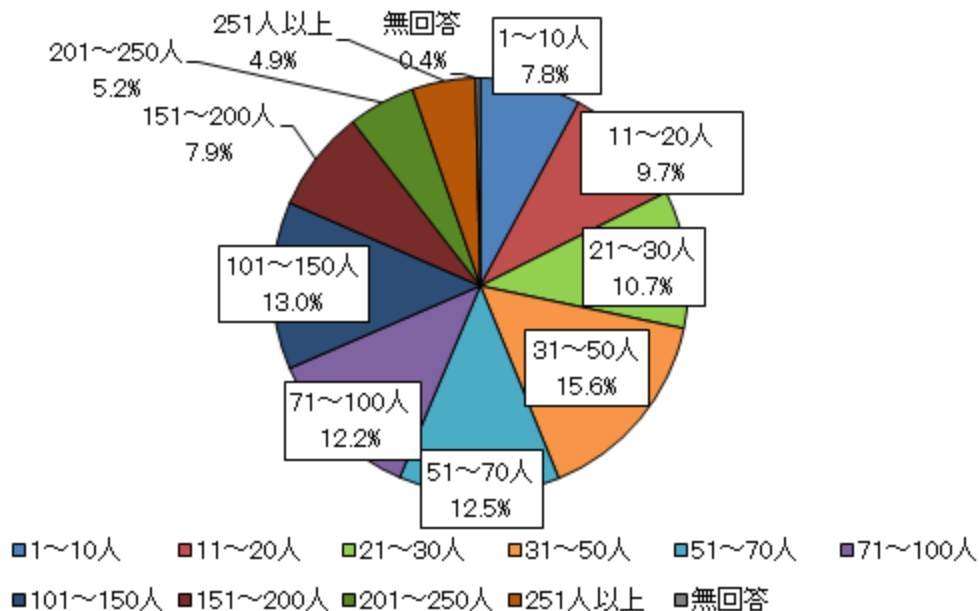


図表 2-6 施設の職員数 [それ以外の職員] (n=4,762)

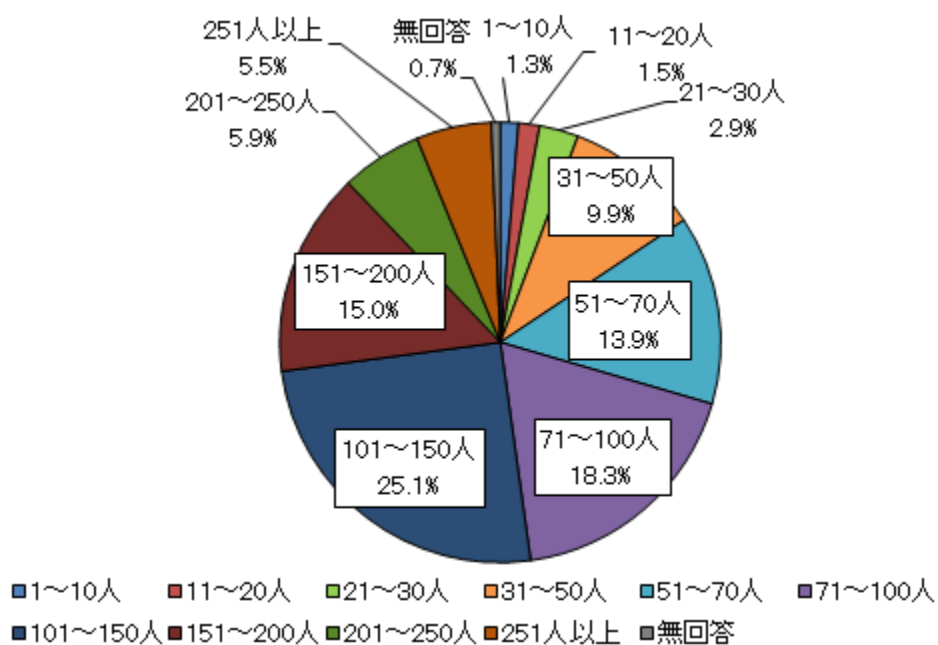


(5)施設の在園児数

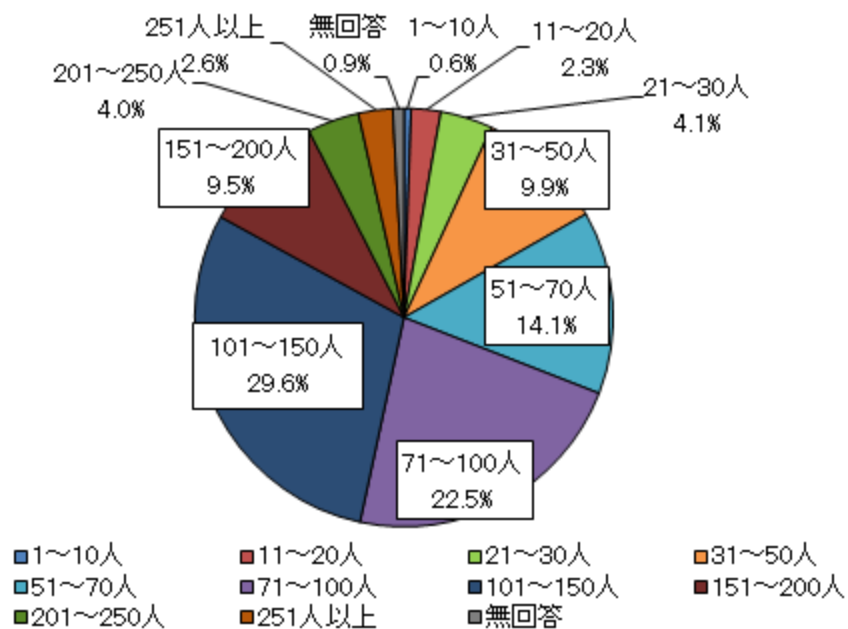
図表 2-7 施設の在籍園児数【幼稚園】(n=2,680)



図表 2-8 貴園の在籍園児数【幼稚園型認定こども園】(n=454)



図表 2-9 貴園の在籍園児数【幼保連携型・保育所型認定こども園、保育所】
(n=1,628)

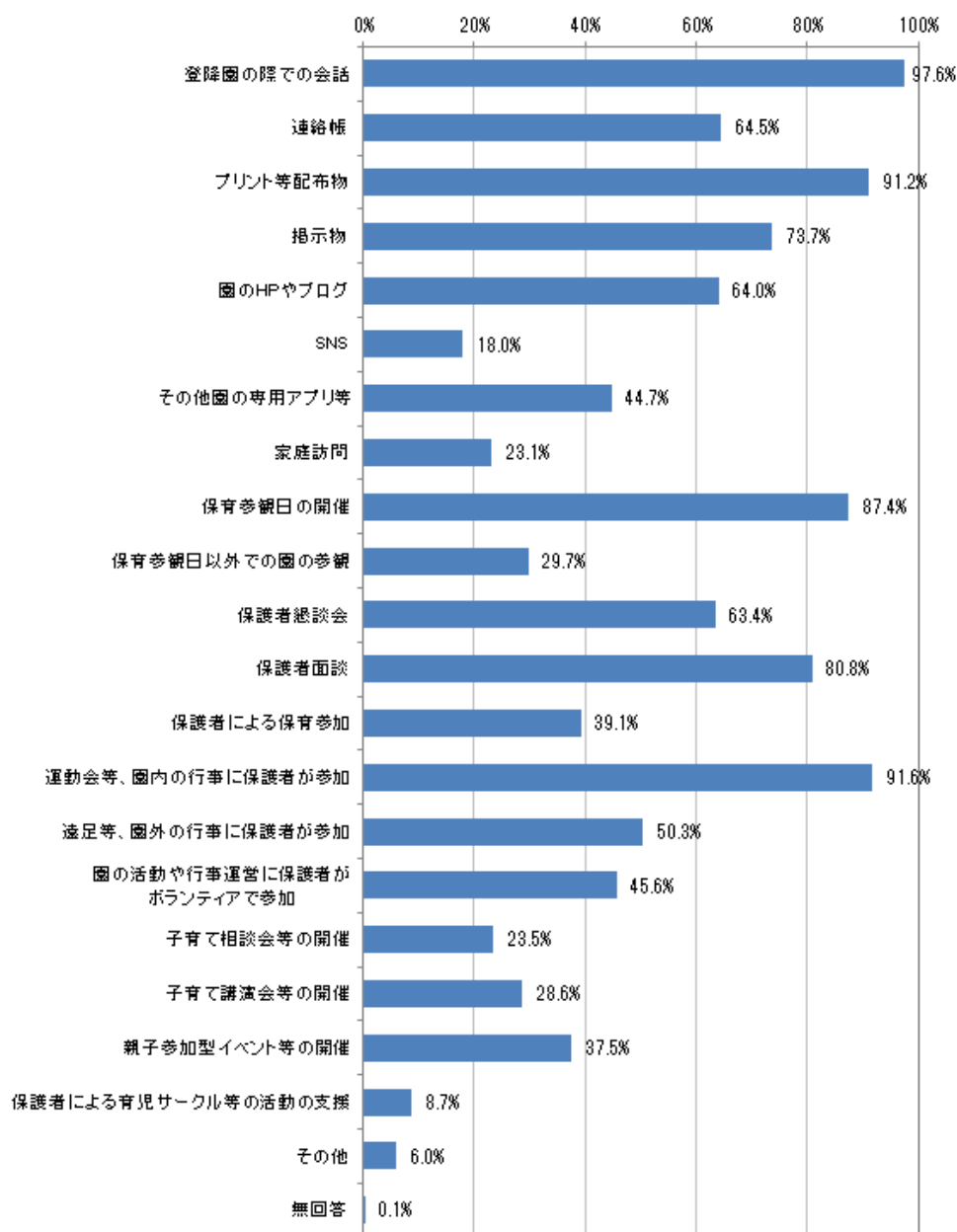


2-2 在園児の家庭とのやり取りや情報共有

2-2-1 家庭とのやり取りや、幼児教育に関する情報共有の方法・取組

幼児の様子や幼児教育に関する情報を家庭に伝える際の方法・取組についてきいたところ、「登降園の際での会話」が97.6%と最も割合が高く、「運動会、園内の行事に保護者が参加」が91.6%、「プリント等配布物」が91.2%で続いている。

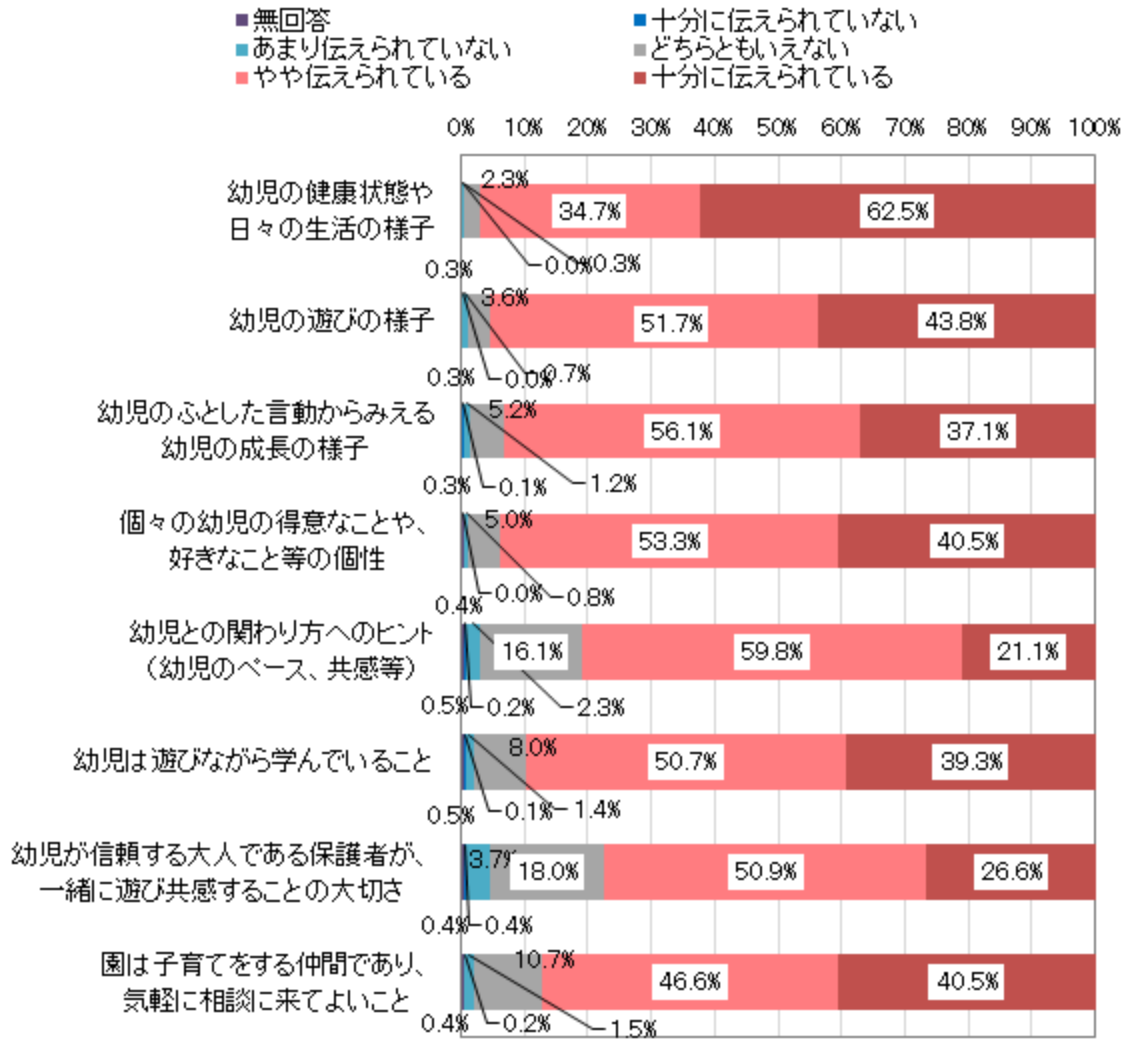
図表 2-10 幼児の様子や幼児教育に関する情報を家庭に伝える際の方法・取組
(n=4,762)



2-2-2 やり取りの内容

家庭とのやり取りや取組を通じて、どのくらい伝えられているかについてきいたところ、いずれの項目も「伝えられている（十分に伝えられている+やや伝えられている）」が8割以上と高い割合である。中でも「幼児の健康状態や日々の生活の様子」「幼児の遊びの様子」の割合が高い。

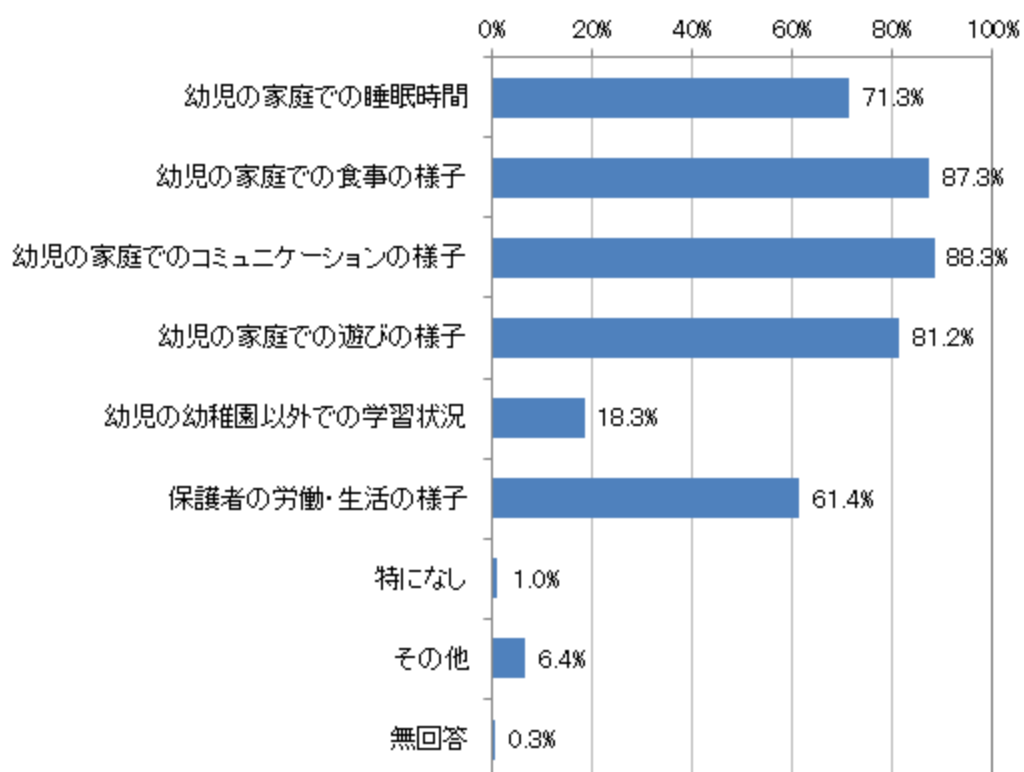
図表 2-11 家庭とのやり取りや取組を通じて、どのくらい伝えられているか(n=4,762)



2-2-3 家庭から教えてほしい幼児の情報

家庭とのやり取りにおいて、家庭側から教えて欲しい幼児に関する情報についてきいたところ、「幼児の家庭でのコミュニケーションの様子」が88.3%と割合が高く、次いで「幼児の家庭での食事の様子」が87.3%となっている。

図表 2-12 家庭とのやり取りにおいて、家庭側から教えて欲しい幼児に関する情報
(複数回答) (n=4,762)



2-2-4 家庭とのやり取りや、幼児の様子を伝える取組について、特徴的な取組

自由記述から、家庭とのやり取りや幼児の様子を伝える特徴的な取組を整理した。何があつたかの情報を伝えるだけでなく、保育者から見た子どもの様子や保育者の考えを伝えるような工夫をしている。また、保護者の悩みや考えなども聞き取る工夫をしているケースもある。

図表 2-13 家庭とのやり取りや、幼児の様子を伝える取組について、特徴的な取組
(自由記述) (回答数:2,021)

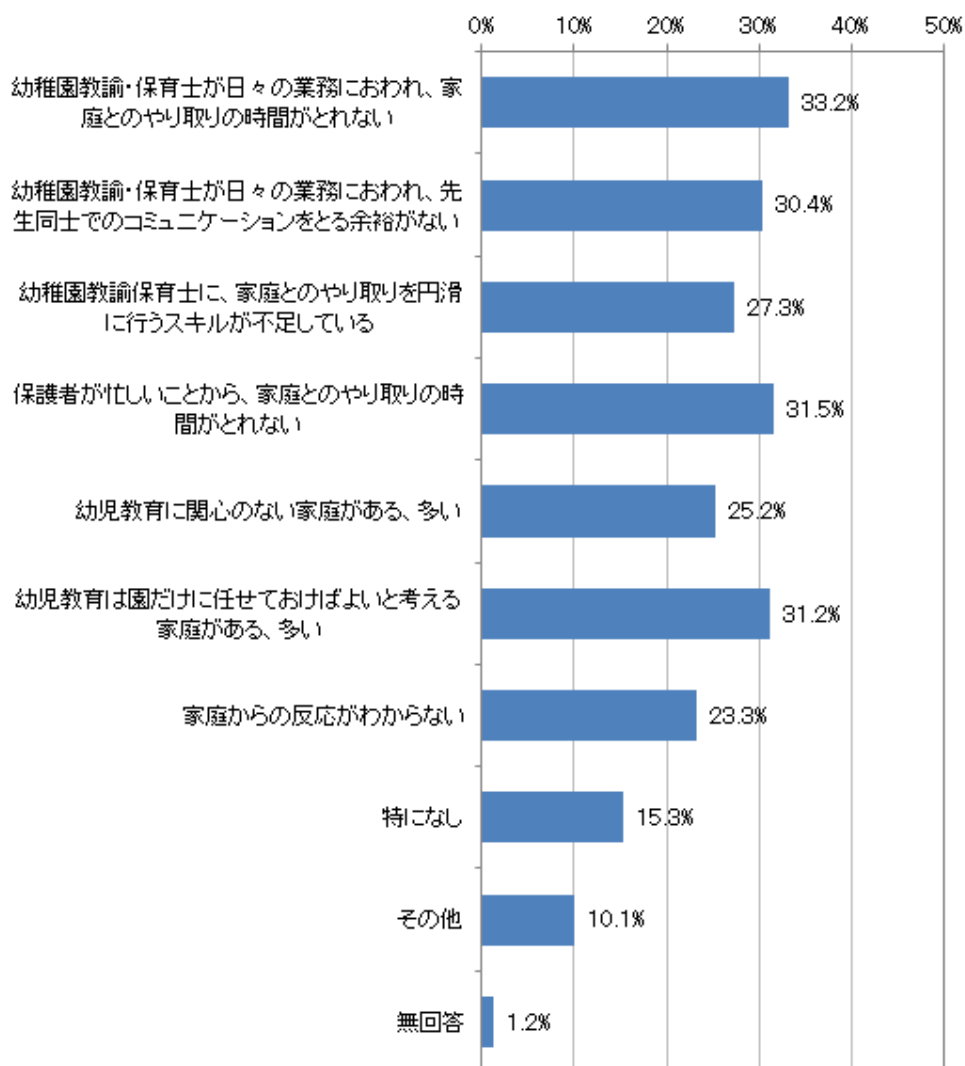
| 登降園の際での会話 |
|---|
| 登降園時には時間の許す限り、子どもの様子、または、子どものつづやきから取れる成長などをお伝えすることで、保護者さまも、家庭で子どもが行うことが、幼稚園で遊びながら学んできたからこそこの活動だったのかと納得される方が多く、感心される方が多くいらっしゃいます。 |
| 降園時は、担任が直接保護者に園児を引き渡すことにしており、その時に短い時間ではあるが保護者とのコミュニケーションがとれている。このことにより、園児の様子を伝えられるとともに、保護者の思いを理解することができ、幼児教育に活かせるようになっている。 |
| 送迎時は、担任でなくても、1日の様子をしっかり伝えるように職員間情報共有を行い、スムーズな引継ぎを実施。そのおかげでか、個人懇談では、子どもの様子より、保護者さんの家庭での育児状況を把握する時間が多いように思います。保護者さんの状況を把握することで、子どもにも保護者にも適切な関わり方ができるようになりました。 |
| 完全送り迎えの園のため、降園時は保護者に保育室に入ってもらい、その日の活動や連絡事項等を伝えていきます。そのため、子どもやクラスの様子、友だち関係などがわかります。トラブルやけが、その日頑張ったことなどの子どもの様子を帰り際にお伝えしています。(担任以外事務などほかの教職員からも声をかけることがあります。) |
| プリント等配布物 |
| 週に1回程度、園から発行する新聞に、行事や日々の遊びや園児の様子やことば等を写真と一緒に載せている。保育では担任のねらいや願いが伝わるように書き、成長を伝えている。担任が出すダイアリーやクラスだよりとは違った目線で副園長が書いている。園での様子がよくわかるとのこと。親子で楽しみにしている様子。 |
| クラス便りを学期毎に作成配布しているが、その中で、園での子どもの育ちや学びについて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基に記載している。また、その際は、文章だけでなく写真など用い、視覚的にも分かりやすいような工夫を行っている。 |
| 保育参観日の開催 |
| 保育参観の前に、それまでの遊びの様子をスライド形式で30分ほど、写真を見せながら担任が解説する時間を設けています。そこで子どもたちの体験や、今の時期に大切にしていることなどが伝わった中で、参観(保育参加)を迎えることができます。 |

| |
|--|
| 掲示物 |
| <p>降園時にその日の幼児の遊びや生活の一場面を撮影した写真(A4～A3 サイズに拡大)を見せながら、幼児が経験していることやそれによって得られる成長について簡潔に伝えたり、コメントを記載して掲載したりしている。保護者に幼児が遊びや生活を楽しんでいる様子をより知っていただき、保護者の安心感に繋がっただけでなく、遊びを通して学ぶことの大切さを感じていただく機会となりました。また、その取り組みにより、教師の保育に対する捉えが確かなものになってきたことを感じます</p> |
| <p>活動で子ども達が作った物や子ども達の考えをまとめた物などを掲示することで、保護者に理解してもらっている。</p> |
| <p>定期的に模造紙に遊びの様子や学びについてポートフォリオしたものを掲示し、保護者はもちろん、来園された地域の方や小学校教員などがそれを見て読んで感じたことを気軽に付箋に書き込み添付する取り組みをしている。一方的な園側からの発信ではなく閲覧者がどう感じているのか、園側が伝えたいことがどう伝わったかが分かる。</p> |
| 連絡帳 |
| <p>手書きの担任とのやりとりを使用する「連絡帳」はずっと活用している。“紙媒体で手書き”の良さがあり、個人的な悩みや相談など、担任とのつながりに、このような時代だからこそまだまだ活躍の場がある。</p> |
| 園の HP やブログ、連絡アプリ等、SNS |
| <p>SNS（アプリ・ホームページ・インスタグラム）を活用し、子どもの様子や行事の様子を配信したり、コラムとして、教育的意義を踏まえ家庭に伝えている。</p> |
| <p>専用アプリを使用して、週に3回保育の様子を写真付きで伝えている。降園時に話していた内容が、アプリにより具体的に知ることができると保護者からの意見があった。また、年長などは取り組みの過程を伝えるようにしている。</p> |
| <p>「インスタグラム」による日常的な活動の様子を配(週に1～3回) タイムリーに画像を提供しての配信で、園での子どもの様子がすよく分かる保護者には好評。但し、顔出し等には是非について許可を取る、顔だけはボカシを入れる等の配慮をしている。</p> |
| <p>「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、実際に園児の活動の様子を写真（解説を書いて）で載せ、園庭掲示板とコードモン（保護者との情報ツール）を使って、保護者に発信している。</p> |
| 講演会・説明会の開催、入園説明会 |
| <p>学期に1回園長による園生活の写真のスライドショー</p> |

2-2-5 家庭とのやり取りにおける課題

家庭とのやり取りや幼児の様子を伝える取組において課題に感じていることについてきいたところ、「幼稚園教諭・保育士が日々の業務におわれ、家庭とのやり取りの時間がとれない」が33.2%と割合が高く、「保護者が忙しいことから、家庭とのやり取りの時間がとれない」が31.5%と続いている。

図表 2-14 家庭とのやり取りや幼児の様子を伝える取組において
課題に感じていること（複数回答）（n=4,762）

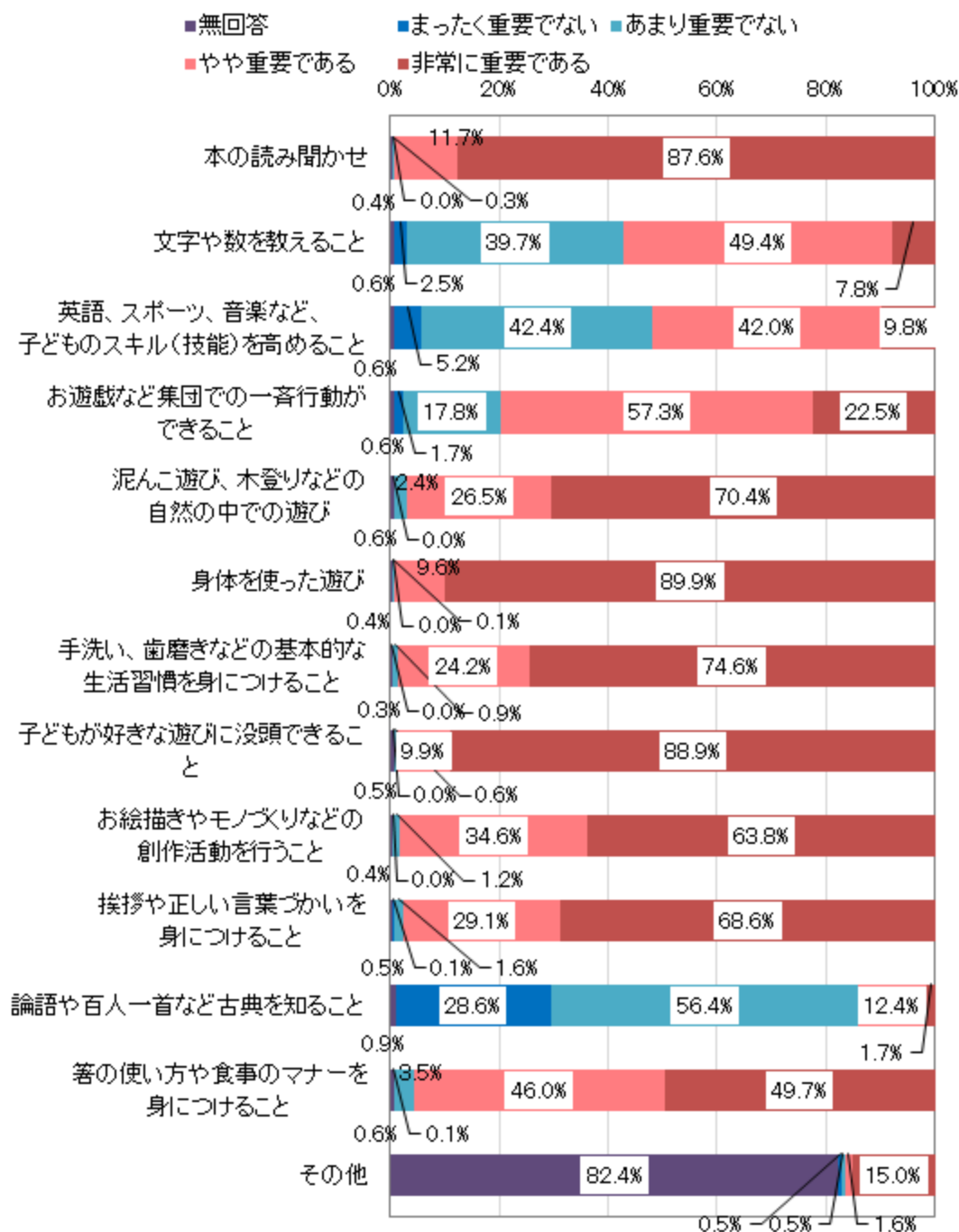


2-3 幼児教育に対する考え方

2-3-1 園の教育内容の重要度

幼児教育施設で行う教育内容としてどれくらい重要であるかについてきいたところ、「身体を使った遊び」「本の読み聞かせ」「手洗い、歯磨きなどの基本的な生活習慣を身につけること」「子どもが好きな遊びに没頭できること」「お絵描きやモノづくりなどの創作活動を行うこと」「挨拶や正しい言葉づかいを身につけること」「泥んこ遊び、木登りなどの自然の中での遊び」「箸の使い方や食事のマナーを身につけること」の項目で「重要（非常に重要である＋やや重要）」の割合が9割以上と高い。反対に「重要でない（まったく重要でない＋あまり重要でない）」の割合が最も高かった項目は85.0%で「論語や百人一首など古典を知ること」であった。

図表 2-15 幼児教育施設で行う教育内容としてどれくらい重要であるか(n=4,762)

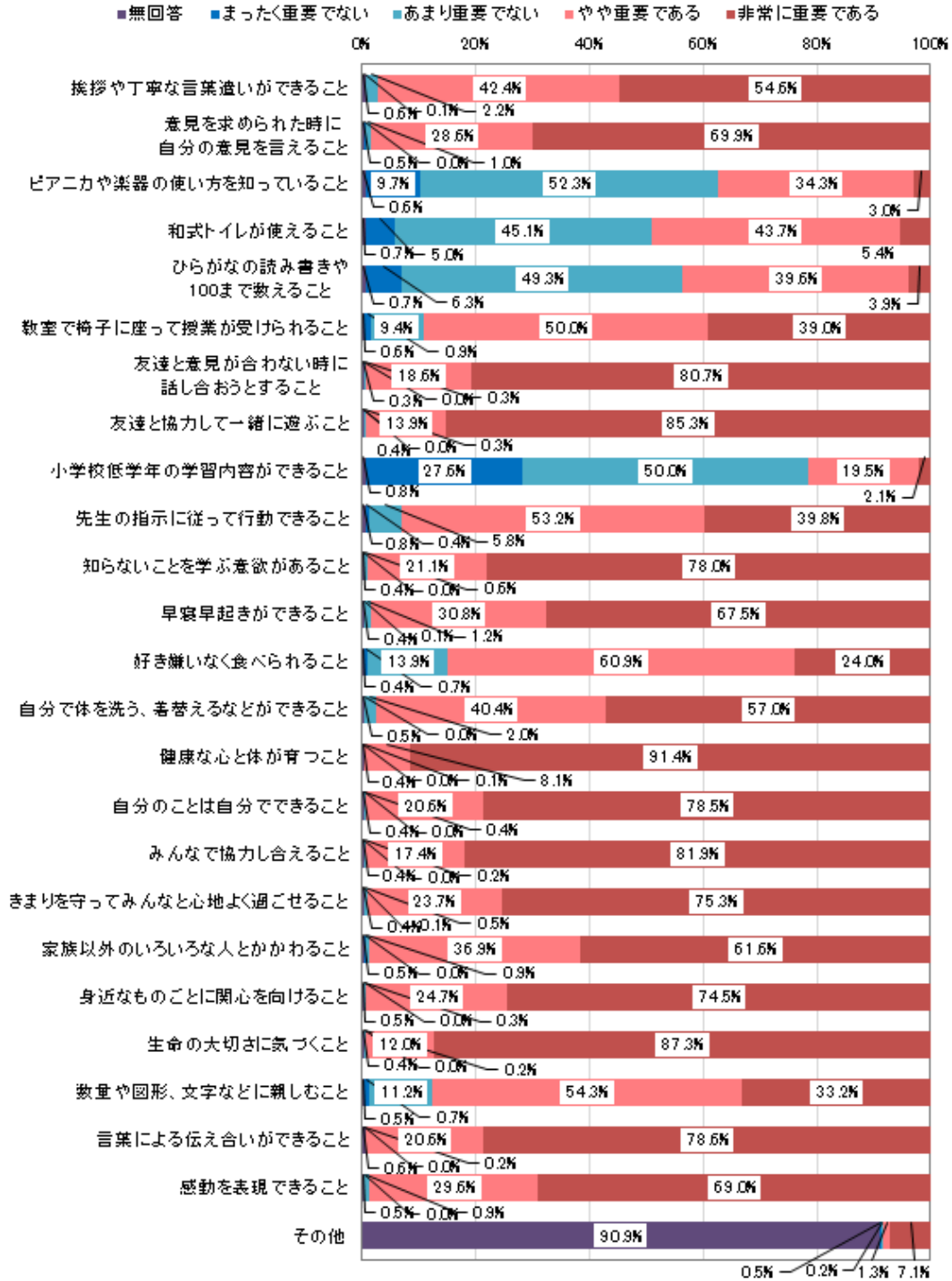


2-3-2 修了（卒園）する時に備わってほしいこと

幼児が園を修了（卒園）する時に備わってほしいこととしてどのくらい重要かについてきいたところ、「健康な心と体が育つこと」の項目で「非常に重要である」の割合が 91.4% と最も高い。次いで「生命の大切さに気づくこと」「友達と協力して一緒に遊ぶこと」「友達と意見が合わない時に話し合おうとすること」が 8 割を超えている。

図表 2-16 幼児が園を修了（卒園）する時に備わっていてほしいこととして
どのくらい重要か(n=4,762)

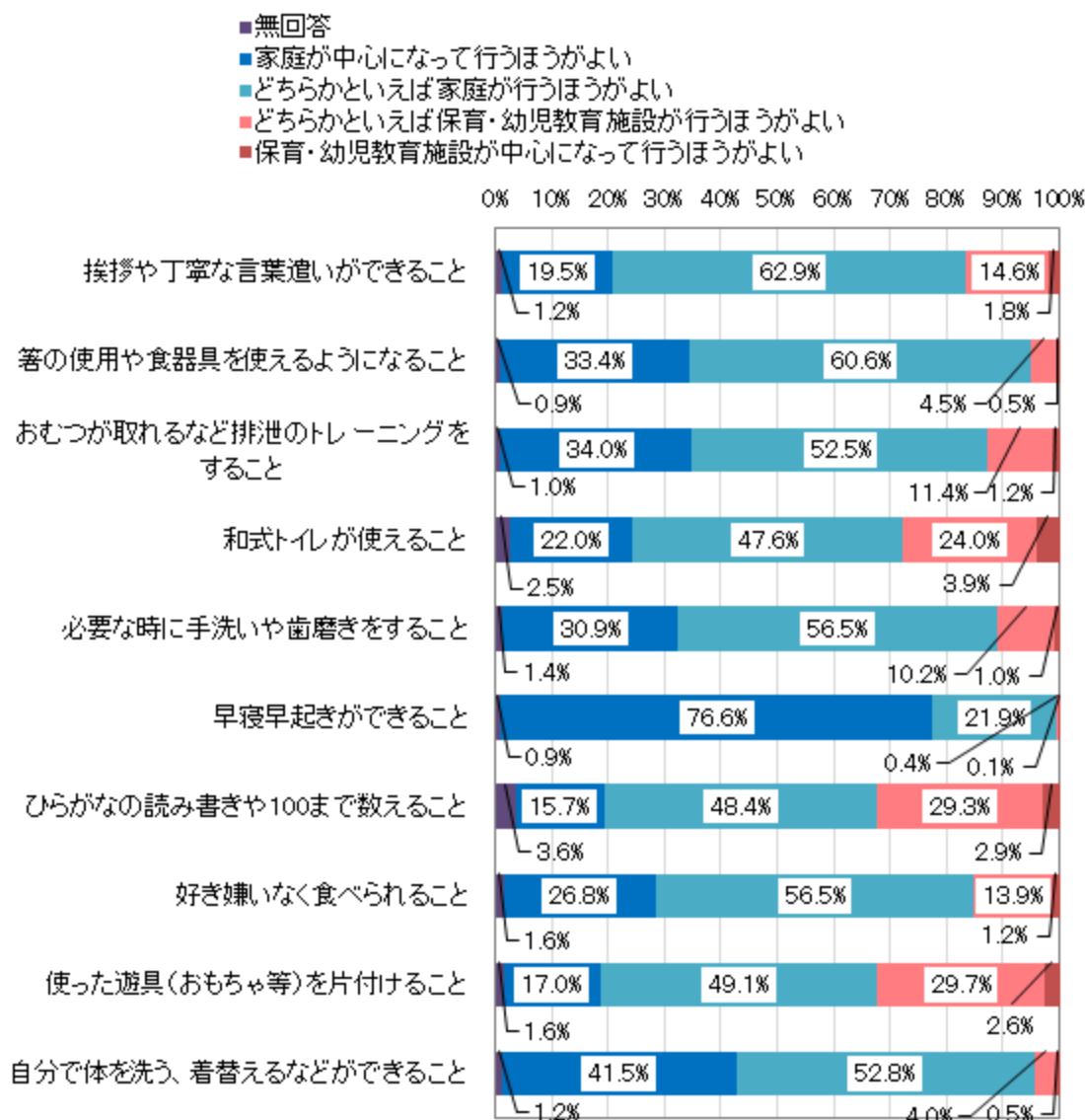
(全体)



2-3-3 幼児教育の主体

幼児教育は幼児教育施設と家庭のどちらが中心になって行うほうがよいと考えているかについてきいたところ、「家庭が中心になって行うほうがよい」の割合が最も高かったのは「早寝早起きができること」の76.6%であった。また、どの項目においても、「家庭が中心になって行うほうがよい（家庭が中心になって行うほうがよい+どちらかといえば家庭）」が7~9割を占めている。

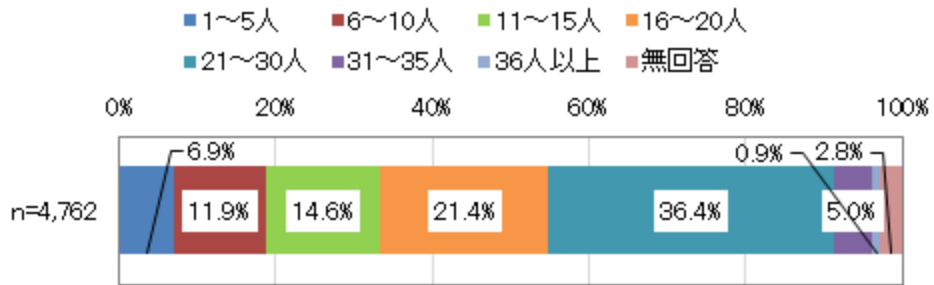
図表 2-17 幼児教育施設と家庭のどちらが中心になって行うほうがよいと考えているか
(n=4,762)



2-3-4 適切なクラス人数

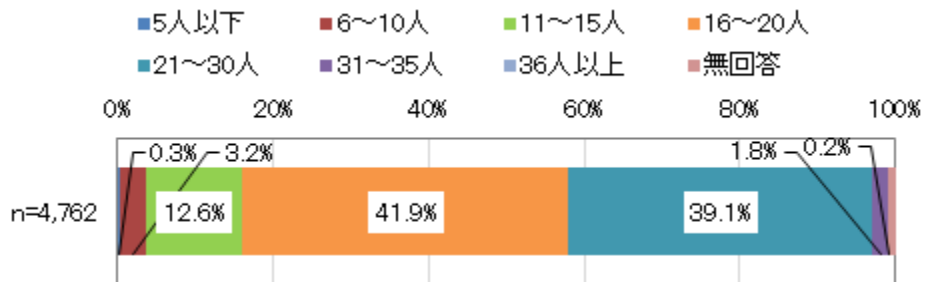
5歳児（年長児）クラスの、1クラスあたりの人数についてきいたところ、「21～30人」が36.4%と最も割合が高く、次いで「16～20人」が21.4%だった。

図表 2-18 5歳児（年長児）クラスの1クラスあたりの人数（n=4,762）



一方、5歳児（年長児）クラスの適切であると思う人数をきいたところ、「16～20人」「21～30人」のいずれも約4割であった。

図表 2-19 5歳児（年長児）クラスの適切であると思う人数（n=4,762）

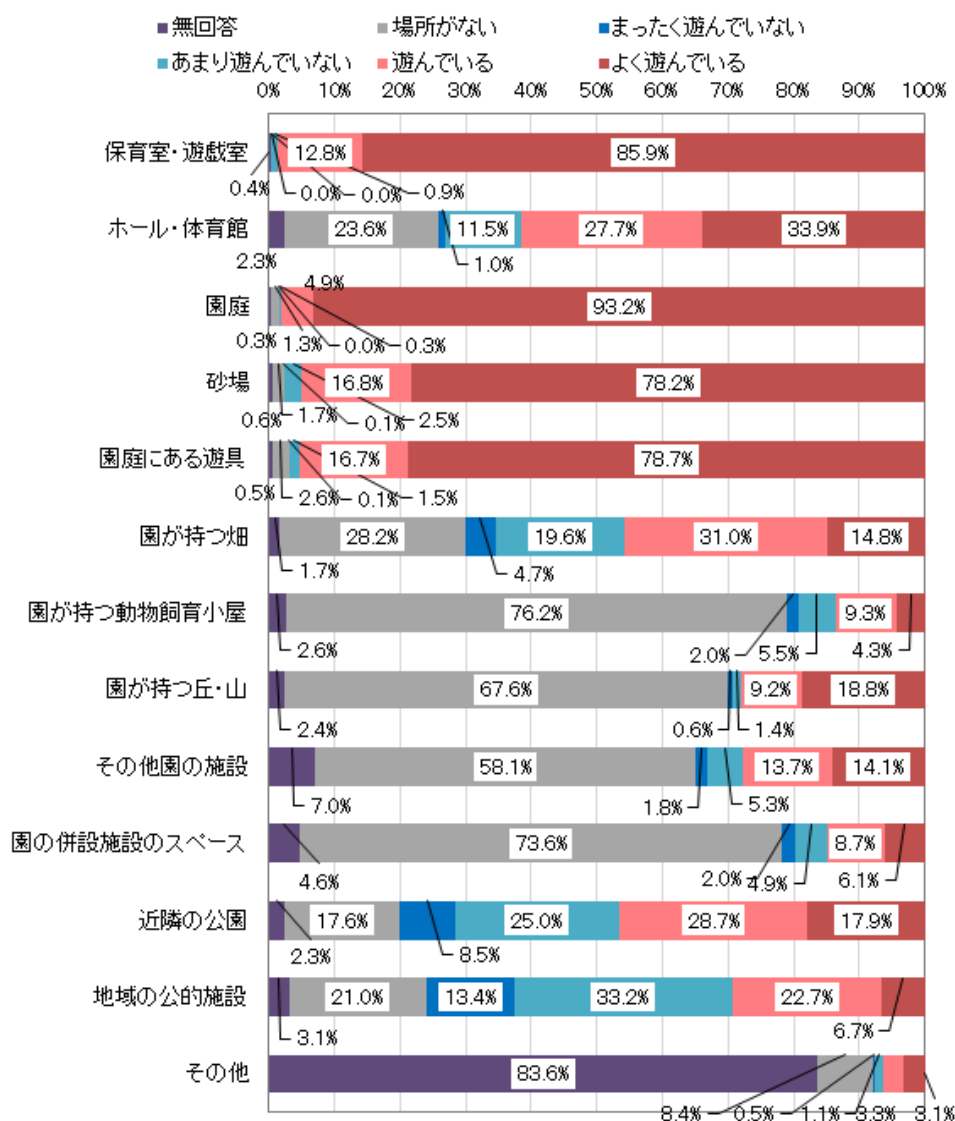


2-4 幼児教育における遊びについての考え

2-4-1 施設内で幼児が遊ぶ場所

施設内で幼児が遊ぶ場所についてきいたところ、「よく遊んでいる」の割合が高かったのは「園庭」「保育室・遊戯室」「園庭にある遊具」「砂場」の順でそれぞれ7～9割の高さである。「遊んでいない（あまり遊んでいない+まったく遊んでいない）」は「地域の公的施設」の46.6%が最も高い。また、「場所がない」割合は「園が持つ動物飼育小屋」「園の併設施設のスペース」が7割を超えている。

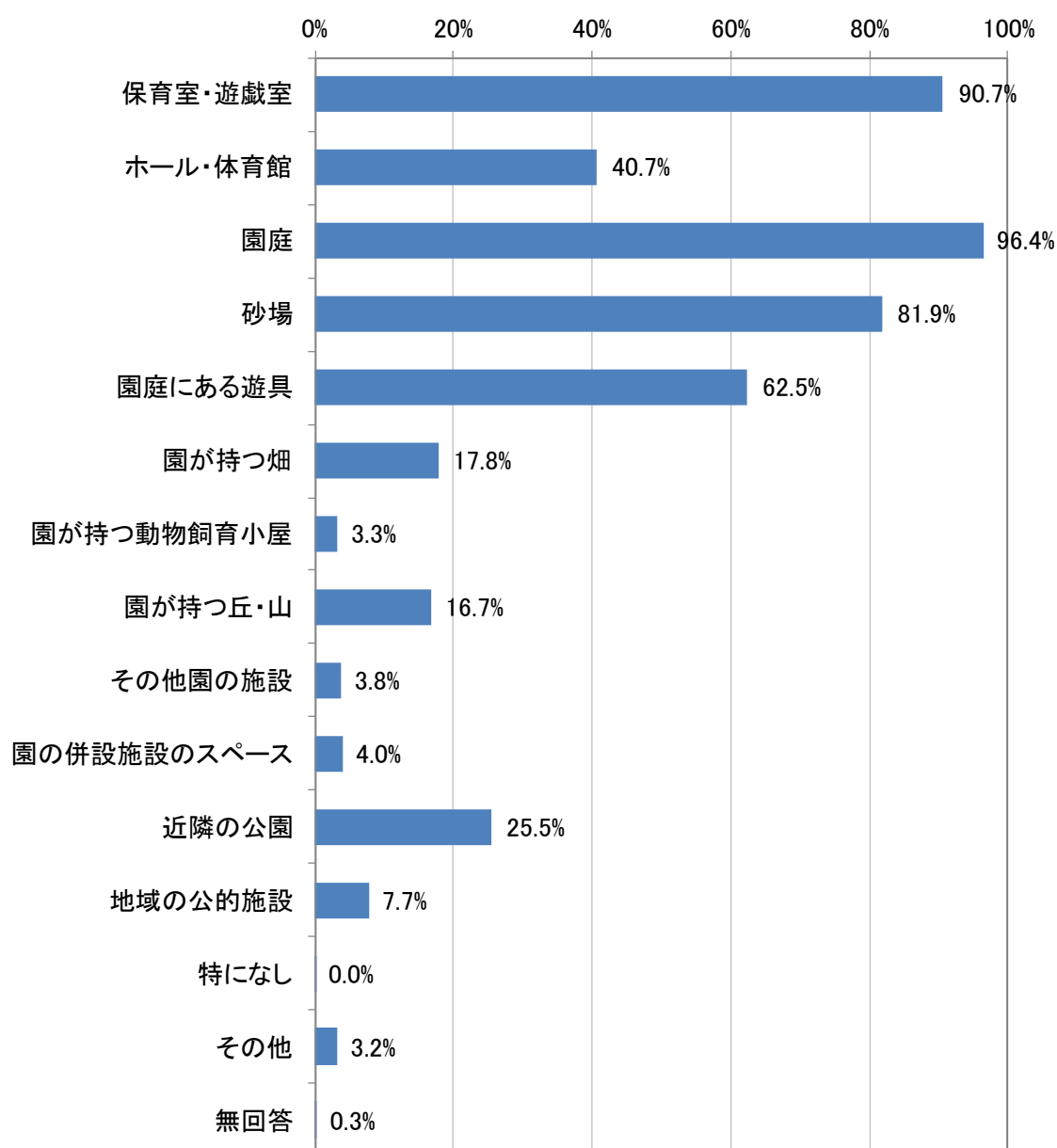
図表 2-20 施設内で幼児が遊ぶ場所(n=4,762)



2-4-2 遊びが盛り上がる場所

幼児の遊びが盛り上がったり、幼児が遊びにのめり込んだりする場所についてきいたところ、「園庭」が96.4%ともっとも割合が高く、次いで「保育室・遊戯室」が90.7%、「砂場」が81.9%と続いている。

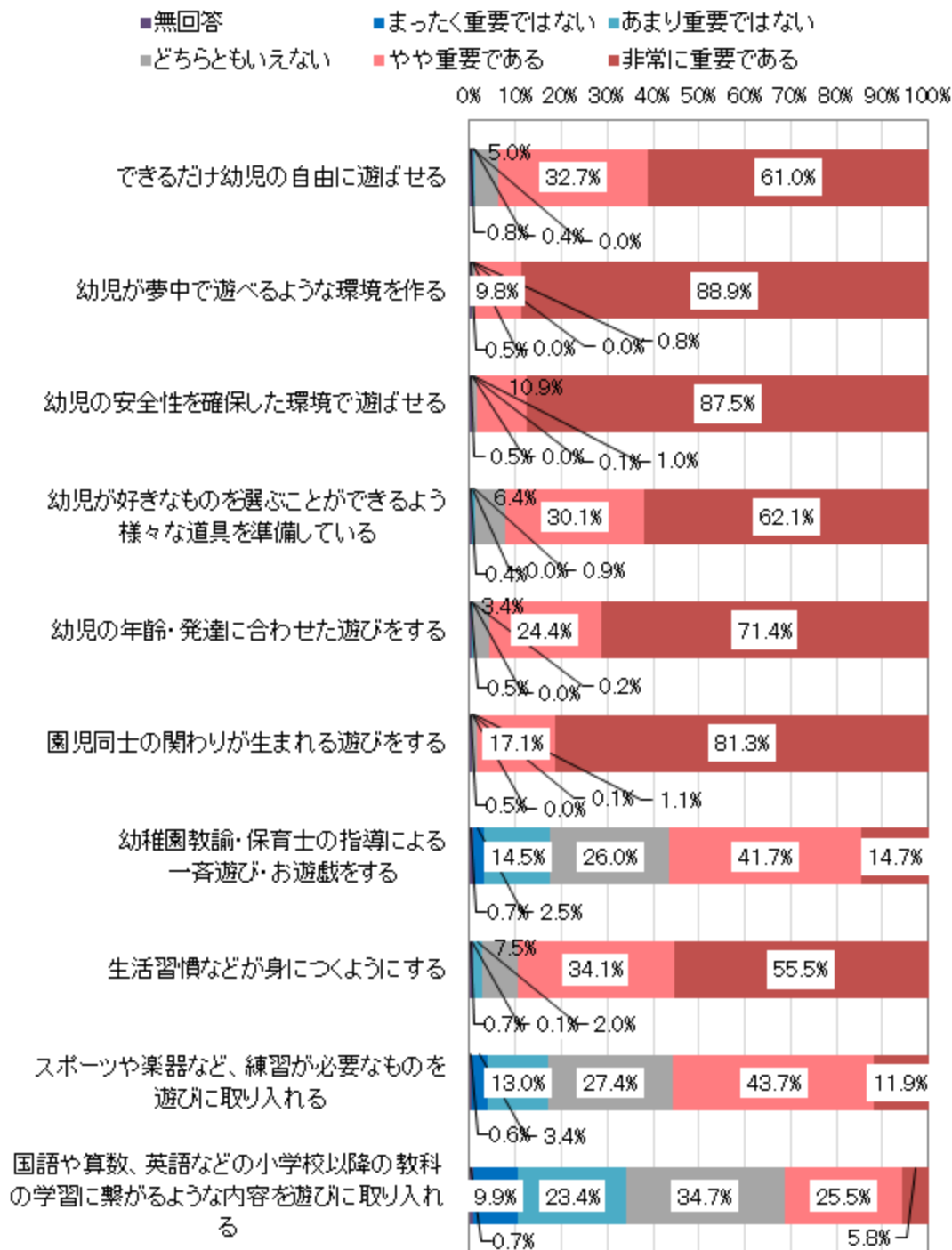
図表 2-21 幼児の遊びが盛り上がったり、幼児が遊びにのめり込んだりする場所
(n=4,762)



2-4-3 遊びを行う中で重要視する事柄

遊びを行う中で重要視している点についてきいたところ、「幼児が夢中で遊べるような環境を作る」「幼児の安全性を確保した環境で遊ばせる」「園児同士の関わりが生まれる遊びをする」の「非常に重要である」の割合が8割を超えている。

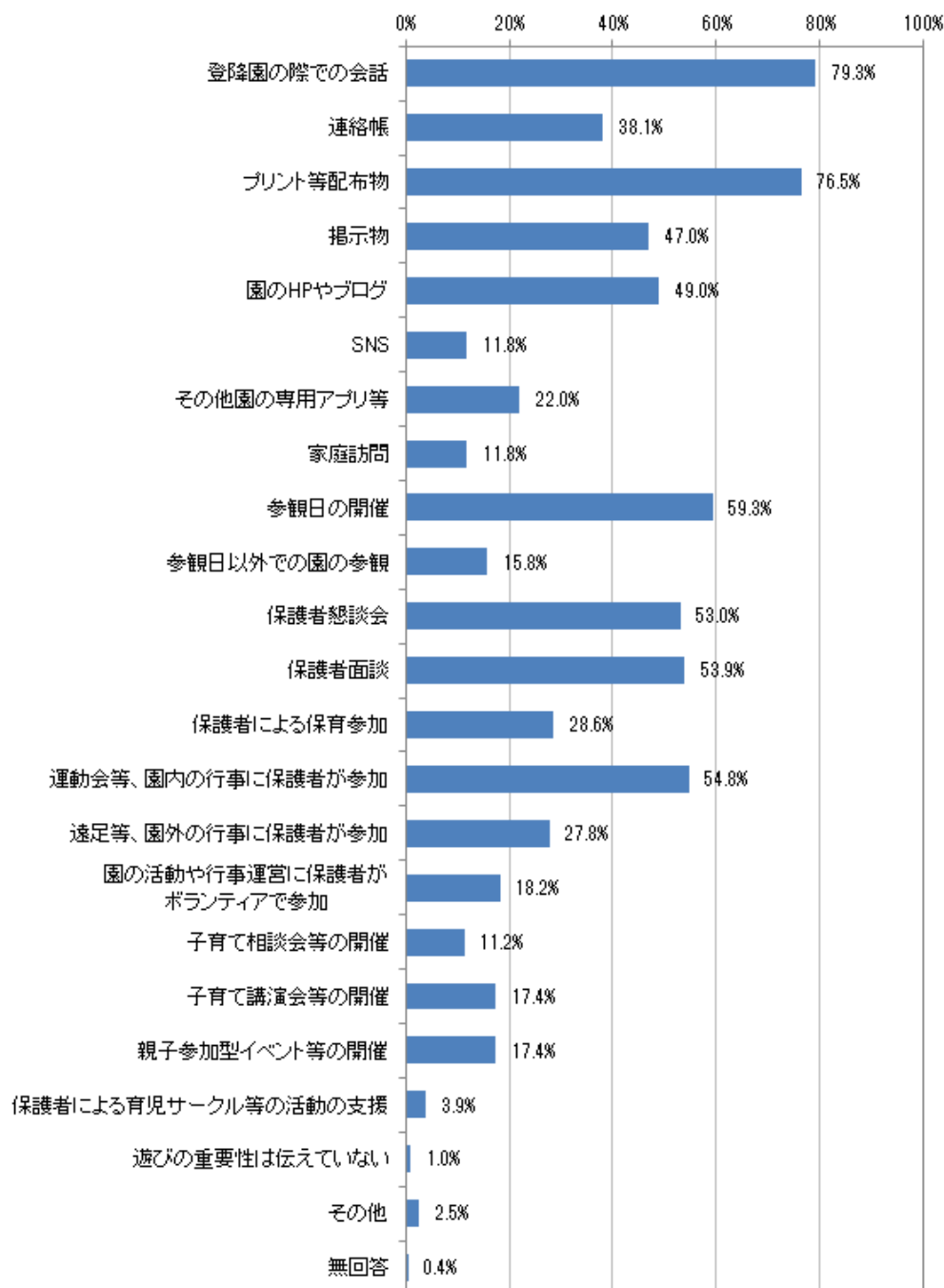
図表 2-22 遊びを行う中で重要視する事柄(n=4,762)



2-4-4 「遊びの重要性」の伝え方

在園児の家庭に対して「遊びの重要性」をどのように伝えているかについてきいたところ、「登降園の際での会話」「プリント等配布物」の順で7割を超える割合である。次いで、「参観日の開催」「運動会等、園内の行事に保護者が参加」「保護者面談」「保護者懇親会」が5割を超える割合で続く。

図表 2-23 在園児の家庭に対して「遊びの重要性」を伝える方法（複数回答）（n=4,762）



2-4-5 「遊びの重要性」を伝える具体的方法・内容

「遊びの重要性」を伝える具体的な方法や内容について、自由記述から主なものを紹介する。保護者に、子どもがどのように遊んでいるか実際の様子を伝えるとともに、遊びを通じてどのような経験を重ねているか、どのように成長しているかを、経過とともに伝えるようにしている。

図表 2-24 「遊びの重要性」を伝える方法について、具体的な方法や伝えた内容
(自由記述) (回答数:2,350)

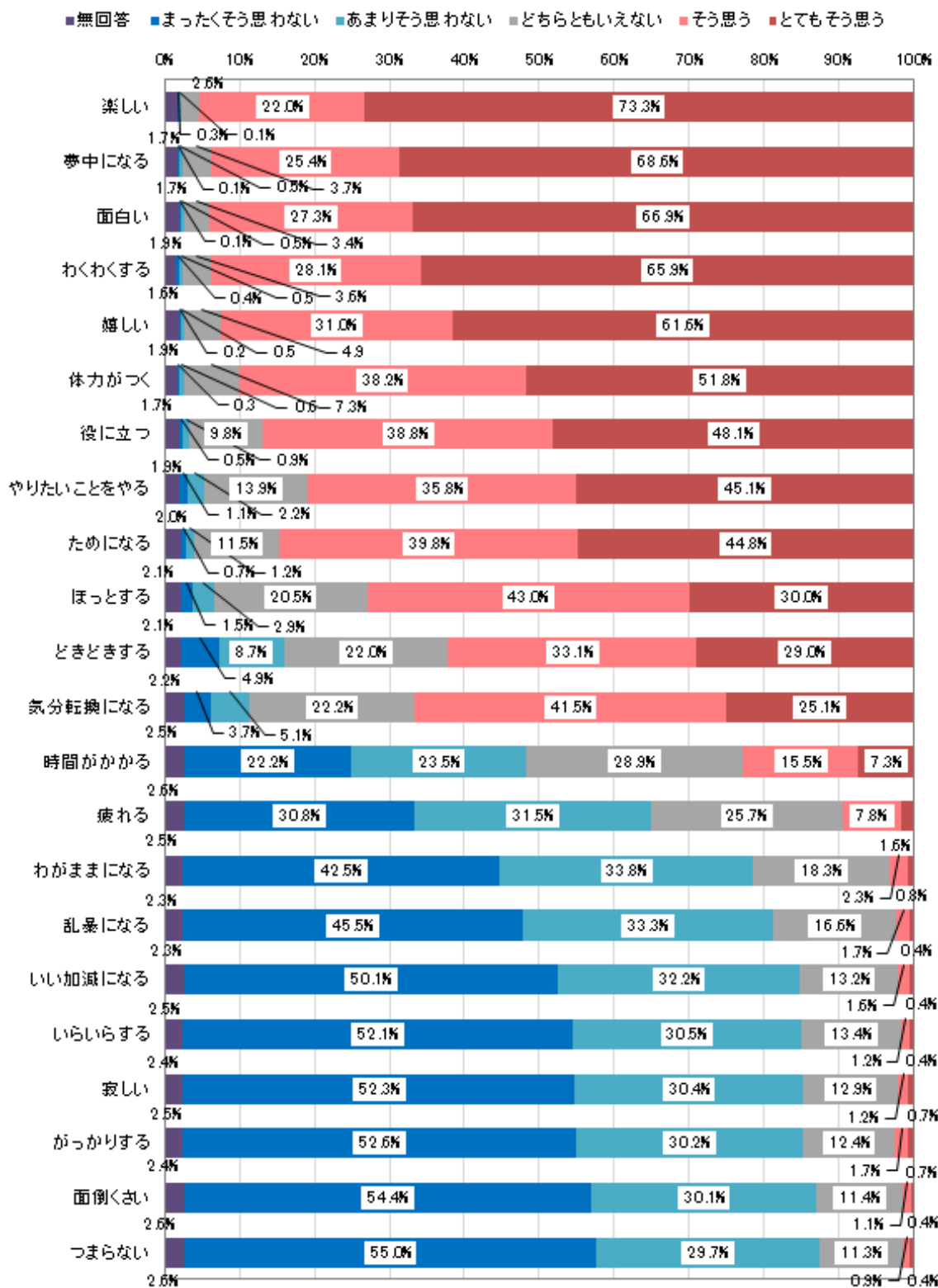
| |
|--|
| 登降園の際の会話で伝える |
| 登降園時の会話のなかで、個別にその幼児の育ちや成長を伝える。その際幼児が遊びのなかでさまざまな経験を重ねていることを伝える。 |
| 保護者の行事参観・参加（開催時における説明等） |
| 行事の前に、なぜこの行事をするのかという旨を園長の挨拶とともに保護者へメール配信します。子どもにとって練習という概念はなく、遊ぶ事がすべて学びである。上手にできる、ということは幼稚園教育には存在しないし、なにができるようになる、という場所でもない。こどもが何かをやるうとする力を育むところ。その結果がいつ現れるかわからないのが幼児教育。しかし、子どものやるうとする力が生み出すものは計り知れず、字を書きたいと思えば幼児期でもどんどん書けるようになるのが子どもです。というようなことを行事にみあった言葉でお伝えしています。 |
| 行事のたびに、結果ではなく経過が大切であること、その過程を想像して評価するように伝えていきます。 |
| プリント等配布 |
| 定期的なお便り「遊びは学び」を発行し、具体的な子どもの遊んでいる姿から、今、この遊びで、こういう学びの目が育っていることを保護者に伝えている。 |
| 日々の遊びの様子と、教師の願いや子どもの育ちについて定期的に手紙を作成、アプリでもクラスごと遊びの経過などを配信 |
| 保育参観日の開催 |
| 全体保護者会で画像を提示し、幼児の姿をエピソード式に伝えながら、その中で経験している内容や 10 の姿と関連付けながら、伝える。 |
| 子ども達が遊んでいる様子を写真に撮り、クラス懇談会で保護者に見せながら、子どもたちの生活や遊びの様子について話し合い、どんな場面で成長が見られるかなどを伝えて行く。またその中で保育者がクラスで大切にしている事やどんな風に育ってほしいのかなども話している。 |
| 掲示物 |
| ドキュメンテーションを作成し、保育室前に掲示したり園専用のアプリに配信したりして、家族間で共有してもらえるようにしている。また、掲示しているドキュメンテーションを基に、幼児が遊びを通して様々な思いを感じ、学んでいることを保護者により具体的に伝え、更に理解していただけるように努めている。 |
| 保育ドキュメンテーションをこまめに作成して、掲示し、保護者に、遊びの様子や育ち、経験していることなどをタイムリーに知らせている。 |

| |
|---|
| ドキュメンテーションを使用し、遊びの重要性を伝えている。行事を通して、その日の結果ではなく、それまでの子ども達が経験したプロセスが一番大切であることを伝えている。結果に囚われないように日々、伝えていっている。 |
| 園のHPやブログ、連絡アプリ等、SNS |
| まずはアプリによる、園児の姿から、具体的に伝える。遊びの意味や幼児期に大切にしていきたいことを繰り返し場をとらえて伝えている。時として、懇談会を開催し重要性を話し合う場も作った。 |
| 毎日のブログで、自由に遊ぶ様子をお伝えして、その中で人間関係や遊び方、問題解決、創造性の発揮などの学びがあることをお伝えすることが多い |
| 保護者専用のアプリや配布のプリントなどで園での子どもたちの遊びの様子を見える化しながら、子どもたちが遊びによって身につけている力や気持ちなどを文章でつたえている。また、個人的には送迎時に保護者にできるようになったことを伝えたり、身につけてほしい部分のある園児に対しては方法などの提供をしている。 |
| 遊びを通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が育つことを、園庭掲示とコドモン（通信アプリ）を使って伝えている。 |
| 親子参加型イベント等の開催 |
| 保育参加・保育ボランティアなど幼児と一緒に遊ぶ機会を作り、その中で幼児の経験を伝える。 |
| 講演会・説明会の開催、入園説明会 |
| 登降園時の会話のなかで、個別にその幼児の育ちや成長を伝える。その際幼児が遊びのなかでさまざまな経験を重ねていることを伝える。 |
| ・写真等を使い「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連して、遊びの中で幼児が経験していることや学んでいることを伝える。（掲示物・スライドショーなど） |
| 入園に当たっての説明会で「子どもは遊びを通して学んでいる」「幼稚園は、唯一教科書を持たない学校である」「教科書の代わりに興味・関心・意欲のもてる『遊び』がある」ことなどをパワーポイントなどで分かりやすく説明している。入園後は、行事の当日などで、はじめの説明の際、子どもたちの遊びが発端でここまで意欲的にどの子どもも楽しんで取り組んできたなどの様子を伝えたりしている。 |
| その他 |
| 遊びは、大人が考える遊びと違うこと。子どもの遊びは、自分の意見を伝えたり相手の話に耳を傾けたり磯長ら協調性を学んだり、ルールを守る事、思いやりや時にはトラブルを経験しながら人間関係を学ぶ大切な学びの場となっていることを都度お伝えしています。 |
| 幼稚園教育要領の文言や、研究者の文献から、参考となる部分を引き、具体的な実際のこどもの姿と合わせながら、伝えるようにしています。 |

2-4-6 幼児教育施設での遊びについて持つイメージ

幼児教育施設での遊びについて持つイメージについてきいたところ、「楽しい」「面白い」「夢中になる」「わくわくする」「嬉しい」「体力はつく」の項目で「そう思う（そう思う＋とてもそう思う）」の割合はいずれも9割を超えている。それに対し、「つまらない」「面倒くさい」「がっかりする」「寂しい」「いらいらする」「いい加減になる」の項目では「そう思わない（あまりそう思わない＋まったくそう思わない）」の割合は8割を超えている。幼児教育施設での遊びはネガティブなイメージよりもポジティブなイメージが強い傾向がある。

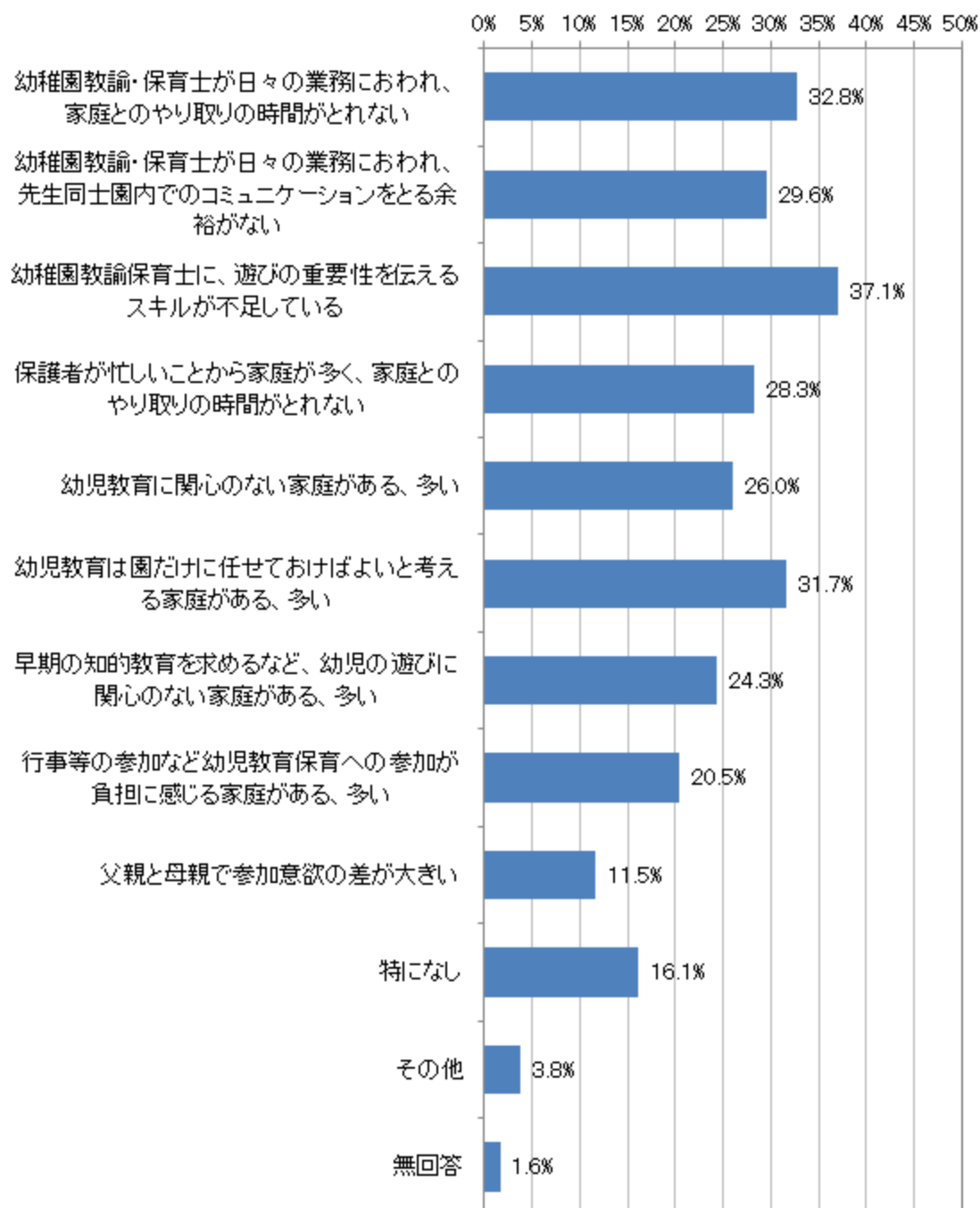
図表 2-25 幼児教育施設での遊びについて持つイメージ(n=4,762)



2-4-7 家庭と「遊びの重要性」について認識を共有する中での課題や問題

家庭と「遊びの重要性」について認識を共有する中での課題や問題についてきいたところ、「幼稚園教諭・保育士に、遊びの重要性を伝えるスキルが不足している」「幼稚園教諭・保育士が日々の業務におわれ、家庭とのやり取りの時間がとれない」「幼児教育は園だけに任せておけばよいと考える家庭がある、多い」の項目が3割を超えている。その中でも「幼稚園教諭・保育士に、遊びの重要性を伝えるスキルが不足している」が37.1%と最も高い。

図表 2-26 家庭と「遊びの重要性」について認識を共有する中での課題や問題
(n=4,762)



2-4-8 幼児教育施設での遊びのあり方に関する意見

自由記述から幼児教育施設での遊びのあり方に関する意見として、例えば以下のようなものがあげられた。

図表 2-27 幼児教育施設での遊びのあり方に関する意見（自由記述）（回答数：768）

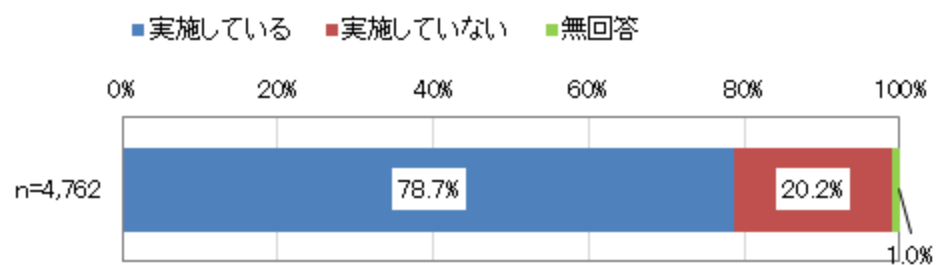
| 「遊びは学び」に取り組むことについての意見 |
|---|
| 遊びは日々の連続性が大事だと感じます。一つの遊びから、子どものつぶやきや興味から広げたり、保育教諭がねらいをもって環境を整えたりしながら、展開していくことが大事だと思っています。 |
| 幼児にとっては遊びから様々な学びがある。夢中になって遊ぶことで思考力、意欲が育ち、友達や学級の仲間との協調性が育まれる。教育施設は遊びが確保できる環境や時間の確保、幼児の遊びを支える教師の指導力や発信力が不可欠である。 |
| 「遊びは学び」を家庭に伝えることについての意見 |
| 遊び＝学びの場面であると考えているが、幼児教育＝勉強という家庭が多い。遊びとは興味が待てる楽しそうな物であり、答えではない。考えたり工夫したり試したり、最後までやりとげようとすることを楽しむ過程。心身共に教育に学びに向き合える基礎を育てる事が遊びのあり方だと考えている。 |
| 遊びの中にごそ学びがあります。質の高い教育を求める家庭は増えているが、幼児期の教育における質が、幼児の発達と興味関心に合った環境が用意される中で主体的に遊び込み、そこに専門性を備えた保育者が適切な援助を行うことによって得られるものであることを、保護者に伝える難しさを感じている。園につながる保護者には実際に見たり考えたりする機会を提供して伝えることができるが、どうしても限られた人数になる。これを園だけで進めるのには限界があり、国を挙げての施策になることを期待している。 |
| 幼稚園教諭・保育士自身における、「遊びは学び」への理解についての意見 |
| 幼児に遊びが重要なのは、幼児教育の基本であり、どの施設でも職員はそれをしっかりと認識してほしい。職員研修が大切なのではないかと考える。 |
| 若い保育士にもっと遊びを教えていく必要がある。こどもの見方、発達の勉強をしていく機会を作らなければならぬと思う |
| 幼児教育施設での「遊びは学び」の理解・実践方法の違いについての意見 |
| 今だに、貴重な遊びの時間を奪い、小学校教育の先取りのようなことをしている施設が多く見られる。保護者からの要望を受けて行なっている、という施設も少なからずあるようなので、教員と保護者の両方に、公の機関から遊びの重要性を知らせる手立てが必要である。 |
| 首都圏は私立が多いので、競争があり、遊びの重要性を認識していてもなかなか入園前の一般の方には伝わりにくく、どうしても勉強や英語、習い事などで特色を出すようになっており、自由に遊ぶ時間の少ない子どもがかわいそうに感じている。 |
| その他 |
| 世間や小学校の先生が、幼稚園で先取り教育や指示通りに動ける子どもを育ててほしいという希望がいまだにあることが、問題だと思う。遊びの中で幼児は主体性や協働性が育つ幼児教育は学校教育のベースになることをもっと浸透して行ってほしい。 |

2-5 地域との連携状況

2-5-1 地域との連携に関する取組の有無

地域と連携を取った取組実施の有無をきいたところ 78.7%が「実施している」と回答。

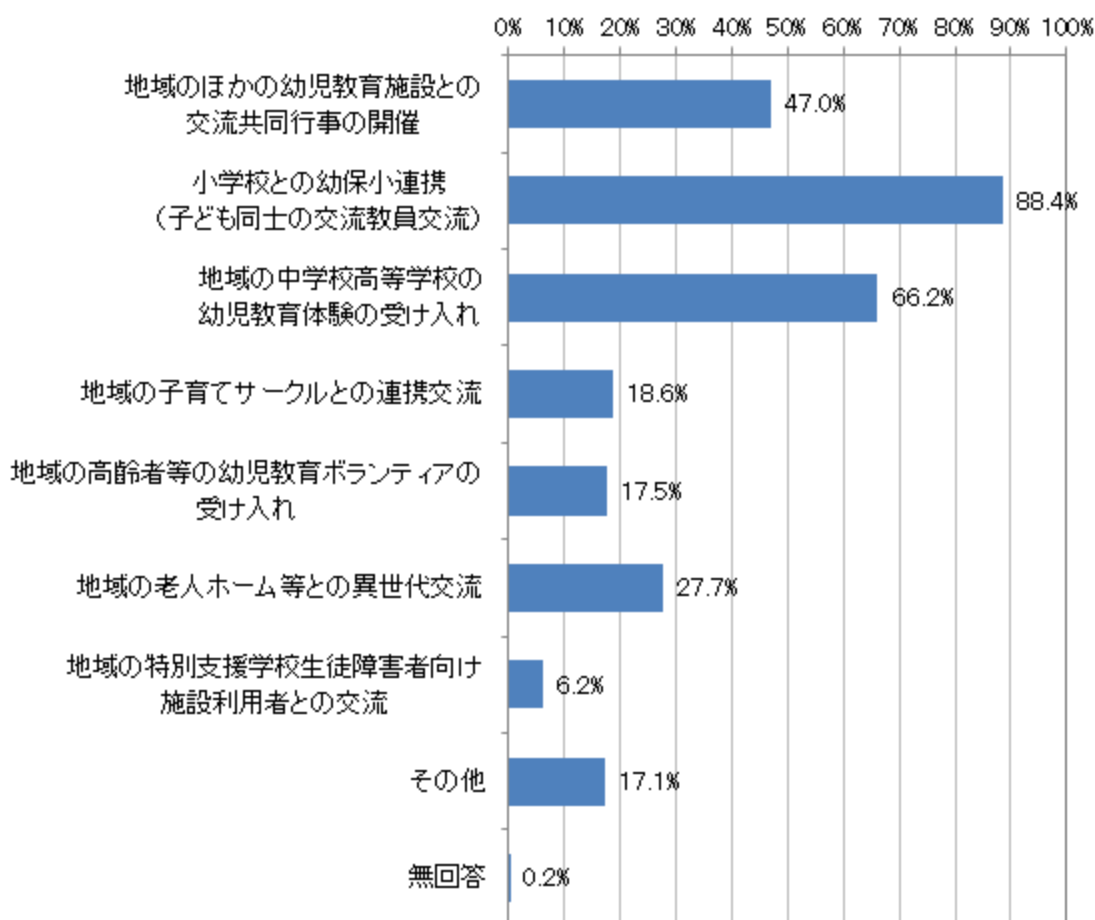
図表 2-28 地域と連携を取った取組実施の有無(n=4,762)



2-5-2 地域との連携に関する取組の具体的な内容

地域と連携を取った具体的な取組の具体的な内容をきいたところ、「小学校との幼保小連携（子ども同士の交流教員交流）」が88.4%と最も高い。次いで「地域の中学校高等学校の幼児教育体験の受け入れ」が66.2%で続く。「地域の特別支援学校生徒障害者向け施設利用者との交流」が最も低く、6.2%であった。

図表 2-29 地域と連携を取った具体的な取組の具体的な内容（複数回答）（n=4,762）



2-5-3 地域と連携の特徴的な取組

自由記述から、地域と連携の特徴的な取組を紹介する。

図表 2-30 地域と連携の取組で、特徴的な取組（自由記述）（回答数：908）

| |
|---|
| 地域住民・高齢者との交流、ボランティアの受け入れ |
| 地域の方のバイオリンコンサートやチェロとピアノのコンサートの実施。・ボランティアによるパネルシアターやお話会の実施。園の行事に地域の親子や高齢者も招いて、一緒に参加する。 |
| 地域のボランティアとの交流で、畑での栽培について日頃から指導していただいている。 |
| 地域のお年寄りのグループに来ていただいて、一緒に草花で遊んだり、サツマイモの苗植えをしたり、運動会の競技に参加していただいたりしている。 |
| 地域の子ども・生徒・学生の受け入れ |
| “先輩さん”という名称で、卒園生が休校日に幼稚園に遊びに来て保育に入ることができる |
| 小学6年生以上の夏季ボランティアの受け入れをしています |
| 地域の中学生の「社会に学ぶ14歳の挑戦」で毎年数名の中学生を受け入れているが、学生たちは「幼稚園の先生の仕事は、ただ子どもと遊ぶだけではなく、たくさんの仕事があることが分かった。先生たちが毎日子どもたちのために心をかけていることなどが分かった」と感想を述べている。仕事への責任感とやりがいを感じてくれると嬉しく思う。体験した子が将来一人でも多く幼児教育の現場で働いてくれることを望んでいる。 |
| ひろば事業でのかかわりから、上記の様々な取り組みが実施できています。また、近隣に都立高校があり、家庭科担当の先生との連携により、高校生との交流が生まれています。また、園長が近くにあるまちづくりセンターの社協の地域福祉推進委員のため、高齢の方がひろばへ子育てボランティアに来てくださいます。 |
| 幼保小連携の取り組み |
| 地域の学校と合同の学校運営協議会を設置し、情報交流等を進めている。その場で、園の状況を理解してもらい地域の町内会の協力を得て園の遊具の修繕に取り組んで頂いた。 |
| 小学校の体験入学に教師も引率している、また、入学した園児の様子を幼稚園教諭が参観する日を作っている。1年生の小学校の先生にも、5才児の運動会のりズルを見てもらったり、交流をしている。 |
| 保幼小連携では、小学校の先生方に園での子どもたちの様子を見ていただいたり、共に遊んでいただいたり、カンファレンスを行うことで、入学前に様子がわかったり、園としても卒園までにどのようなことをしたらよいか等具体的な話ができるので、年長クラスを中心に積極的に行っている。 |
| 地域の学校と合同の学校運営協議会を設置し、情報交流等を進めている。その場で、園の状況を理解してもらい地域の町内会の協力を得て園の遊具の修繕に取り組んで頂いた。 |
| その他 |
| 近畿中国森林管理局と悠々の森の協定を結び、「森の幼稚園」を実施している。また実施にあたり、地元のボランティアの方にも協力してもらい、事前の安全確認や、当日森での、園児たちの安全の見守りをして頂いている。 |
| 「伝統芸能と地域への愛着をもてる子どもに」という願いから、地域の方々により芸能指導をしていただいています。地域の夏祭り・芸能祭り・敬老会で地域の方々に披露したり、運動会・発表会では家族に披露しています。 |

2-6 家庭や地域とのやり取り、連携に関する意見

自由記述において、家庭や地域とのやり取りや連携に関して、次のような意見があげられた。

図表 2-31 家庭や地域とのやり取りや情報共有、連携についての意見（自由記述）
（回答数：930）

| 家庭とのやり取りや連携に対する意見 |
|---|
| <p>家庭や地域との情報のやり取りは個人情報の保護があったり、ゆっくりと時間が取れなかったり、保育園側ほど保護者が知りたがらなかつたりで、難しいと思います。伝えたい事も聞き流されてしまったり、園のお便りでさえも読まない家庭があり、情報共有やコミュニケーションをとることはとても難しく、ずっとついて回る課題だと思います。</p> |
| <p>家庭と年2回実施している個人面談だけではなく、登降園時を利用し子どもの様子を伝えたり、保護者の不安や悩みを受け止めたりして子どもの成長について共に考えている。配慮を要する幼児が多いため、地域の発達支援センターや児童相談所とも連携し、情報共有を行なっている。</p> |
| <p>新興住宅地と旧村との融合が進む町では、今までのコミュニケーションの手立てとSNSを活用しつつも今までの続いてきた祭りや地域行事も大切にしながら新しいコミュニティが再生されようとしています。幼稚園が就学前教育の中心としての役割を果たしていくのであれば、その体制をつくることで、家庭や地域との情報共有連携につながっていくことと思います。幼児教育施設の社会のなかでの立ち位置が決まれば議論にならないと思います。</p> |
| 地域連携に対する意見 |
| <p>こども園になったことで、地域資源と家庭をつなぐ役割の重要性について考えるようになってきている。そのためには教職員の意識改革や地域活動に参加できる勤務体制のゆとりが必要であり、現状では思いがあっても実現できない。今後の課題である。</p> |
| <p>本園では、学校運営協議会で、委員さんたちによる保育参観や情報共有の場を設けており、幼稚園の応援団として助言をいただいています。また、地域の行事に参加して、地域の方々にも応援団として協力していただいています。</p> |
| <p>ICTの導入により、家庭との情報共有はしやすくなったが、地域への情報発信ができにくく、どのような方法で伝えていくかが課題である。</p> |
| <p>閉鎖的な所が保育園にはあるので地域との連携をしっかりと行うには、どうすればよいか？ 難しさを感じることはあります。地域の子育てに何がニーズかがわかる自治体の目安などがあればうれしいです。</p> |
| 幼保小連携に対する意見 |
| <p>園外活動で地域に出向き、地域を知ることや、地域の良さを伝えることを子どもや家庭にも意識している。市内で、園・小・中・高・地域と繋がった子ども子育てに向けてスクラムスクール運営協議会を行なっている。</p> |
| <p>幼小接続は、小学校に行っても困らないように、ではなく、困ったことがあっても乗り越える力を幼児期に育てることが大切と考える。地域の小学校と子どもの交流と共に、職員同士の交流も取り合っている。</p> |
| <p>架け橋プログラムについて、取り組みをしていくにあたり、小学校との連携をとることが難しいと感じている。小学校側からの「まち探検」などは、積極的に交流を持ってくれるのだが、幼稚園側から保育参観や、行事の交流を願うと「学校は忙しいから」と言われてしまう。校長先生たちは、応じてくれるのに、現場の先生たちの理解や関心の低さが、架け橋プログラムが進んでいかない最大の原因だと感じている。文科省の方からもっと強く進言してもらわないと、現場の先生たちには届かないと思う。</p> |

2-7 まとめ

施設アンケートからは以下のことが明らかになった。

幼児教育施設では、幼児の様子や幼児教育に関する情報を伝えるやり取り・取組の実施において、「登降園の際での会話」「運動会、園内の行事に保護者が参加」「プリント等配布物」など、日頃のやり取りや行事を通じて実施していることがわかった。また、ほかの実施方法においても高い実施率がみられた。

やりとりの内容についても、「幼児の健康状態や日々の生活の様子」「幼児の遊びの様子」「幼児は遊びながら学んでいること」など、いずれの項目においても、「伝えられている（十分に伝えられている+やや伝えられている）」8割を超えるなど、施設側としては様々な内容を伝えていと認識している。

幼児教育の内容や、幼児が修了（卒園）するときに備わってほしいことでは、遊びや周囲との関わりに関する項目を重要視する傾向であることに対し、「英語、スポーツ、音楽など子どものスキル（技能）を高めること」「論語や百人一首など古典を知ること」といった知的教育を想起させる項目は重要視する割合が低いなど、幼児教育施設として重要視するものの濃淡がみられた。

また、幼児教育は幼児教育施設と家庭のどちらが中心になって行うほうがよいと考えるかきいたところ、どの項目においても、「家庭が中心になって行うほうがよい（家庭が中心になって行うほうがよい+どちらかといえば家庭）」が7~9割を占めている。

第3章 保護者アンケート

本章では、幼児教育施設（幼稚園・保育所・認定こども園等）に通う幼児（3歳～5歳の第一子）の保護者を対象に、幼児教育施設とのやり取りや幼児教育に関する情報共有についての実施の認知度・理解度・課題感、求める幼児教育の内容、幼児教育施設における遊びについての理解、幼児教育の情報の取得方法や重要視している事柄についてアンケートを実施した。

3-1 調査概要

調査概要は、下記の通り。

3-1-1 対象

全国の幼児教育施設（幼稚園・保育所・認定こども園等）に通う幼児（3歳～5歳の第一子）の保護者

なお、スクリーニング質問「幼児が通っている幼稚園、保育園、認定こども園の取組や様子について、どの程度、知っていますか」において、「知っている」「ある程度知っている」の回答者を対象とした。

3-1-2 方法

配布：WEB モニター会社（株式会社クロス・マーケティング）より、調査対象に該当するモニターへ配布（配布数 男性：6,247件、女性：9,849件）

回収：WEB アンケート画面からの回答

3-1-3 実施期間

令和5年11月15日～令和5年11月17日

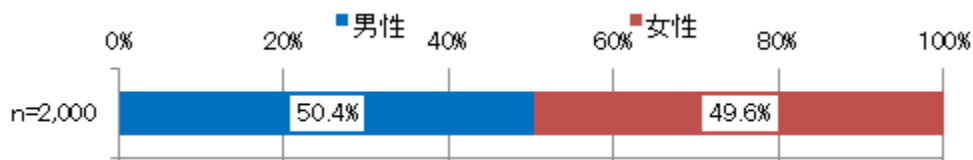
3-1-4 有効回収数

2,000件（回収数 男性：1,008件、女性：992件）

3-1-5 回答者属性

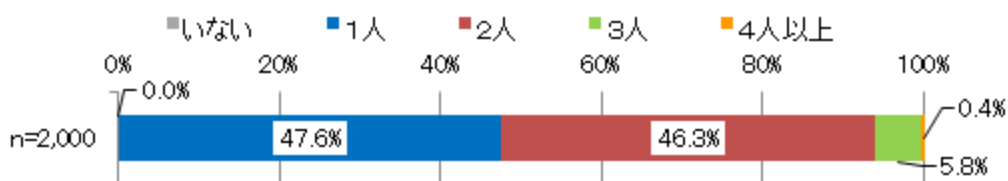
(1)性別

図表 3-1 性別



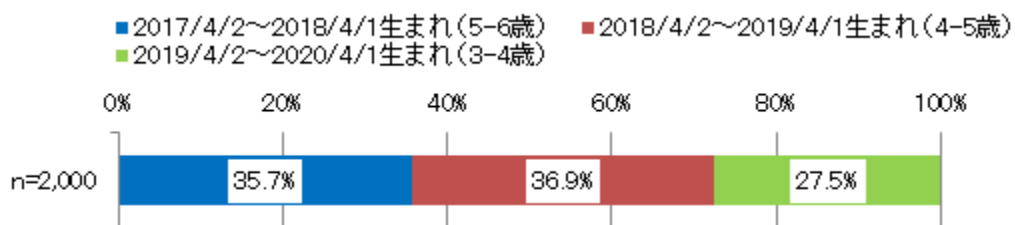
(2)子どもの人数

図表 3-2 子どもの人数



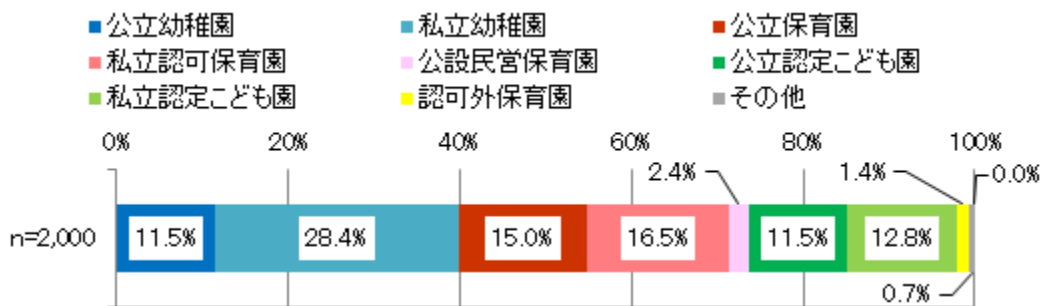
(3)第一子の生年月

図表 3-3 第一子のお子さんの生年月



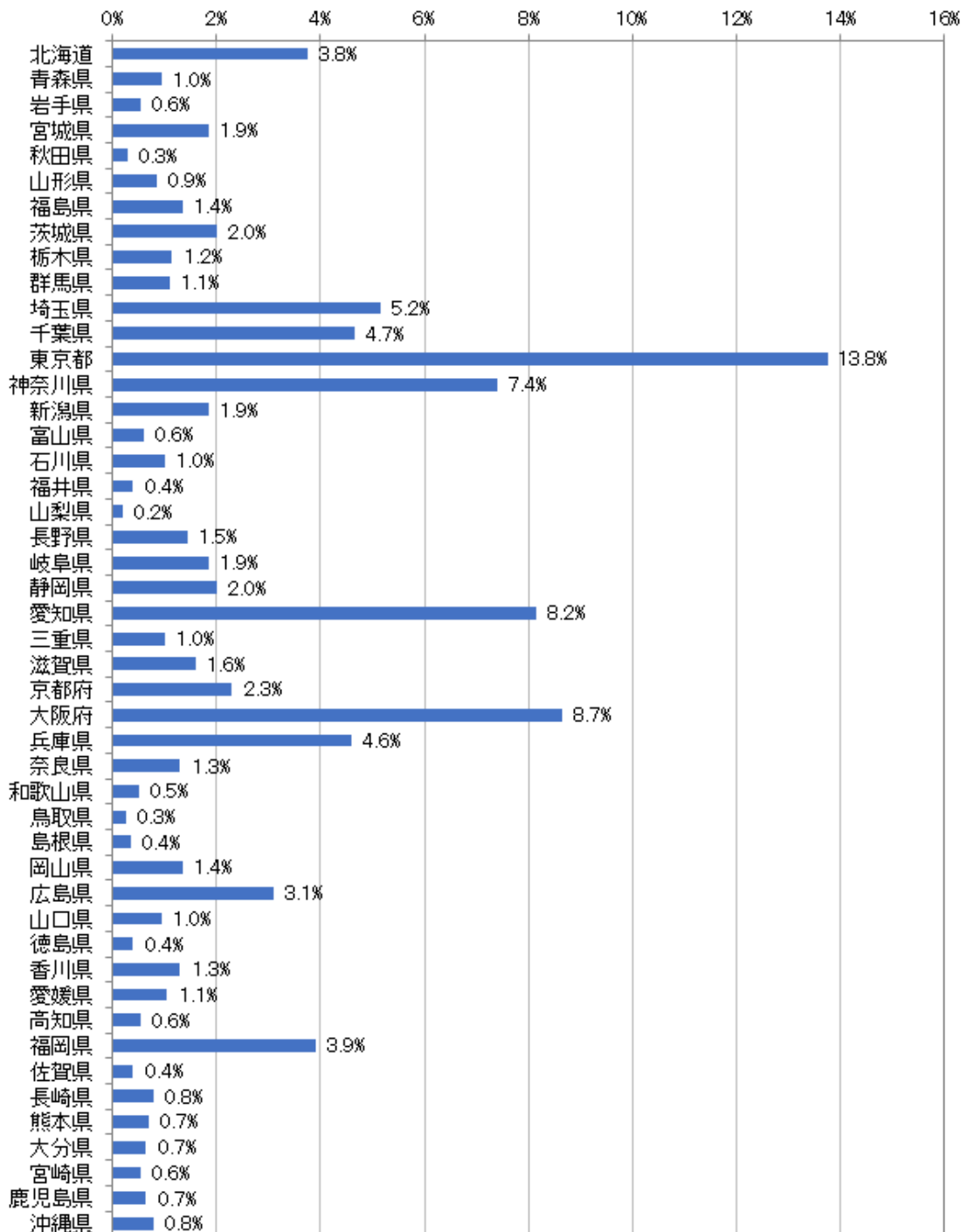
(4)第一子の現在の就園状況

図表 3-4 第一子の現在の就園状況



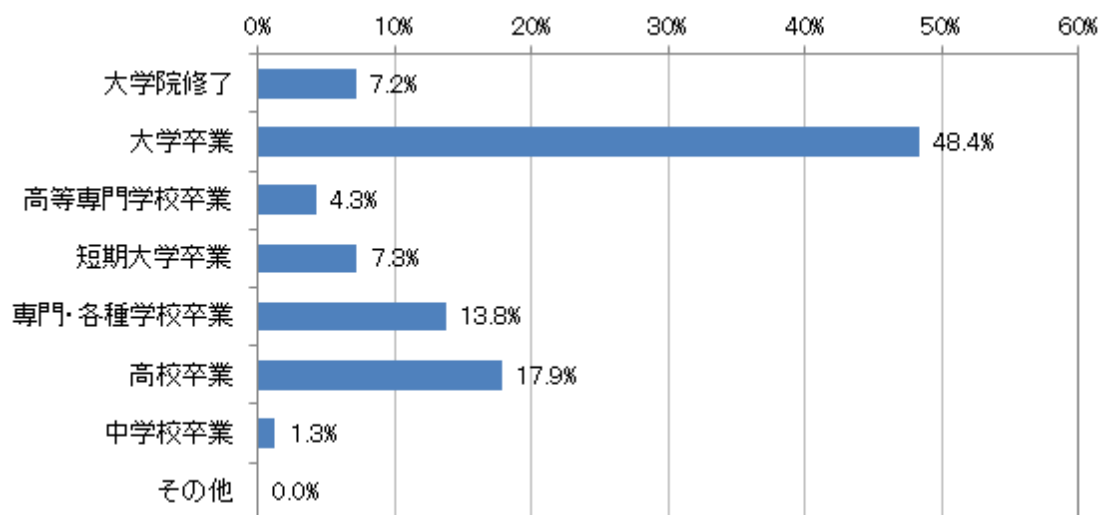
(5) 居住する都道府県

図表 3-5 あなたの住まいの地域 (n=2,000)

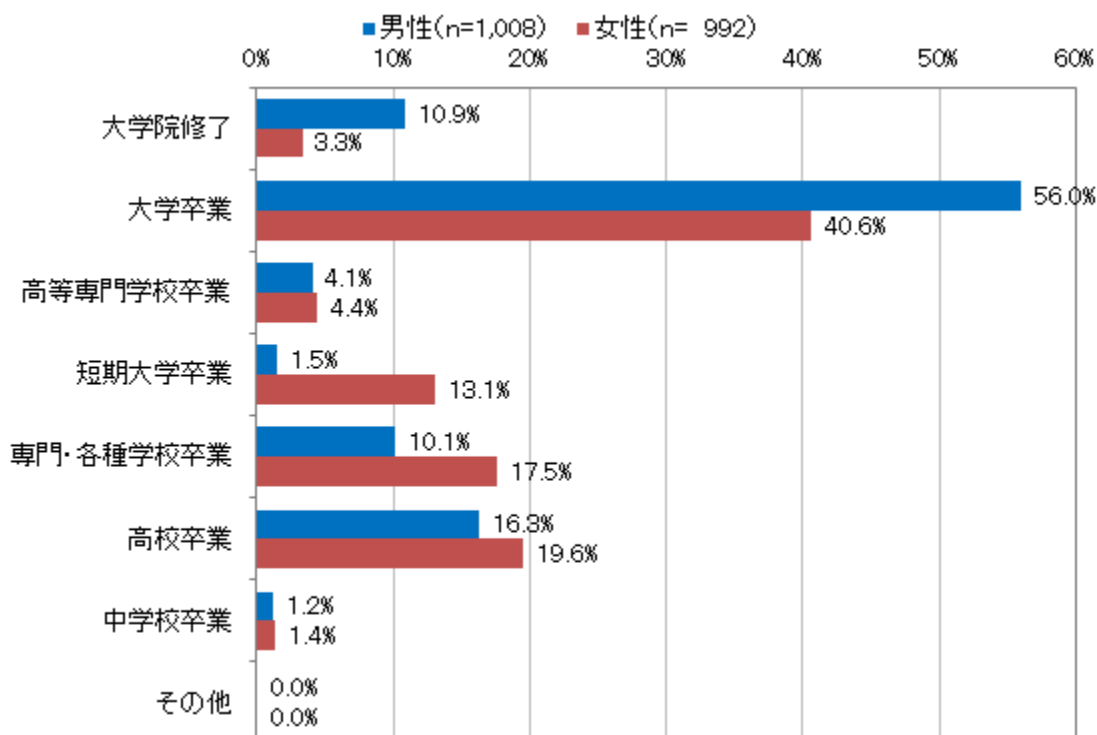


(6)保護者（回答者）の最終学歴

図表 3-6 保護者（回答者）の最終学歴（n=2,000）

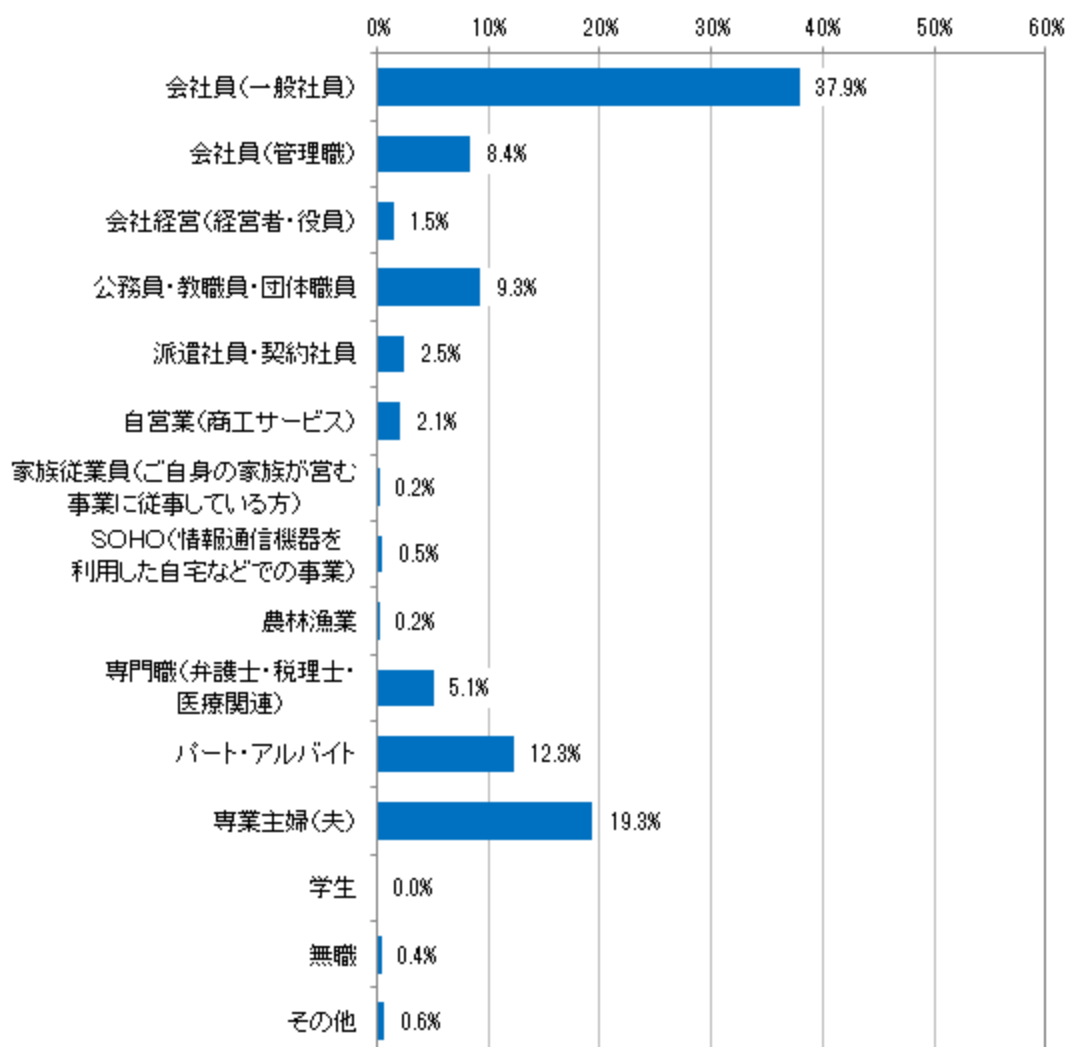


図表 3-7 【男女別】保護者（回答者）の最終学歴

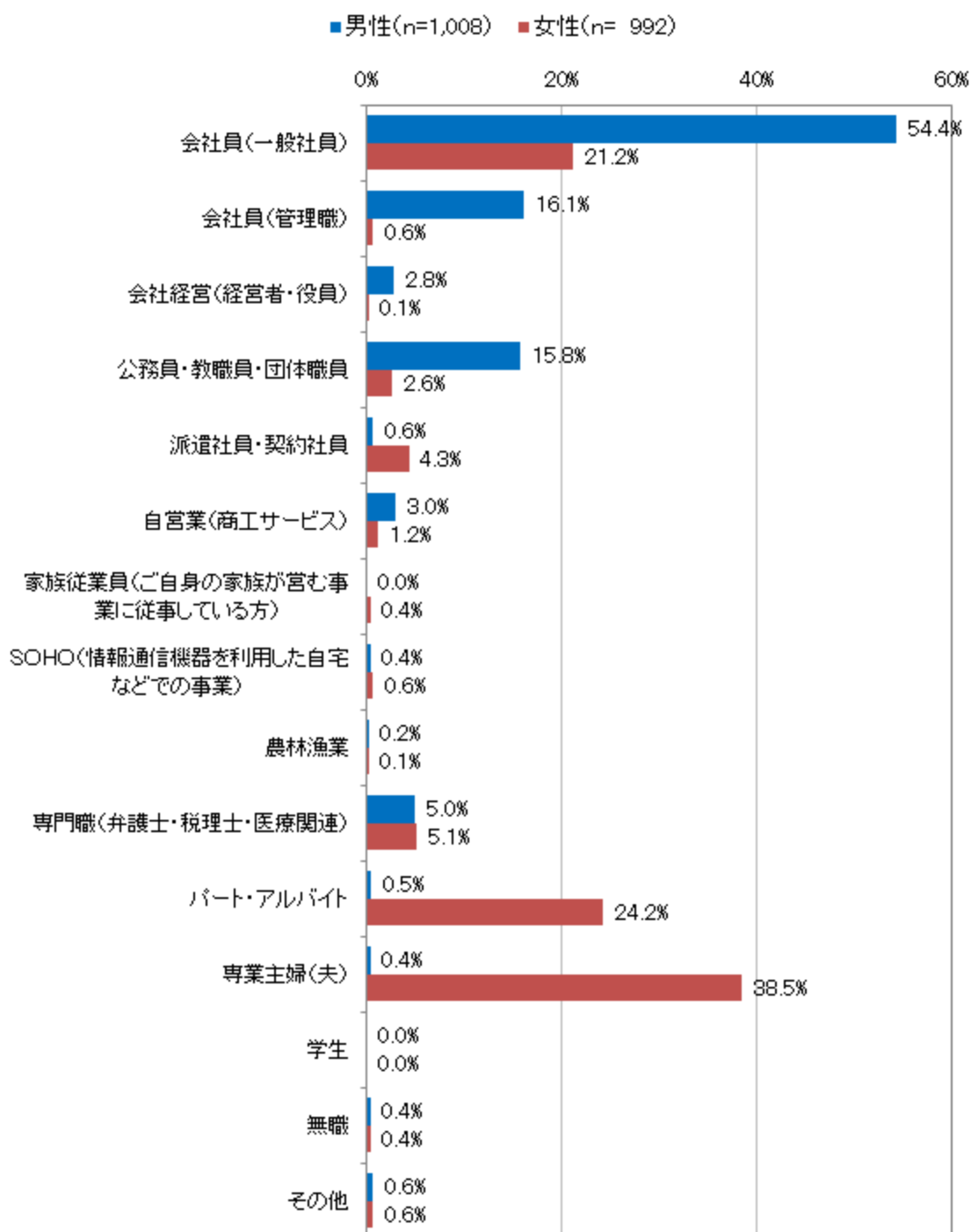


(7)保護者（回答者）の立場・身分

図表 3-8 保護者（回答者）の立場・身分（n=2,000）

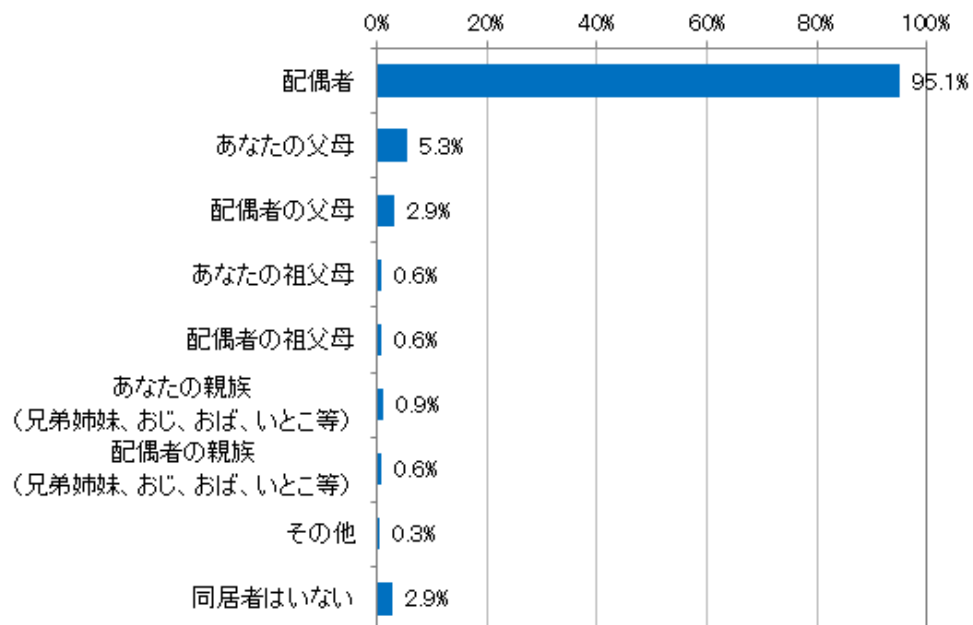


図表 3-9 【男女別】保護者（回答者）の立場・身分



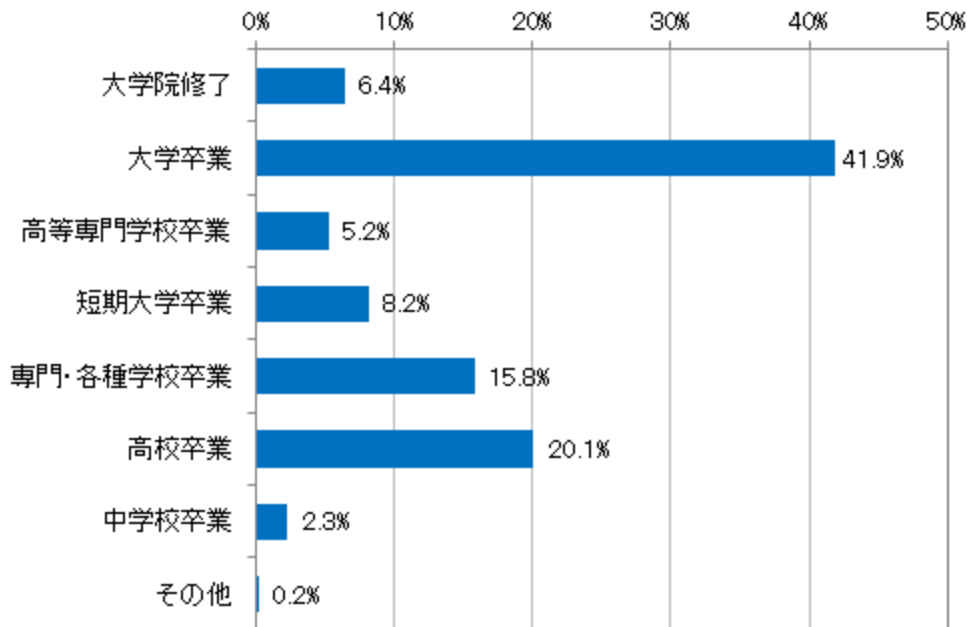
(8)保護者（回答者）と子どもの同居家族

図表 3-10 保護者（回答者）と子どもの同居家族（複数回答）（n=2,000）

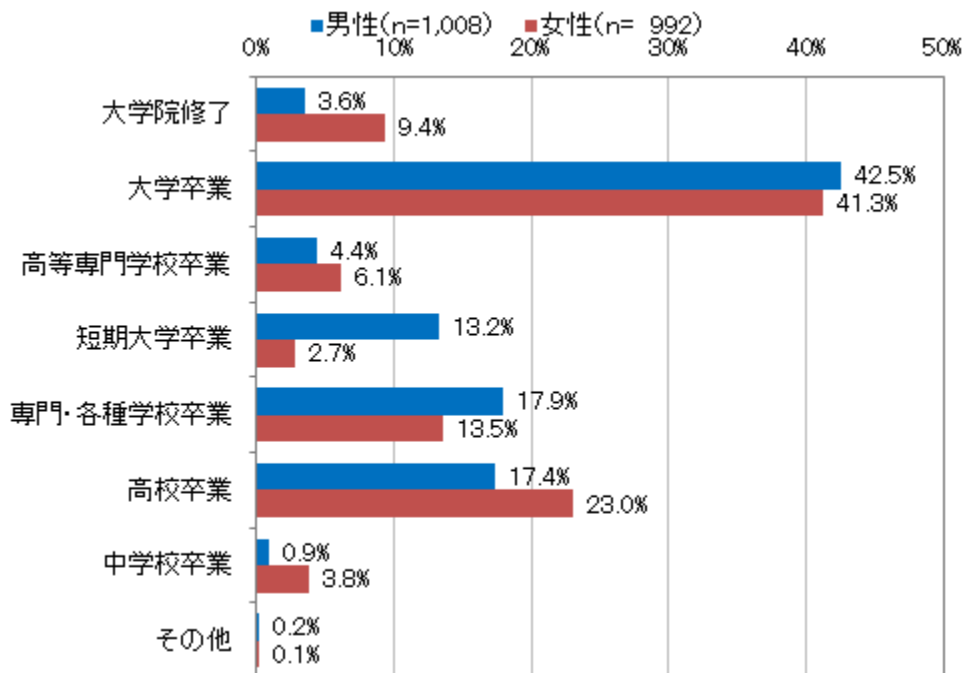


(9) 配偶者の最終学歴

図表 3-11 配偶者の最終学歴 (n=2,000)

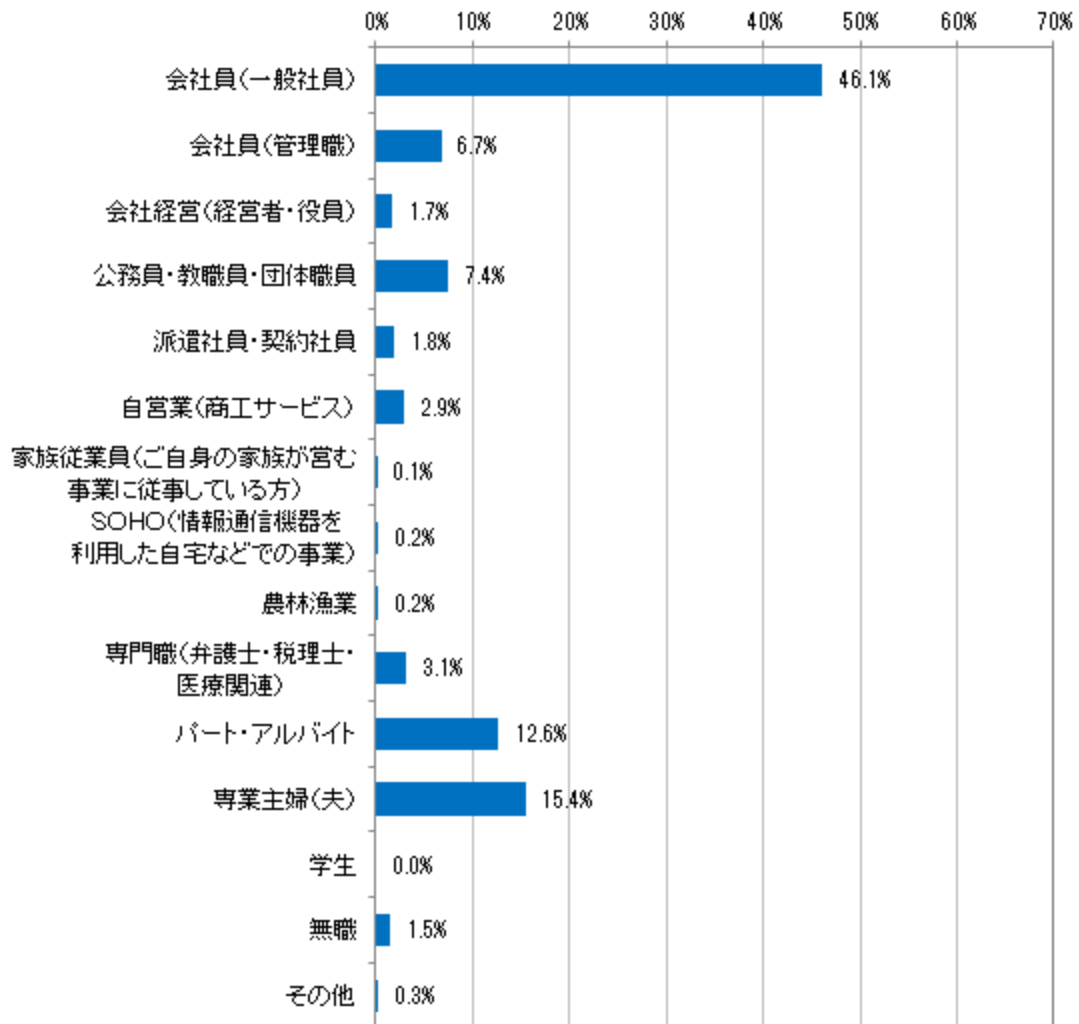


図表 3-12 【男女別】配偶者の最終学歴

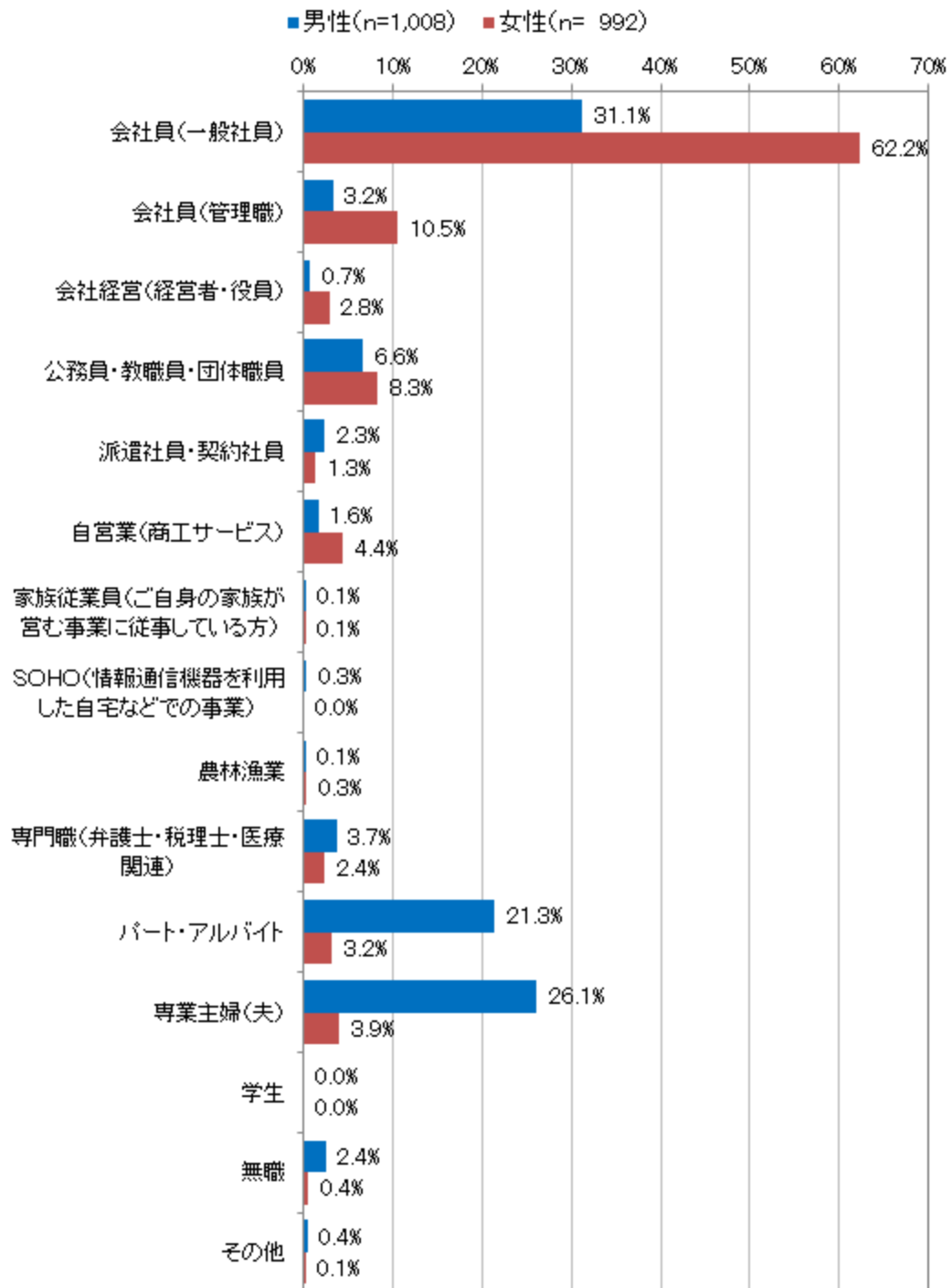


(10) 配偶者の立場や身分

図表 3-13 配偶者の立場や身分 (n=2,000)

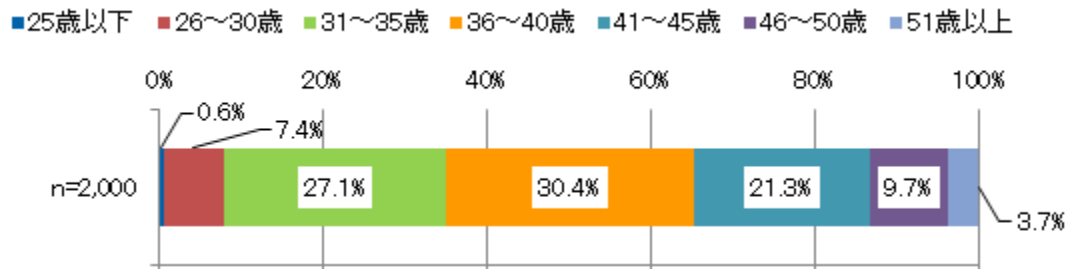


図表 3-14 【男女別】配偶者の立場や身分

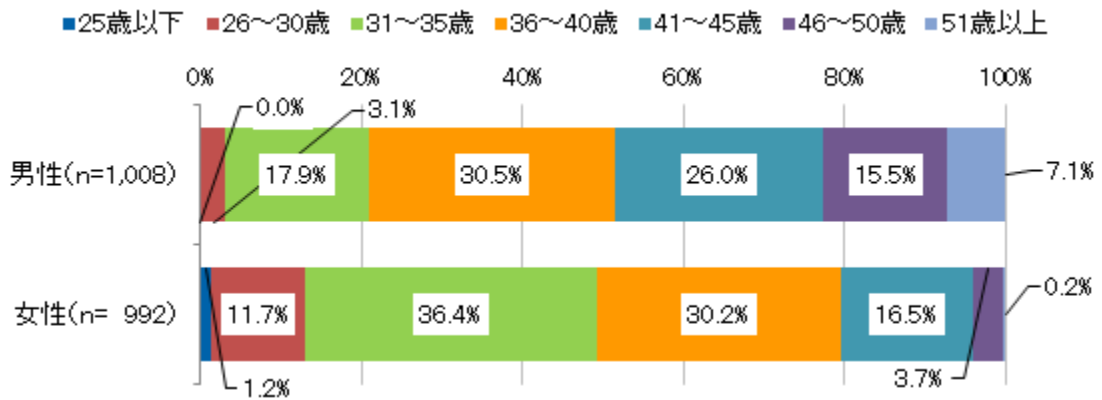


(11) 保護者（回答者）の年齢

図表 3-15 保護者（回答者）のご年齢 (n=2,000)

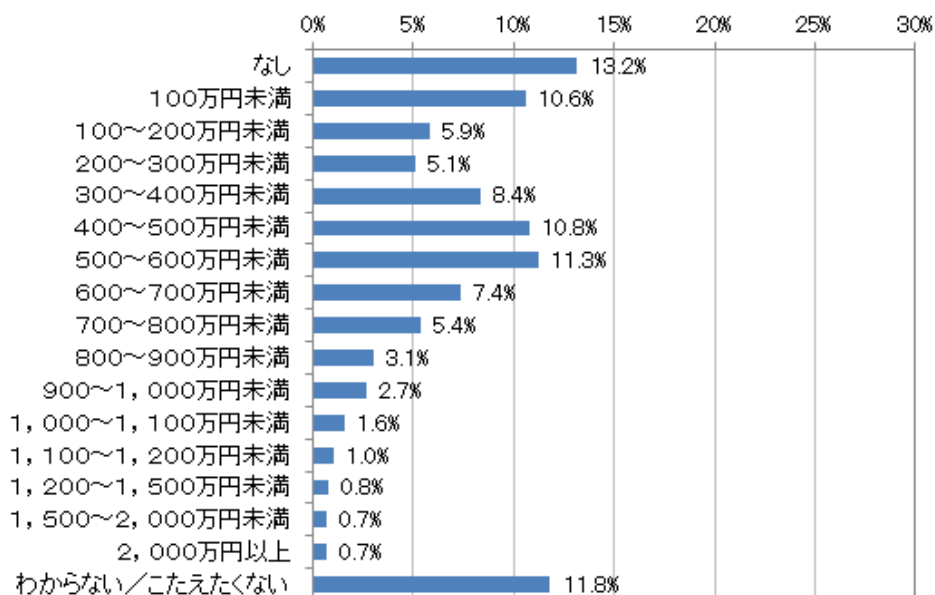


図表 3-16 【男女別】保護者（回答者）のご年齢

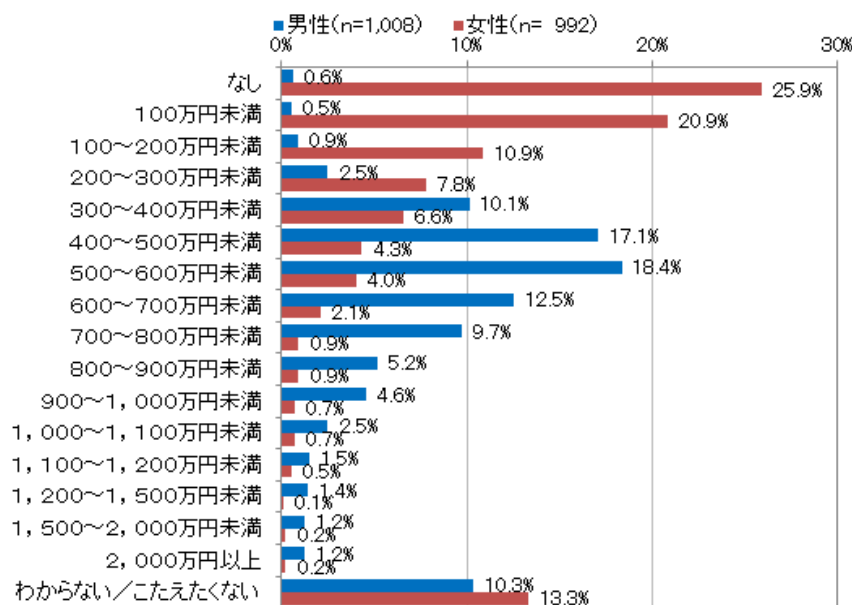


(12) 保護者（回答者）個人の収入

図表 3-17 保護者（回答者）個人の最近1年間のおおよその税込み年収（n=2,000）



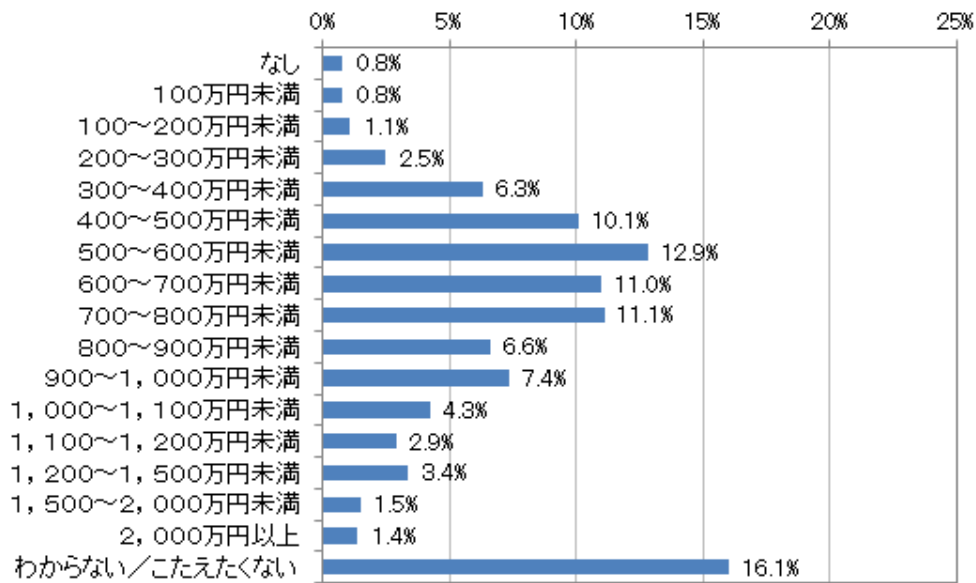
図表 3-18 【男女別】保護者（回答者）の個人の最近1年間のおおよその税込み年収



(13) 保護者の世帯収入

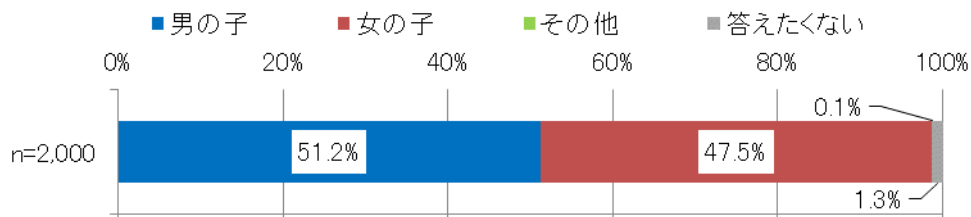
保護者の世帯全体における、最近1年間のおおよその税込み年収をきいたところ、「わからない／こたえたくない」が16.1%と最も割合が高く、「500～600万円未満」12.9%、「700～800万円未満」11.1%と続く。

図表 3-19 保護者の世帯全体における、最近1年間のおおよその税込み年収
(n=2,000)



(14) 第一子の性別

図表 3-20 第一子の性別

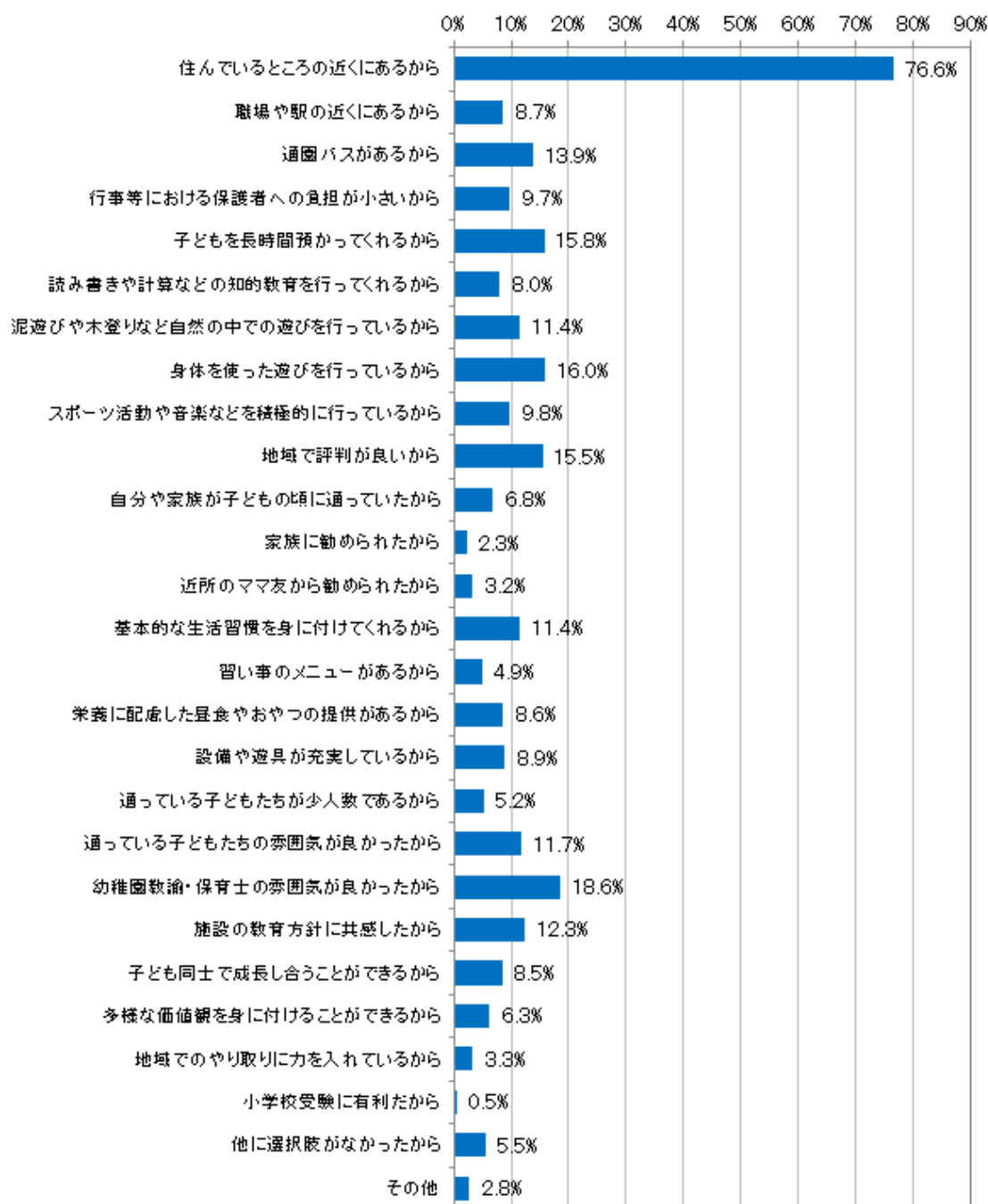


3-2 第一子が通う幼児教育施設について

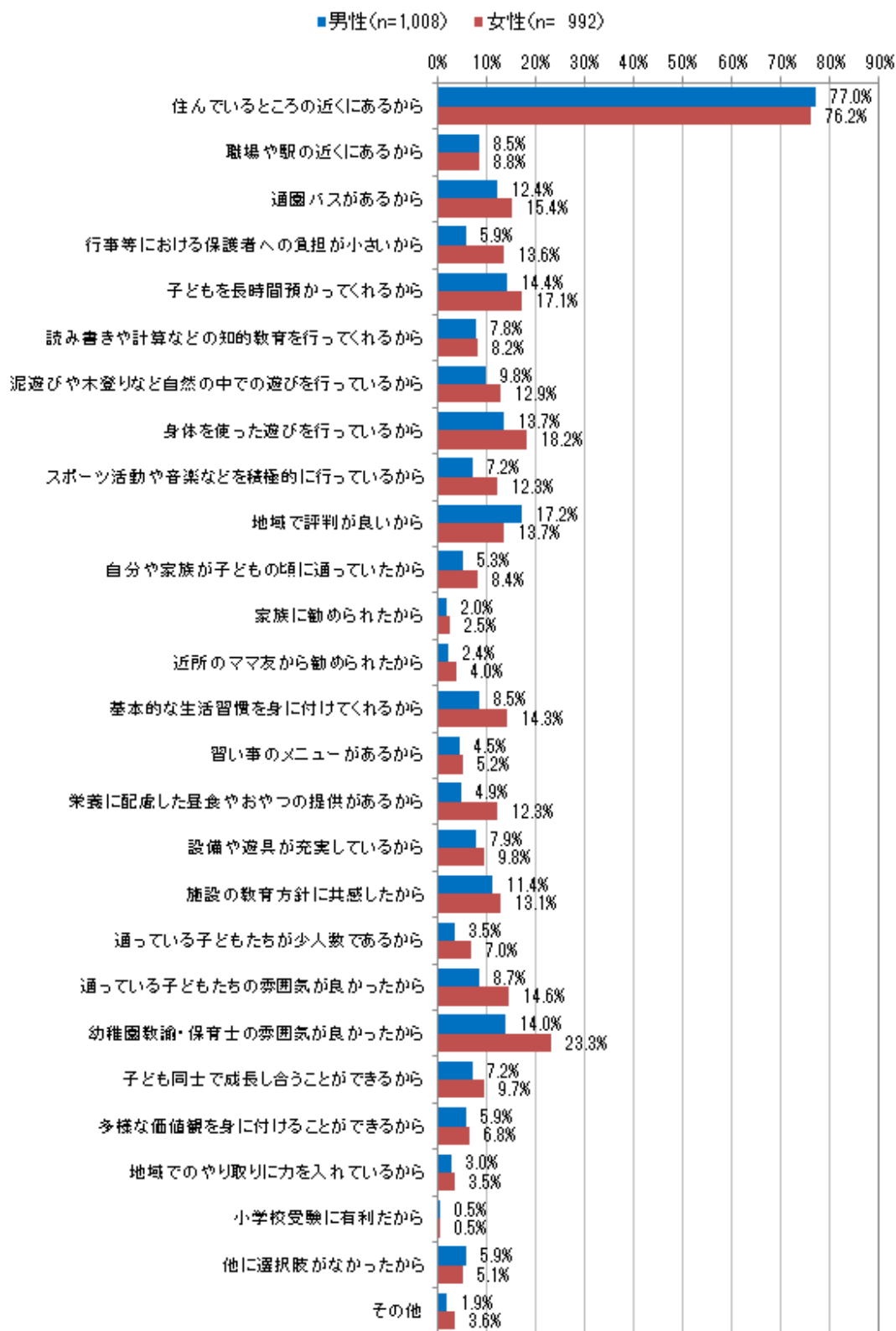
3-2-1 第一子が通っている幼児教育施設を選んだ理由

第一子が通っている幼児教育施設を選んだ理由についてきいたところ、「住んでいるところの近くにあるから」が76.6%と最も割合が高い。

図表 3-21 第一子が通っている幼児教育施設を選んだ理由 (n=2,000)



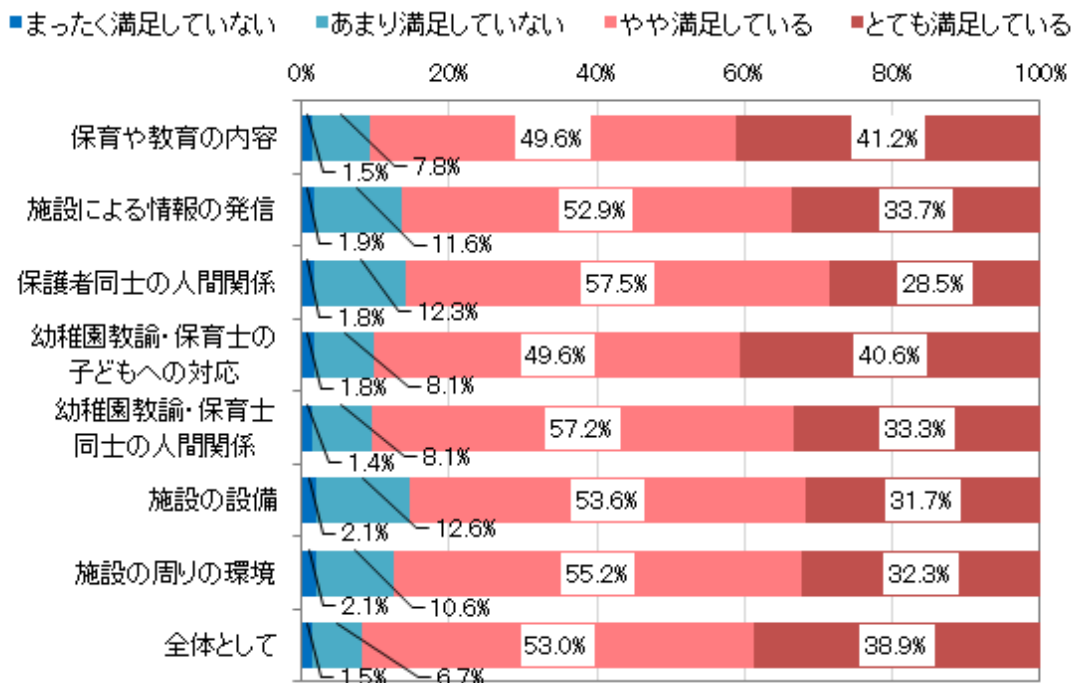
図表 3-22 【男女別】 第一子が通っている幼児教育施設を選んだ理由



3-2-2 幼児教育施設への満足度

幼児教育施設について、項目別に満足度をきいたところ、どの項目でも「とても満足している」が30%~40%前後、「満足している」が50%~55%前後となっており、どの項目も満足している層が8割を超える。

図表 3-23 第一子が通っている幼児教育施設の満足度 (n=2,000)

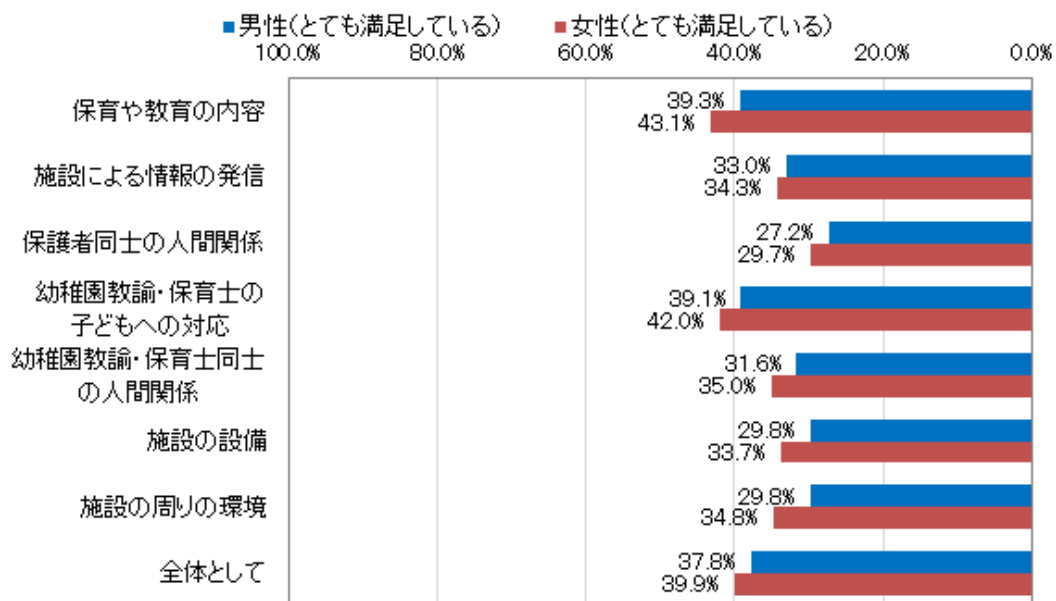


男女別に満足度をみると、どの項目においても、女性のほうがやや「とても満足している」割合が上回っている。

図表 3-24 【男女別】第一子が通っている幼児教育施設の満足度

(※男女別：「とても満足している」のみ)

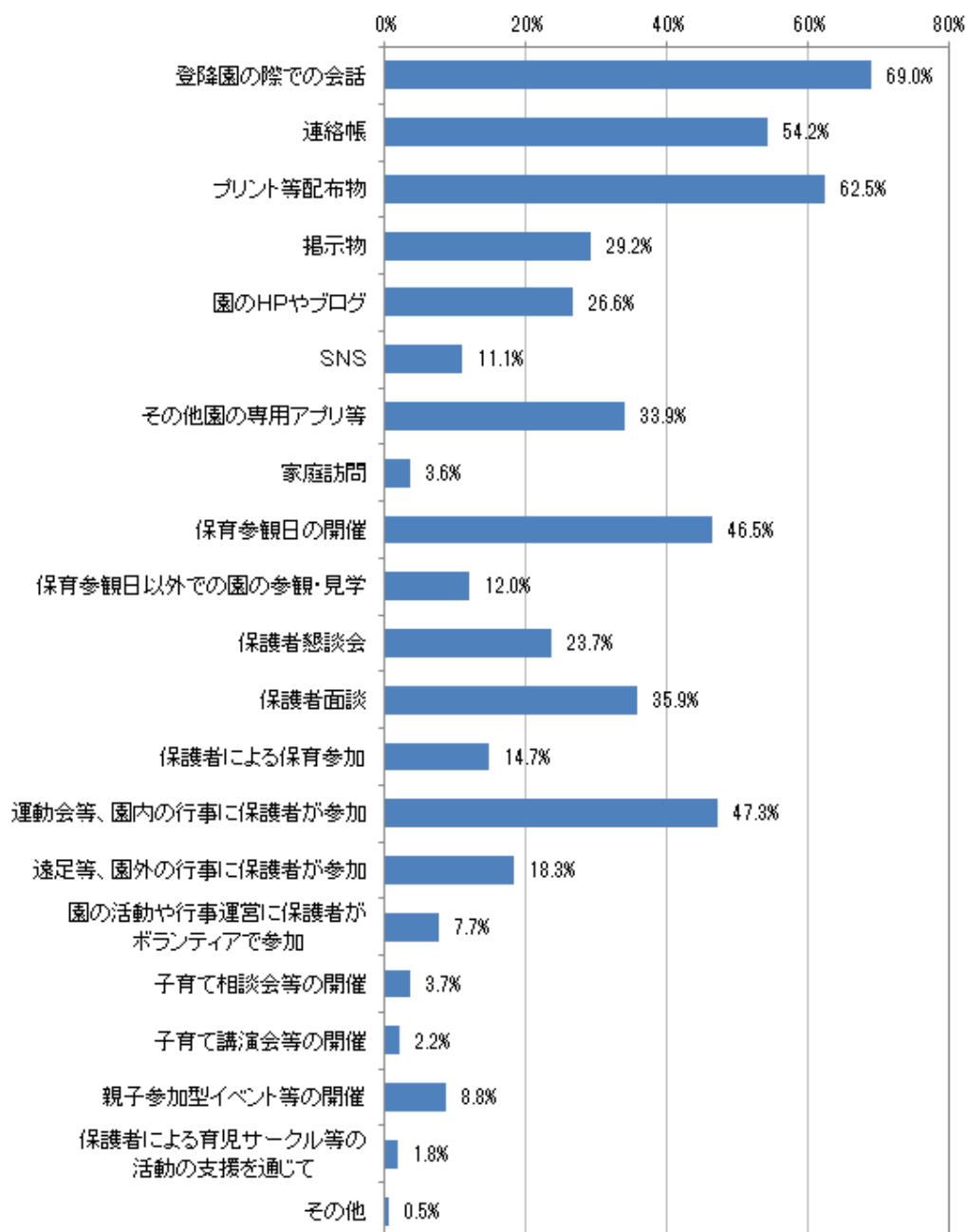
(男性 n=1,008/女性 n= 992)



3-2-3 幼児教育施設からの情報共有方法（認知度）

幼児教育施設で行われている、家庭とのやり取り・幼児教育に関する情報共有の方法についてきいたところ、「登降園の際での会話」が69.0%と最も割合が高くなっている。次いで、「プリント等配布物」62.5%、「連絡帳」54.2%と続く。

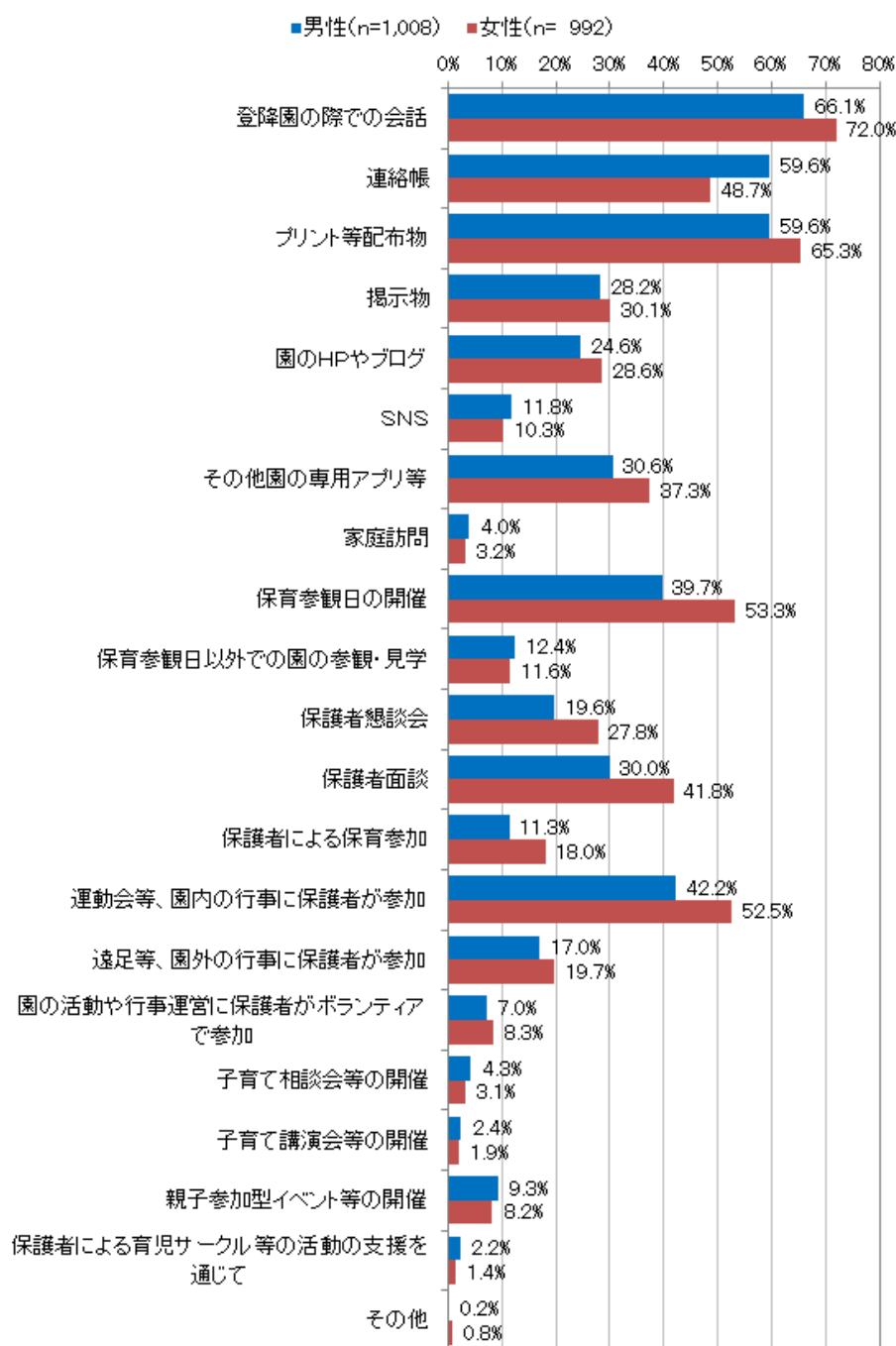
図表 3-25 幼児教育施設からの情報共有方法（複数回答）（n=2,000）



男女別にみると、「登降園の際での会話」「連絡帳」「保育参観日の開催」「保護者面談」「運動会等、園内の行事に保護者が参加」等、対面での参加を求められる方法で、やや女性の方が高く、男女の差がみられる。特に、「保育参観日の開催」は男性が39.7%であることに對し、女性は53.3%と差がある。

また、その他の項目においても、女性のほうが割合は高い傾向にある。

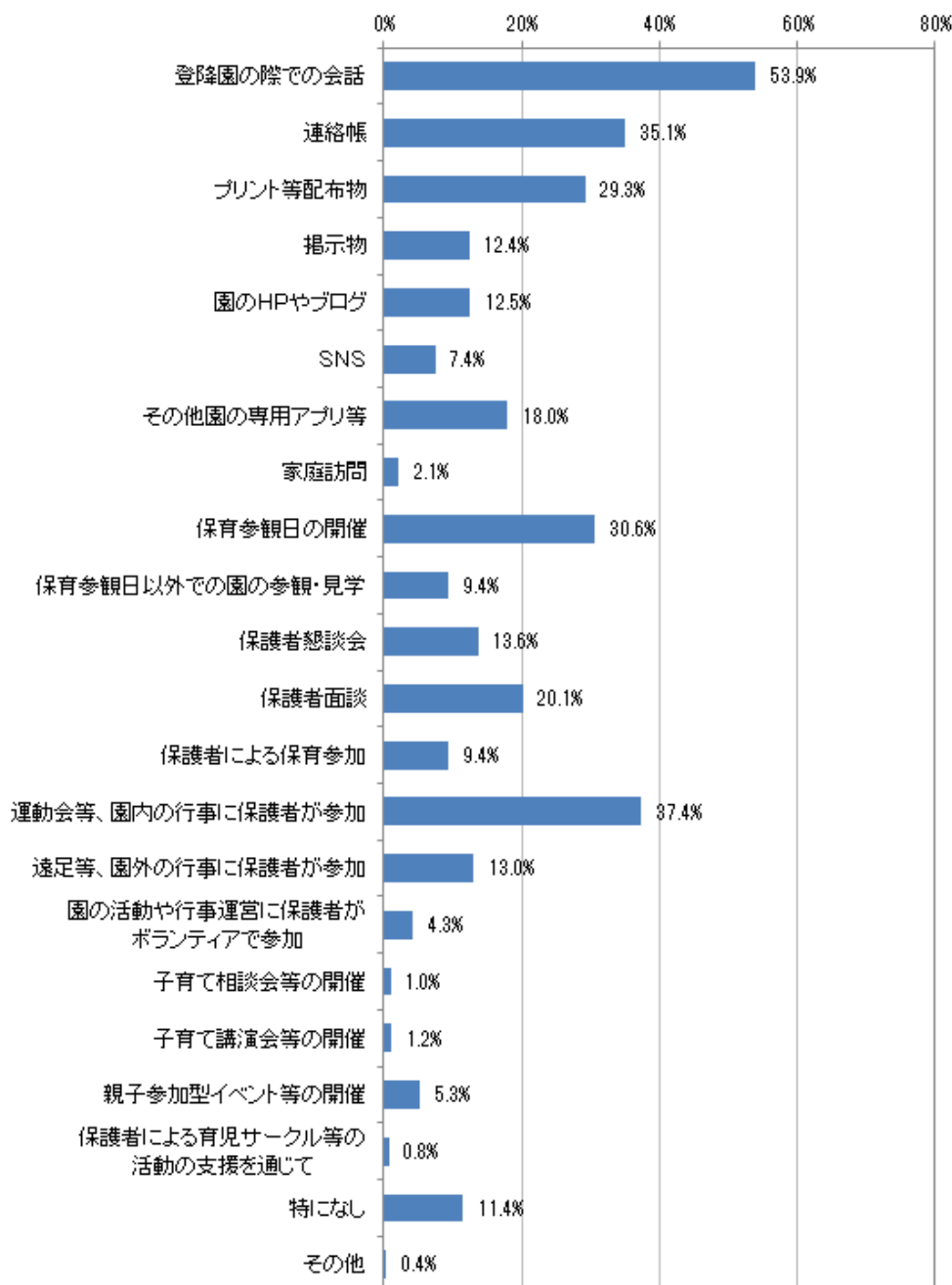
図表 3-26 【男女別】 幼児教育施設からの情報共有方法（複数回答）



3-2-4 幼児教育施設からの情報共有への積極的な参加の有無（参加度）

幼児教育施設で行われている、家庭とのやり取り・幼児教育に関する情報共有の方法に、保護者自身も積極的に参加しているかきいたところ、「登降園の際での会話」が53.9%と最も割合が高くなっている。次いで、「運動会等、園内の行事に保護者が参加」37.4%、「連絡帳」35.1%と続く。

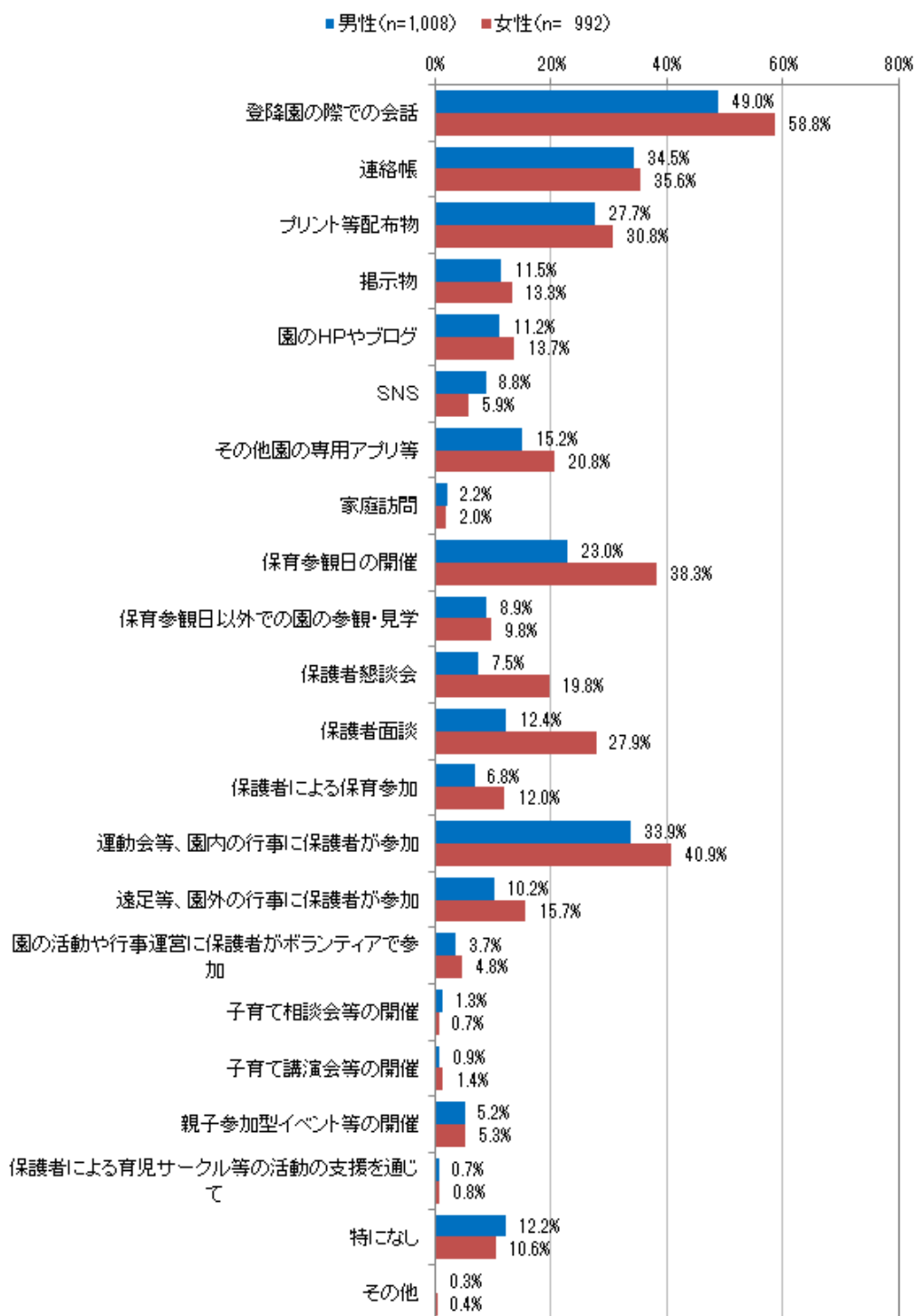
図表 3-27 幼児教育施設からの情報共有への積極的な参加の有無（複数回答）



(n=2,000)

男女別にみると、先の設問と同じく、参加が必要な取組に男女差がある。また、どの項目においても、全体的に女性の割合が高い。

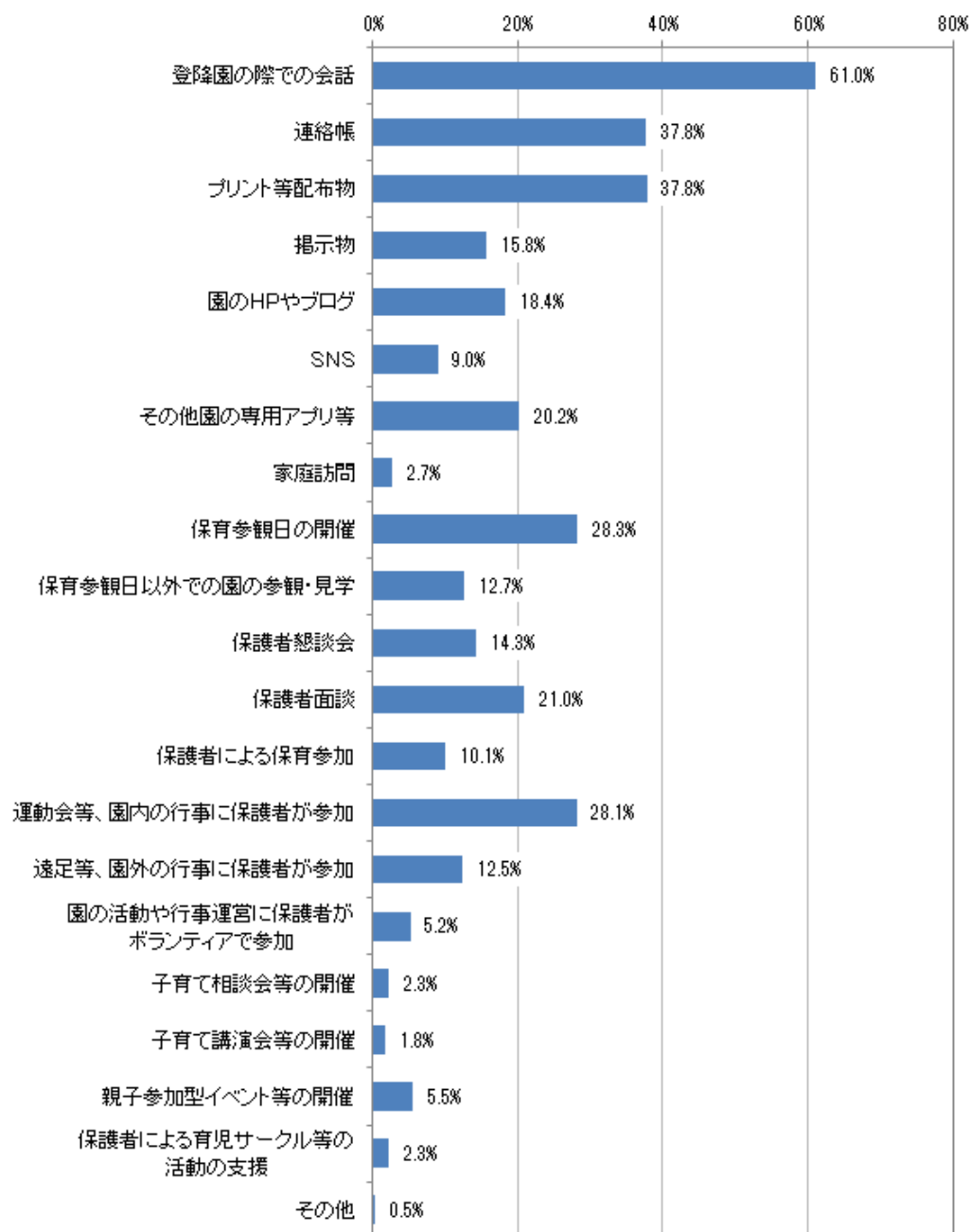
図表 3-28 【男女別】 幼児教育施設からの情報共有への積極的な参加の有無
(複数回答)



3-2-5 幼児教育施設からの情報共有において、特に理解できる方法（理解度）

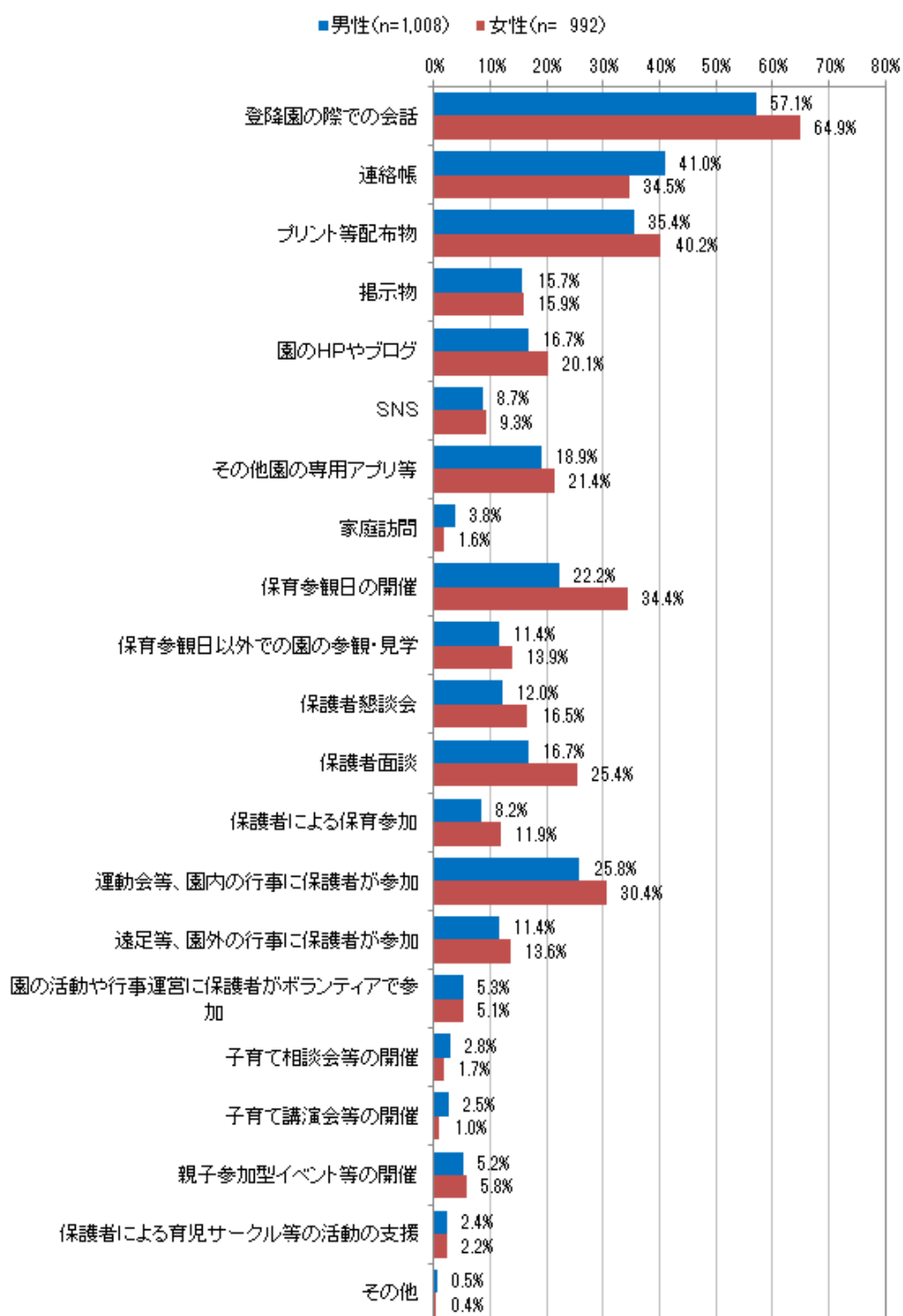
幼児教育施設で行われている、家庭とのやり取り・幼児教育に関する情報共有の方法について、どの方法が特に理解できるかきいたところ、「登降園の際での会話」が61.0%と最も割合が高くなっている。次いで、「連絡帳」「プリント等配布物」がともに37.8%と続く。

図表 3-29 幼児教育施設からの情報共有における、特に理解できる方法（複数回答）
(n=2,000)



男女別にみると、先の2問と同じく、参加が必要な取組に男女差がある。また、どの項目においても、全体的に女性の割合が高い。

図表 3-30 【男女別】 幼児教育施設からの情報共有における、特に理解できる方法
(複数回答)

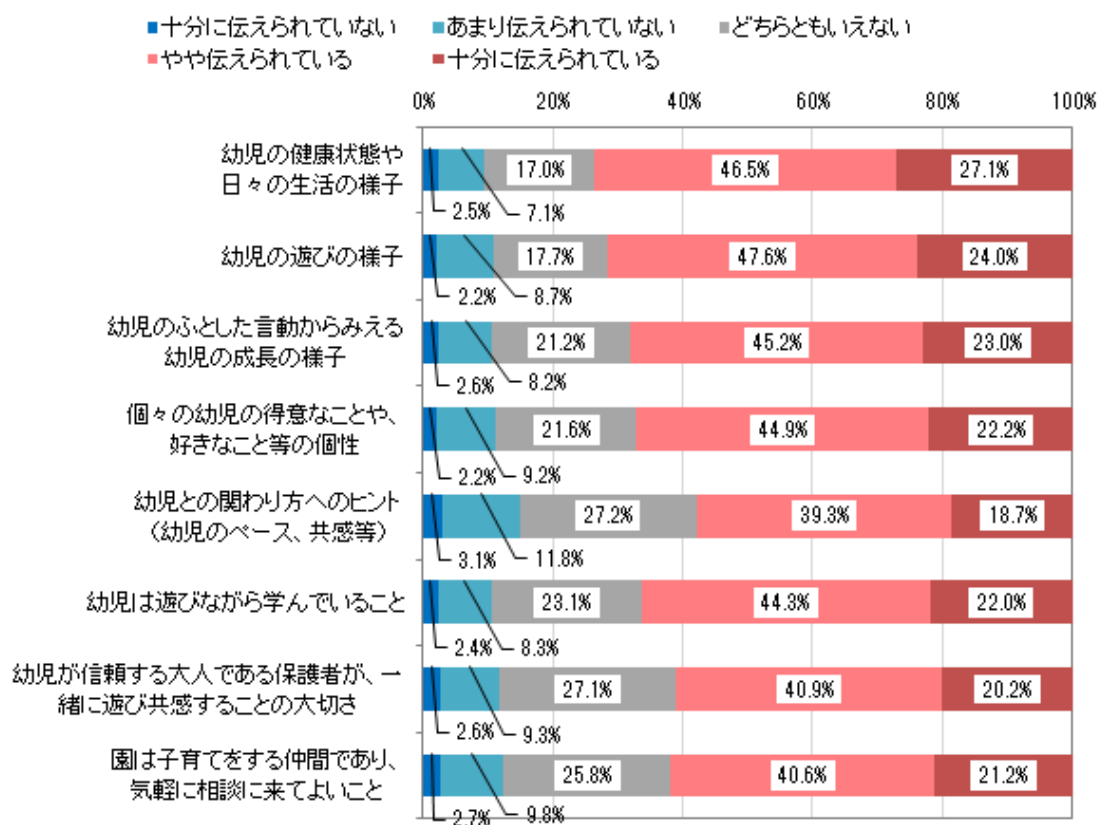


3-3 幼児教育施設との情報共有

3-3-1 幼児教育施設からの情報共有の内容

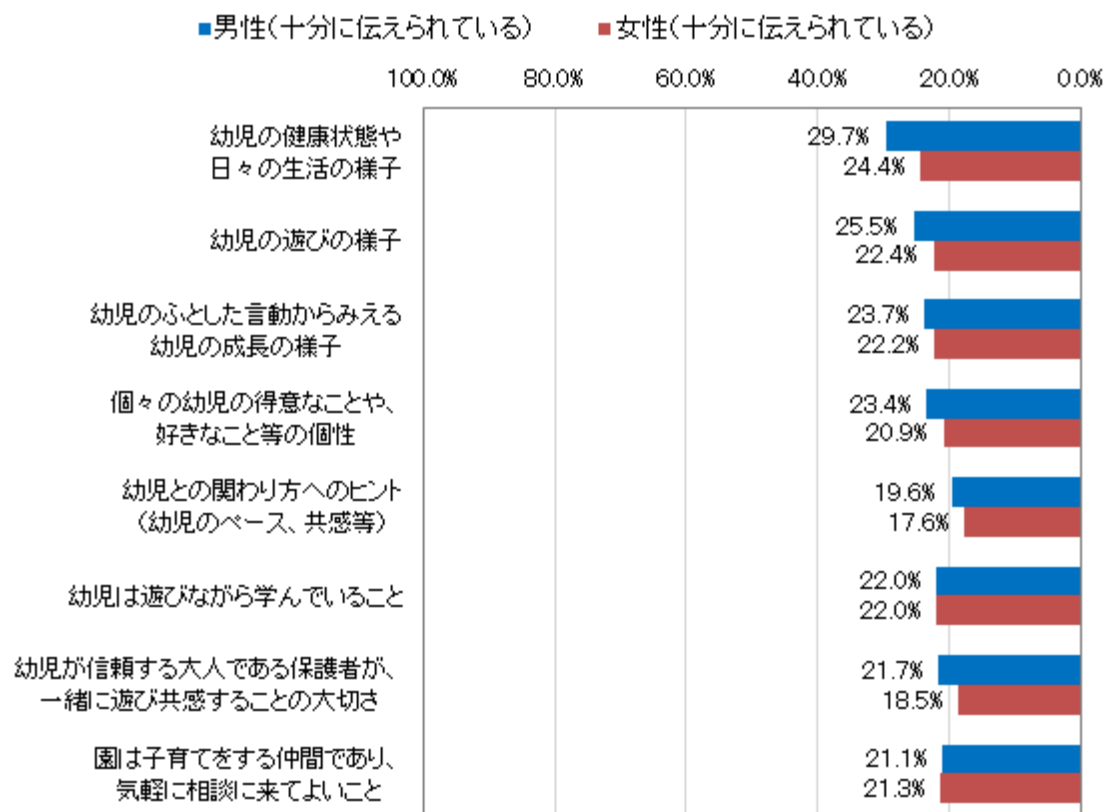
幼児教育施設で行われている、家庭とのやり取り・幼児教育に関する情報共有において、どのような内容が伝えられているか項目別にきいたところ、どの項目においても「十分に伝えられている」が2~3割、「やや伝えられている」が4割~5割となっている。

図表 3-31 幼児教育施設からの情報共有方法で、伝えられている内容(n=2,000)



男女別にみても、大きな差はない。

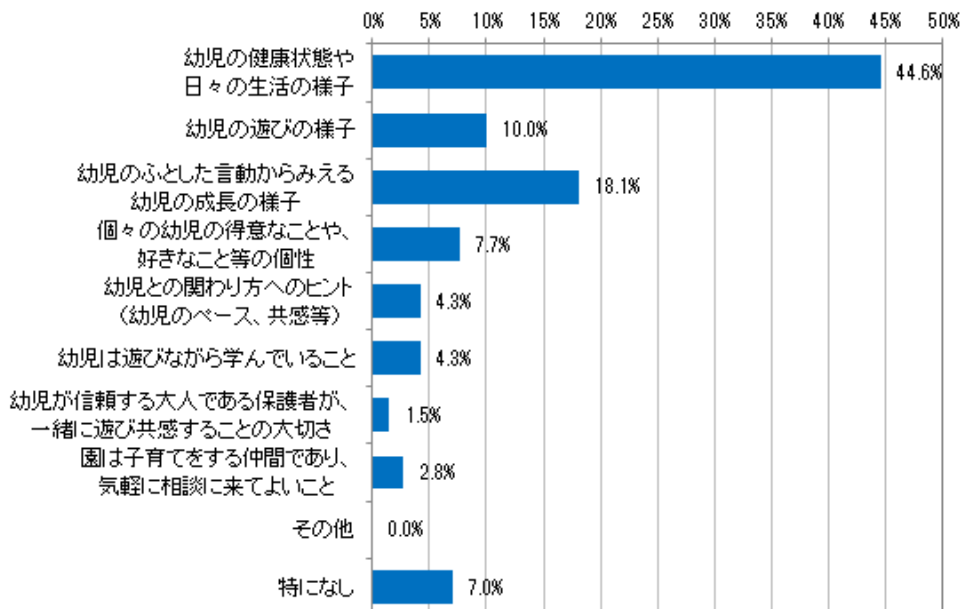
図表 3-32 【男女別】 幼児教育施設からの情報共有方法で、伝えられている内容
 (男女別：「十分に伝えられている」のみ)
 (男性 n=1,008/女性 n= 992)



3-3-2 幼児教育施設からの情報で重要視する事柄

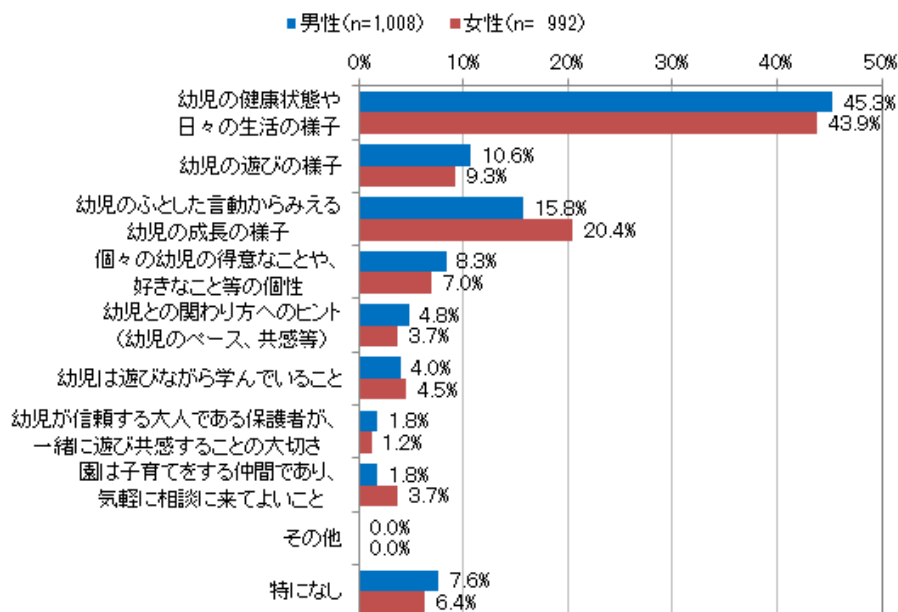
幼児教育施設からの情報において、どのような内容が最も重要かきいたところ、「幼児の健康状態や日々の生活の様子」が44.6%と最も割合が高い。

図表 3-33 幼児教育施設からの情報で重要視する事柄(n=2,000)



男女別にみても、大きな差はない。

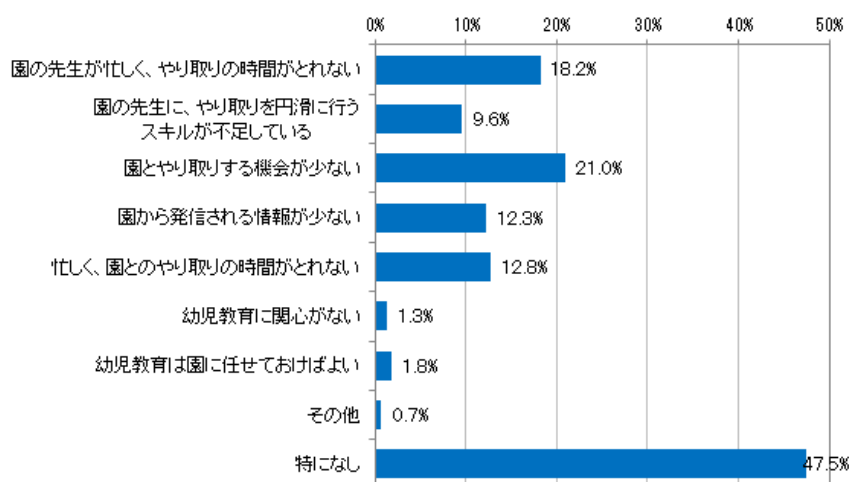
図表 3-34 【男女別】幼児教育施設からの情報で重要視する事柄



3-3-3 幼児教育施設からのやり取りや情報共有における課題

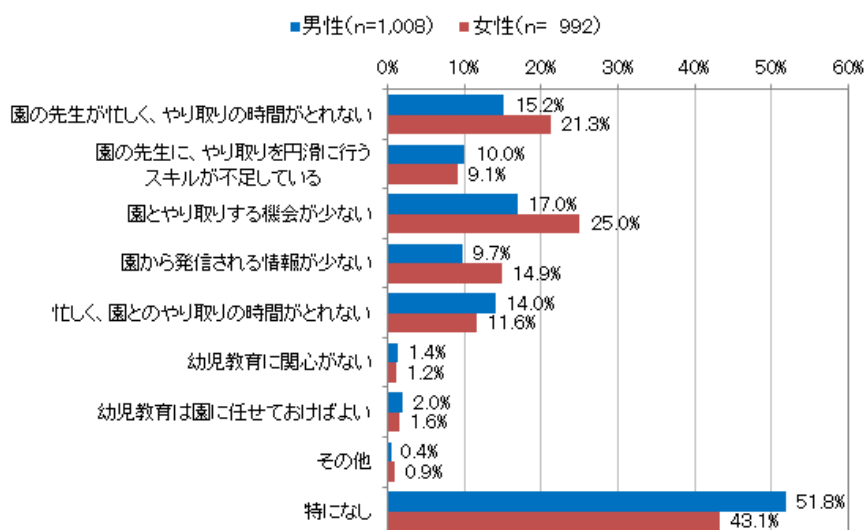
幼児教育施設とのやり取りや情報共有において、課題に感じていることをきいたところ、「特になし」が47.5%と最も割合が高い。

図表 3-35 幼児教育施設からのやり取りや情報共有における課題感（複数回答）
(n=2,000)



男女別にみると、「園とやり取りする機会が少ない」「園の先生が忙しく、やり取りの時間がとれない」「園から発信される情報が少ない」は、女性の割合が若干高く、「特になし」は男性の割合が高い。

図表 3-36 【男女別】幼児教育施設からのやり取りや情報共有における課題感（複数回答）



3-3-4 幼児教育施設に対して求める情報

自由記述で、幼児教育施設に対し、もっと伝えてほしい、共有してほしい情報をきいたところ、以下のような回答が挙げられている。

図表 3-37 幼児教育施設に対して求める情報（自由記述）（回答数：770）

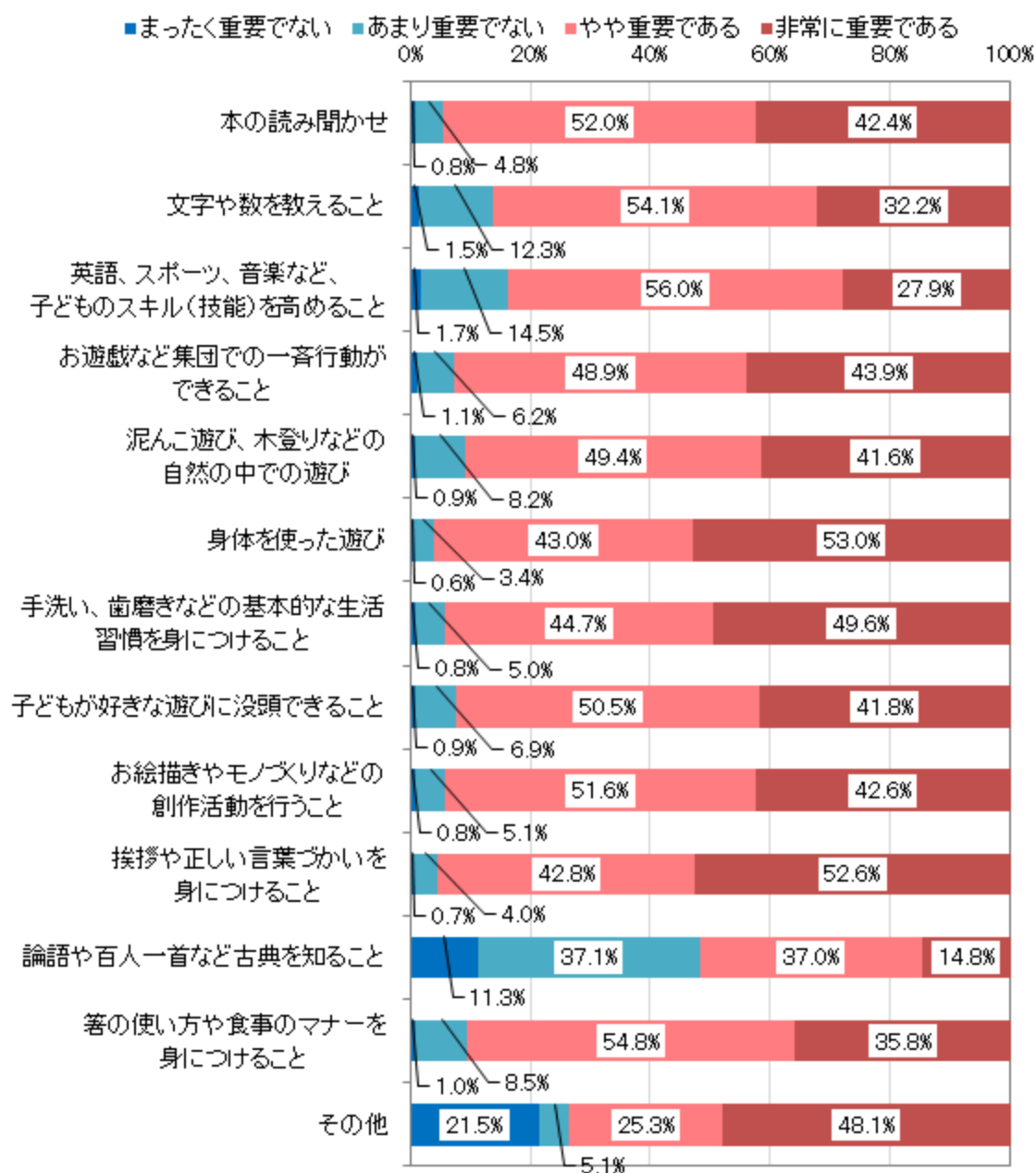
| |
|---|
| 日中の過ごし方 |
| その日 1 日何をしたのか知りたい |
| 日々の写真を専用アプリに載せて欲しい |
| 全ては難しいとは思いますが、子どもの日々のちょっとした言動。 |
| 友達や先生との関わりや、日々の活動の中から見える子ども一人一人の成長や課題 |
| 日々どんなことをしているのか、子どもの成長、課題等をもっと教えてほしい。家庭でどのように子どもにかかわっていくのがいいのかのヒントとなると思うので。 |
| 園での様子は良い面も気になる面もフラットに教えてほしい。気になる面についてはそのことについて先生や子どもたちがどのような対応をしているかなども聞いてみたいです。 |
| 友達との関わり方・集団生活の様子 |
| 友達や先生との関わりや、日々の活動の中から見える子ども一人一人の成長や課題 |
| 日頃の友達と遊んだりしてる様子、どのように接してるのか |
| 自分の子どもが友達とどのように過ごしているか。交友関係を円滑に作れているのかが知りたい。家族でいるだけだと分からない部分 |
| 子どもの性格とか行いばかりではなく、友達とどう接しているか、どのような友達がいるかなど友達の情報がほしい。子どもが帰ってしゃべっているのと噛み合わない |
| お友達とのトラブルのようなマイナスな出来事もしっかり共有してほしい。 |
| 子どものできること・できないこと |
| 少しの事でもいいので、子どもが何を出来た遊んでいた等伝えてほしい |
| 運動や学習の能力を発揮できる機会 |
| 子どもの課題と家庭でできる対策案 |
| 子どもが何に苦手意識を持っているか、得意か。 |
| 良い事だけでなく悪い事（苦手なことなど）も細かに伝えて欲しい |
| 子どもの発達に心配は無いのか、成長具合など、悪い面はもちろん良いところも伝えてほしい。コロナ禍以前から面談が無くなり、希望者だけになったので希望したら、希望する人あんまりいないですよ〜と笑って言われたので、こちらから聞きづらくなった。 |
| その他 |
| 読んでいる本や歌っている歌など教材を理解したい |
| 痙攣やパニックを起こした時の対応方法 |
| 風邪などのウイルスが流行り始めたら早めに共有して欲しい。 |
| 保護者同士の情報交換の場が欲しい |

3-4 幼児教育施設に求める教育・活動内容

3-4-1 幼児教育施設の教育での重要視する事柄

幼児教育施設で行われている教育内容において、どのような内容を重要視しているか項目別にきいたところ、「論語や百人一首など古典を知ること」を除き、どの項目においても「非常に重要である」「やや重要である」を合わせて8割～9割は重要と回答している。

図表 3-38 幼児教育施設で行う教育内容で、重要視する事柄 (n=2,000)

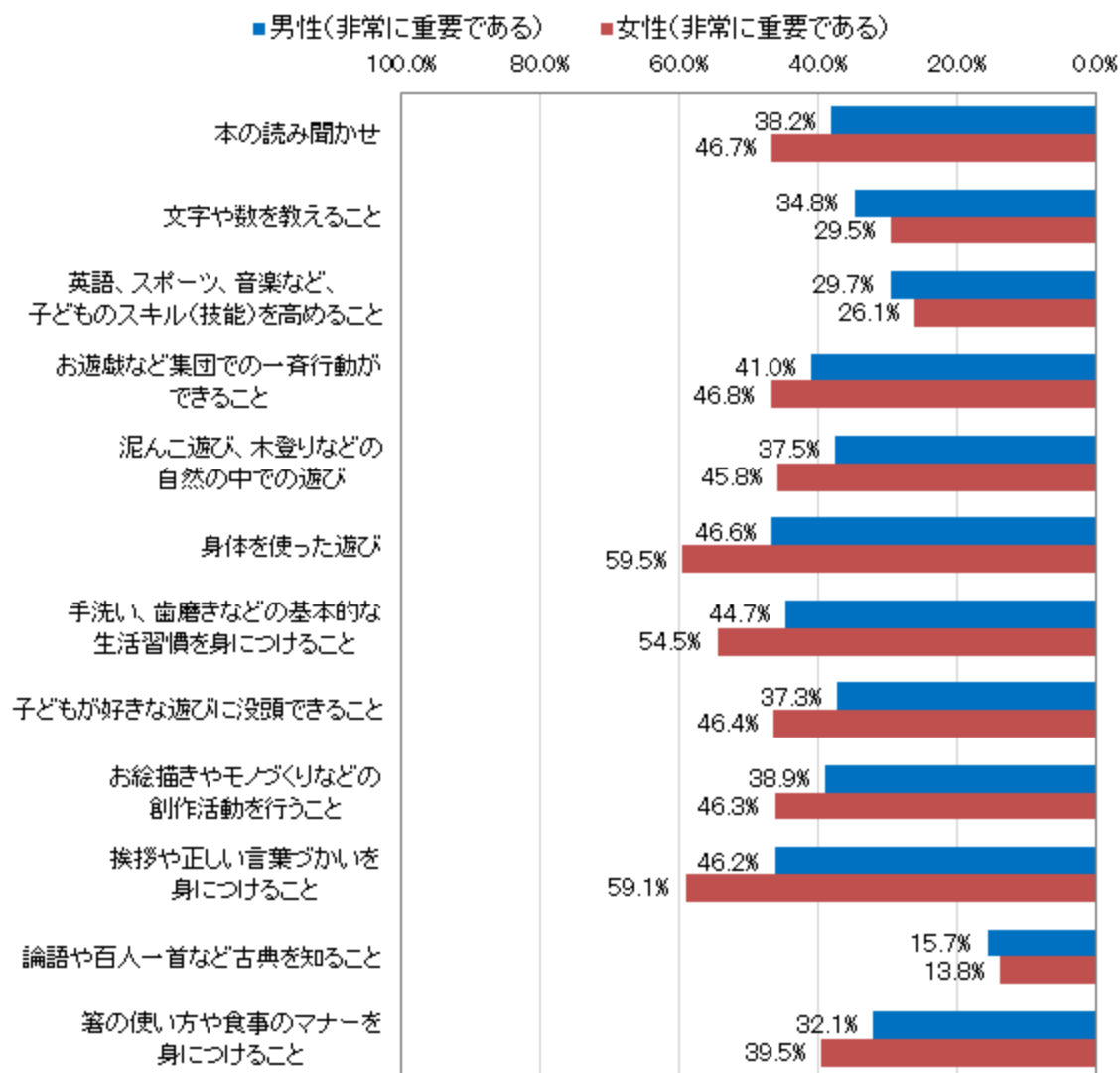


男女別にみると、「本の読み聞かせ」「お遊戯など集団での一斉行動ができること」「体を使った遊び」「挨拶や正しい言葉づかいを身につけること」は女性の割合が高い。

図表 3-39 【男女別】 幼児教育施設で行う教育内容で、重要視する事柄

(男女別：「非常に重要である」のみ)

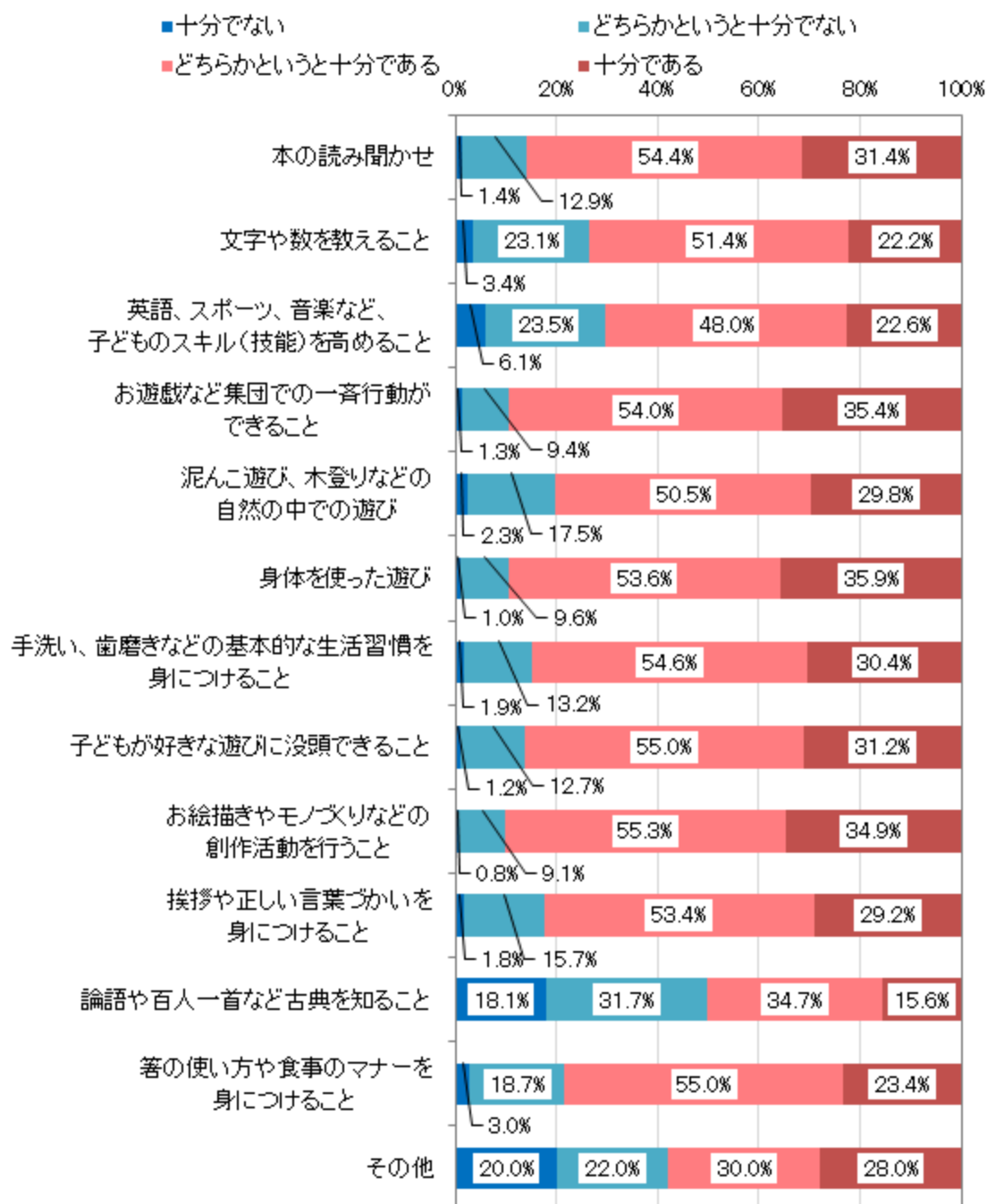
(男性 n=1,008/女性 n= 992)



3-4-2 保護者が求める幼児教育の実施度

幼児教育施設で行われている幼児教育は十分に行われているか、項目別にきいたところ、「論語や百人一首など古典を知ること」を除き、どの項目も「十分である」「どちらかという」と十分である」を合わせて7割～9割は十分であるとみられている。

図表 3-40 保護者が求める幼児教育の実施度 (n=2,000)

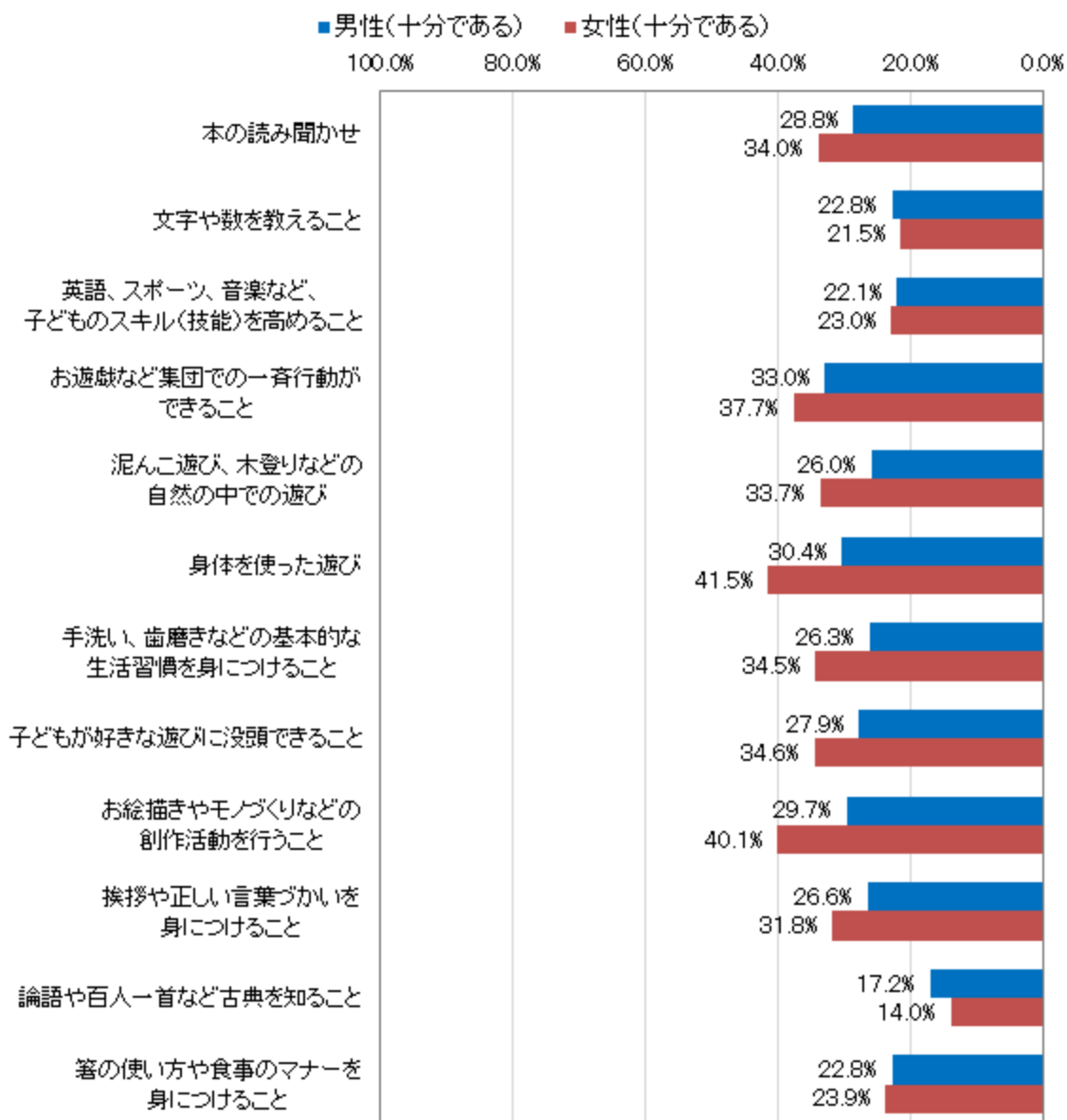


男女別にみると、一部の項目を除き、どの項目も女性の割合が高い。

図表 3-41 【男女別】保護者が求める幼児教育の実施度

(男女別：「十分である」のみ)

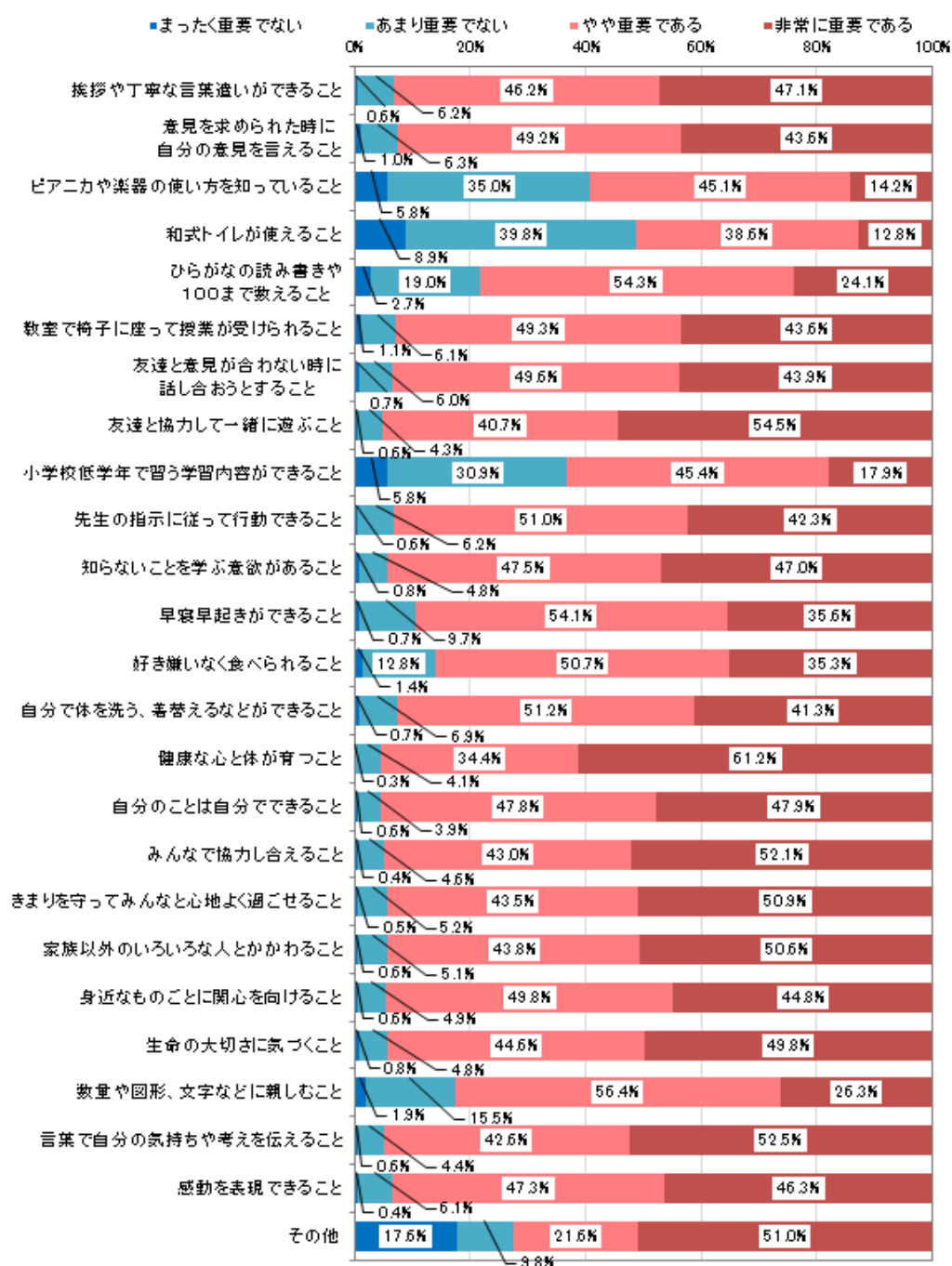
(男性 n=1,008/女性 n= 992)



3-4-3 幼児教育施設を修了（卒園）する時に備わってほしいこと

子どもが幼児教育施設を修了（卒園）する際に備わってほしいことをきいたところ、一部の項目を除き、どの項目も「非常に重要である」が3割～5割、「やや重要である」が3割～5割と、合わせて8割～9割前後は重要とみられている。

図表 3-42 子どもが幼児教育施設を修了（卒園）する時に備わってほしいこと
(n=2,000)

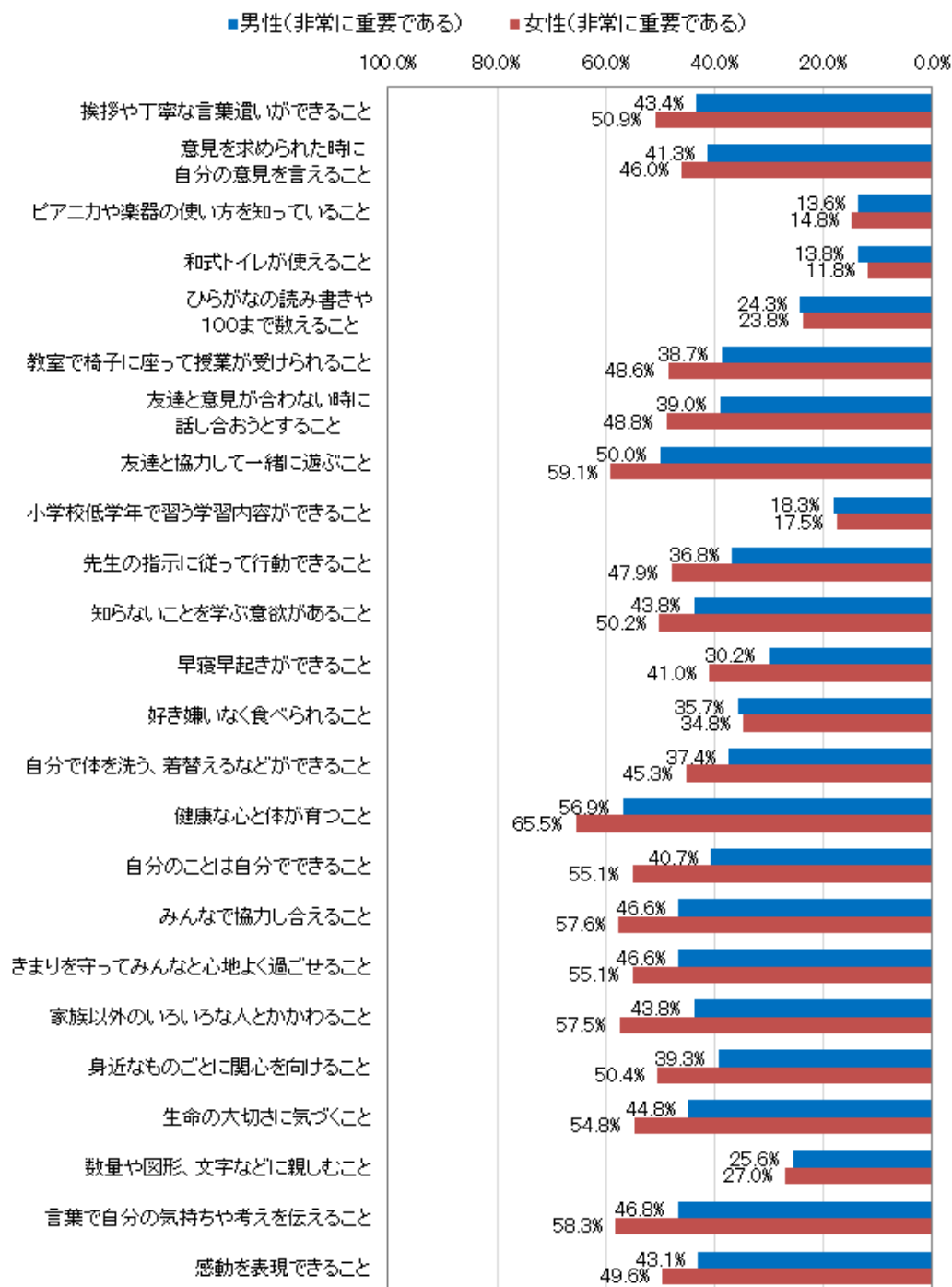


男女別にみると、一部の項目を除き、どの項目も女性の割合が高い。

図表 3-43 【男女別】子どもが幼児教育施設を修了（卒園）する時に備わっていてほしいこと

(男女別：「非常に重要である」のみ)

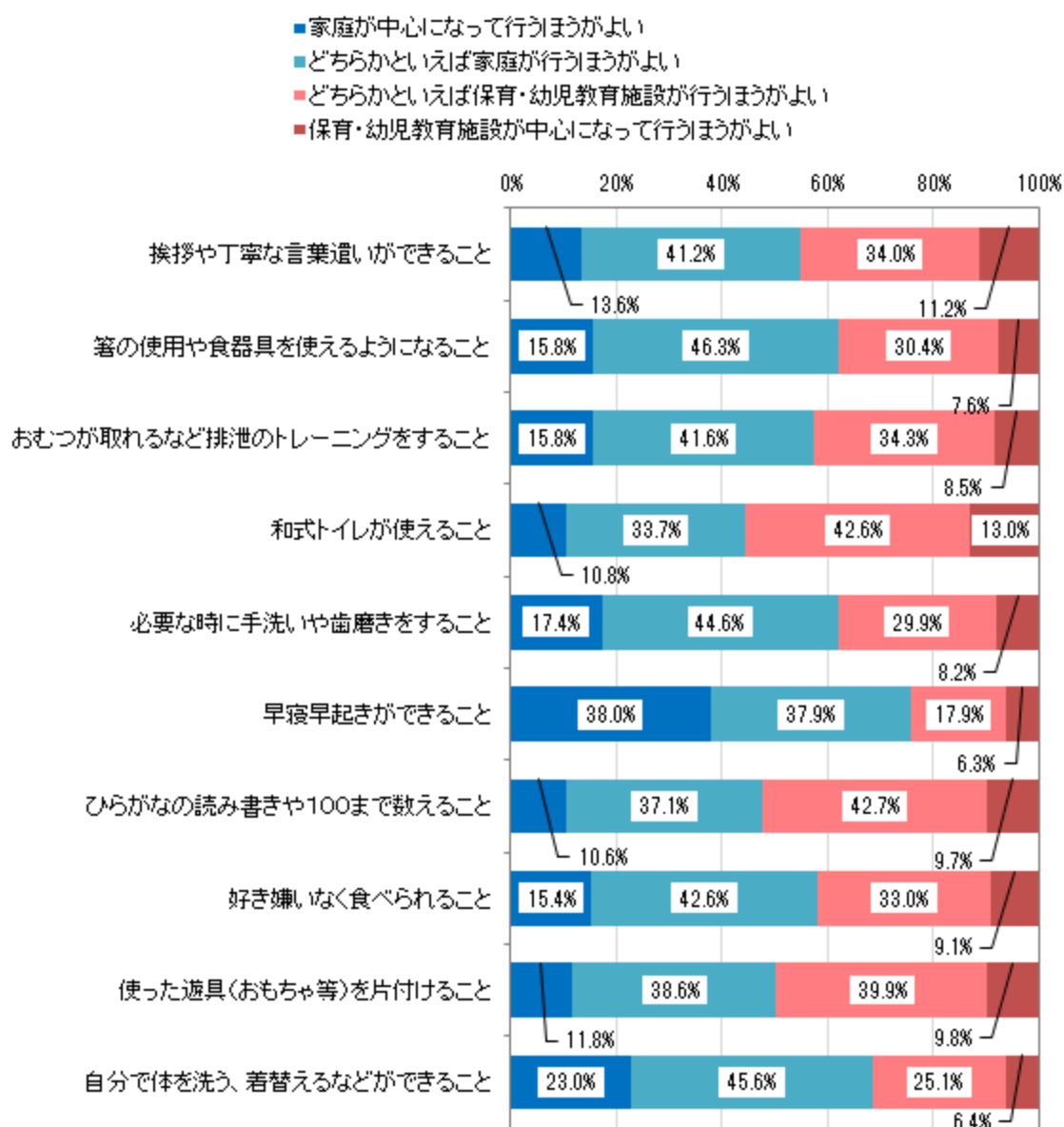
(男性 n=1,008/女性 n= 992)



3-4-4 幼児教育の主体

幼児教育は幼児教育施設と家庭のどちらが中心になって行うほうがよいと考えるか聞いたところ、どの項目も4割～6割は幼児教育施設で行うほうがよいと回答している。幼児が生活習慣を身につけることは、家庭と施設で協力するものと考えているとみられる。

図表 3-44 お子さんが生活習慣や活動を身につける上で、幼児教育施設と家庭のどちらが中心になって行うほうがよいか (n=2,000)

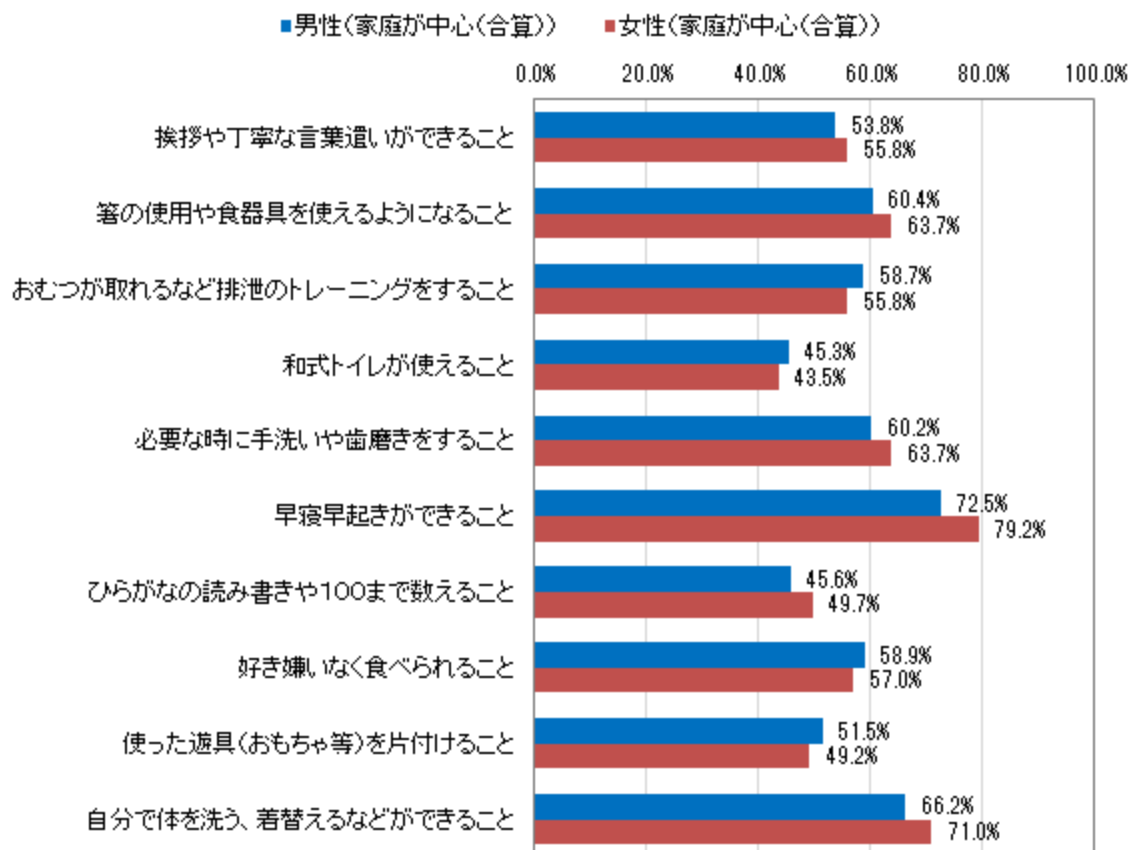


男女別にみても、大きな違いはみられない。

図表 3-45 お子さんが生活習慣や活動を身につける上で、幼児教育施設と家庭の
どちらが中心になって行うほうがよいか

(男女別：「家庭が中心になって行うほうがよい」「どちらかといえば家庭」の合算)

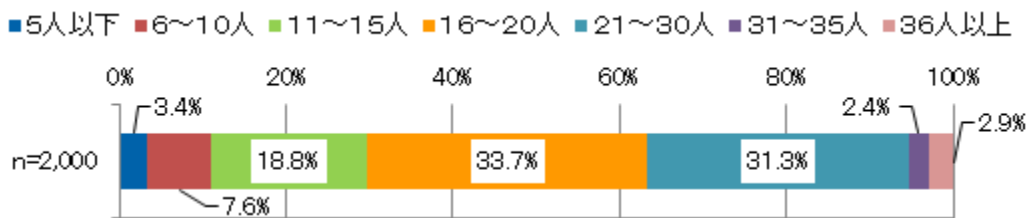
(男性 n=1,008/女性 n= 992)



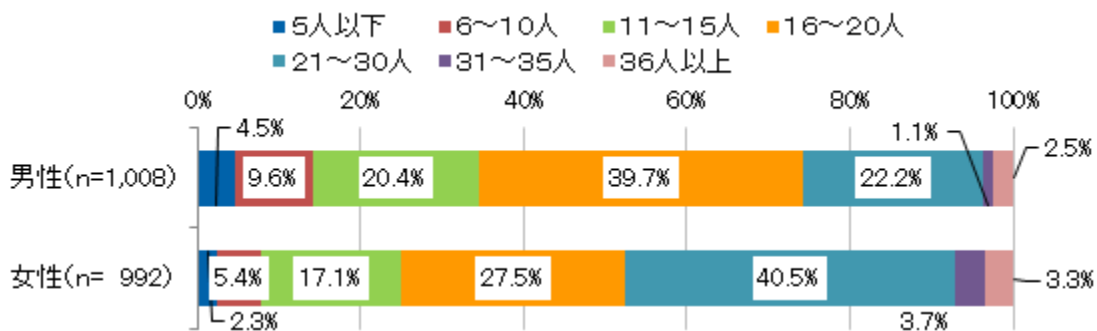
3-4-5 保護者が持つ適切なクラス人数のイメージ

幼児教育施設のクラス人数をきいたところ、以下のような結果となった。

図表 3-46 あなたの第一子のお子さんが通われている、幼児教育施設のクラスの人数

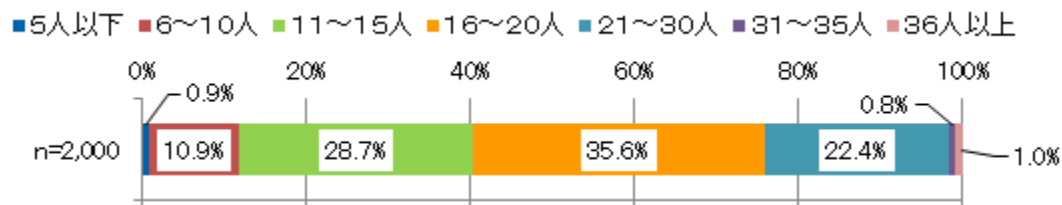


図表 3-47 【男女別】あなたの第一子のお子さんが通われている、幼児教育施設のクラスの人数



続いて、幼児教育施設のクラス人数について、一クラスの理想の人数をきいたところ、20人以下を理想とする層が約8割となっている。

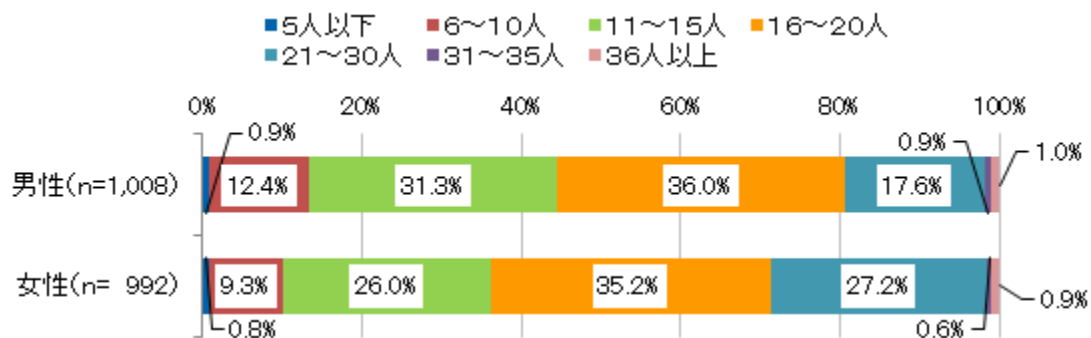
図表 3-48 幼児教育施設の一クラスの理想の人数



男女別にみると、女性よりも男性のほうが、20人以下を理想とする割合が高い。

図表 3-49 【男女別】幼児教育施設の一クラスの理想の人数

(男女別)



3-4-6 幼児教育施設の教育方針

第一子の通う幼児教育施設の教育方針についてきいたところ、以下のような回答が挙げられている。

図表 3-50 保護者による、幼児教育施設の教育方針の把握（自由記述）（回答数：1,347）

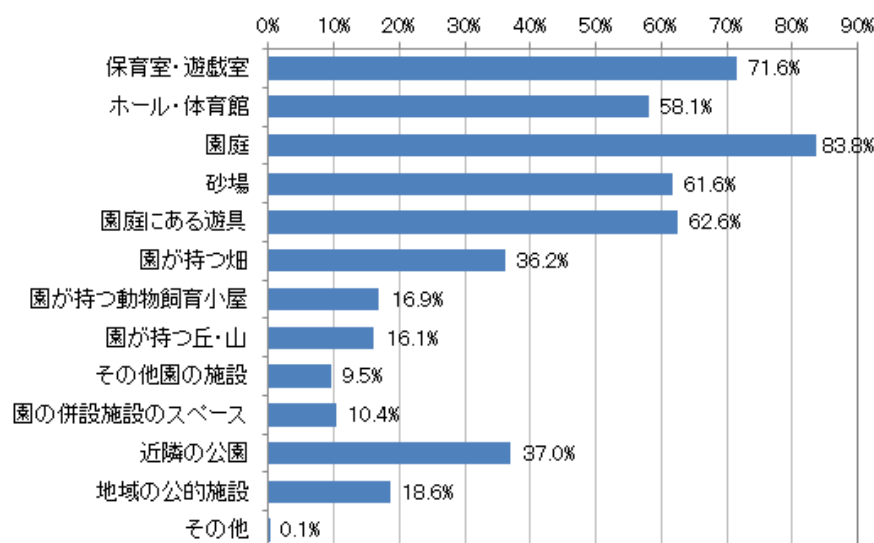
| |
|---|
| 元気・のびのび系 |
| のびのびと子どもがやりたいことを大切に成長を見守る。 |
| のびのびと体とこころを育て、友達と一緒に健やかに過ごせる |
| 行事がさかん、のびのびと子どもたちの個性を伸ばし、好きなことを見つけること。 |
| 子どもがのびのびと生活でき、学び、気づきがある生活 |
| 子どもが好きなことをのびのびでできること。基本的な生活習慣を身につけること。自分の気持ちを言葉で表現できること。 |
| 個性・自主性を育てる |
| 個性を伸ばしながら、社会生活、団体行動ができる人間を育てること |
| 集団行動の中で一般的なことを学びつつ、個性も大事にする。 |
| 心の成長と、個性を大切にすること。 |
| 子どもの自主性が尊重されており、やりたいことなどは積極的に取り組むことができる。 |
| 子どもに自主性を重視。先生がこれをするって言うのではなく、子ども達で何がしたいかを話し合う |
| 一人一人に向き合い、個性を活かした夢を見つけられること。共同生活のなかで他人を思いやり、人の気持ちに寄り添うこと。 |
| 協調性・社会性を育てる |
| 個人を尊重しながらも、全体の協調性指導 |
| あらゆる遊びの体験を通して、思いやり、コミュニケーション能力、社会性、道徳性などを身につける。 |
| 食育、行事、協調性、挨拶、異年齢交流 |
| 感性豊かな、聖く優しい、思いやりの心 |
| 縦割り保育で、異なる年齢の子どもたちと触れ合いながら社会性を養うこと。 |
| 友達と協調しあってたくましく育てる |
| 集団生活の中で、協調性や思いやりの心を育む教育 |
| その他 |
| 自然と寄り添い、自然の中で自分自身で考え成長していく |
| 自然と遊び、遊びは表現で遊びながら沢山学ぶ、丈夫な身体を育む。遊びに夢中になり、自分なりの表現を培う |
| 保育園ではありますがお勉強が特に多いです。 |
| 身体も勉強もどっちもできること |
| ご飯を残さない、食に感謝などの食育に力を入れている。 |
| 遊びの中から発見したり、遊びに没頭したりすること |

3-5 幼児教育施設における遊びの理解

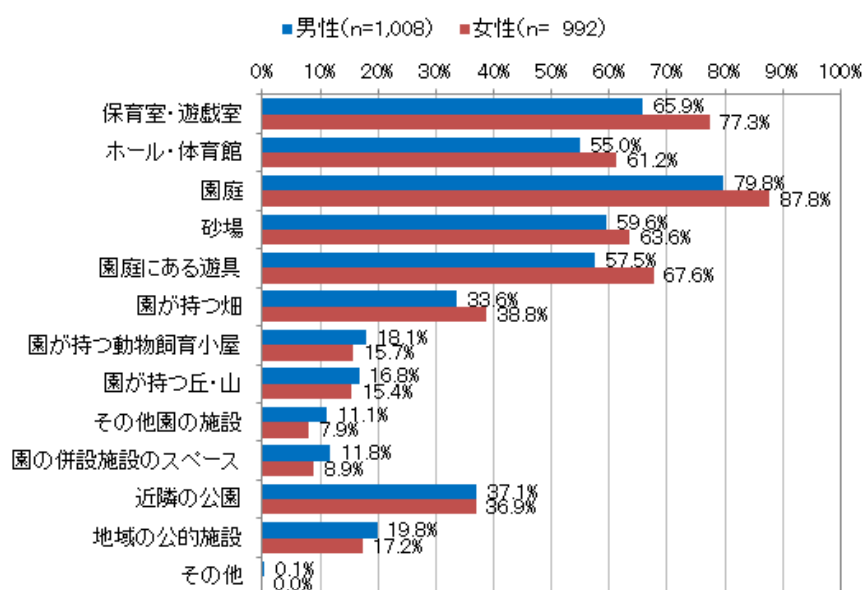
3-5-1 保護者が持つ幼児教育における遊びの場所のイメージ

幼児教育施設での遊びはどのような場所で行われると良いか聞いたところ、「園庭」が83.8%と最も割合が高い。次いで、「保育室・遊戯室」71.6%、「園庭にある遊具」62.6%と続く。

図表 3-51 幼児教育施設での遊びは、どのような場所で行われると良いか
(複数回答) (n=2,000)



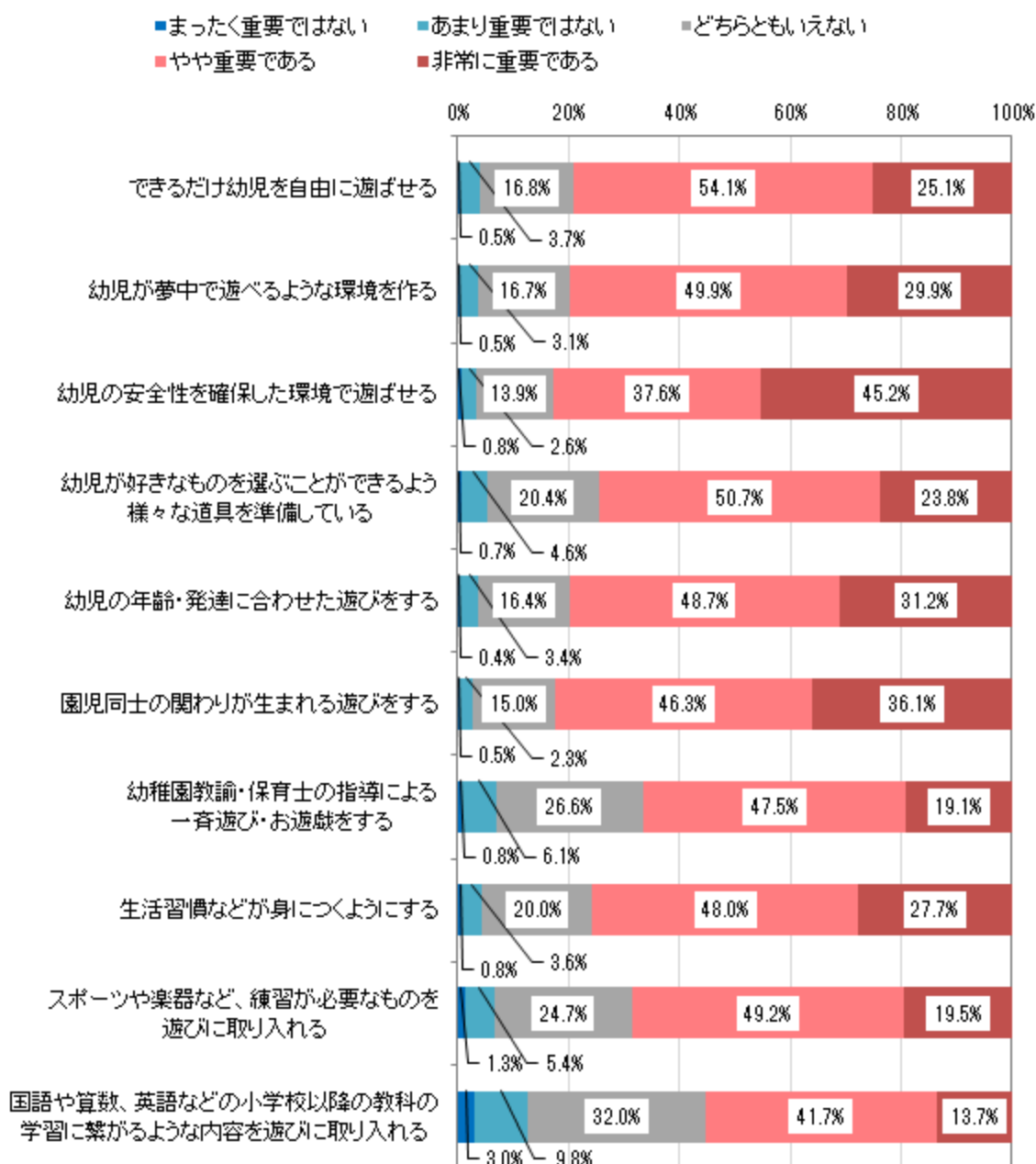
図表 3-52 【男女別】幼児教育施設での遊びは、どのような場所で行われると良いか
(複数回答)



3-5-2 幼児教育施設で行われる遊びで重要視する事柄

幼児教育施設での遊びはどのような点が重要だと思うか聞いたところ、「幼児の安全性を確保した環境で遊ばせる」が45.2%と最も割合が高い。

図表 3-53 幼児教育施設で行われる遊びで重要視する事柄 (n=2,000)

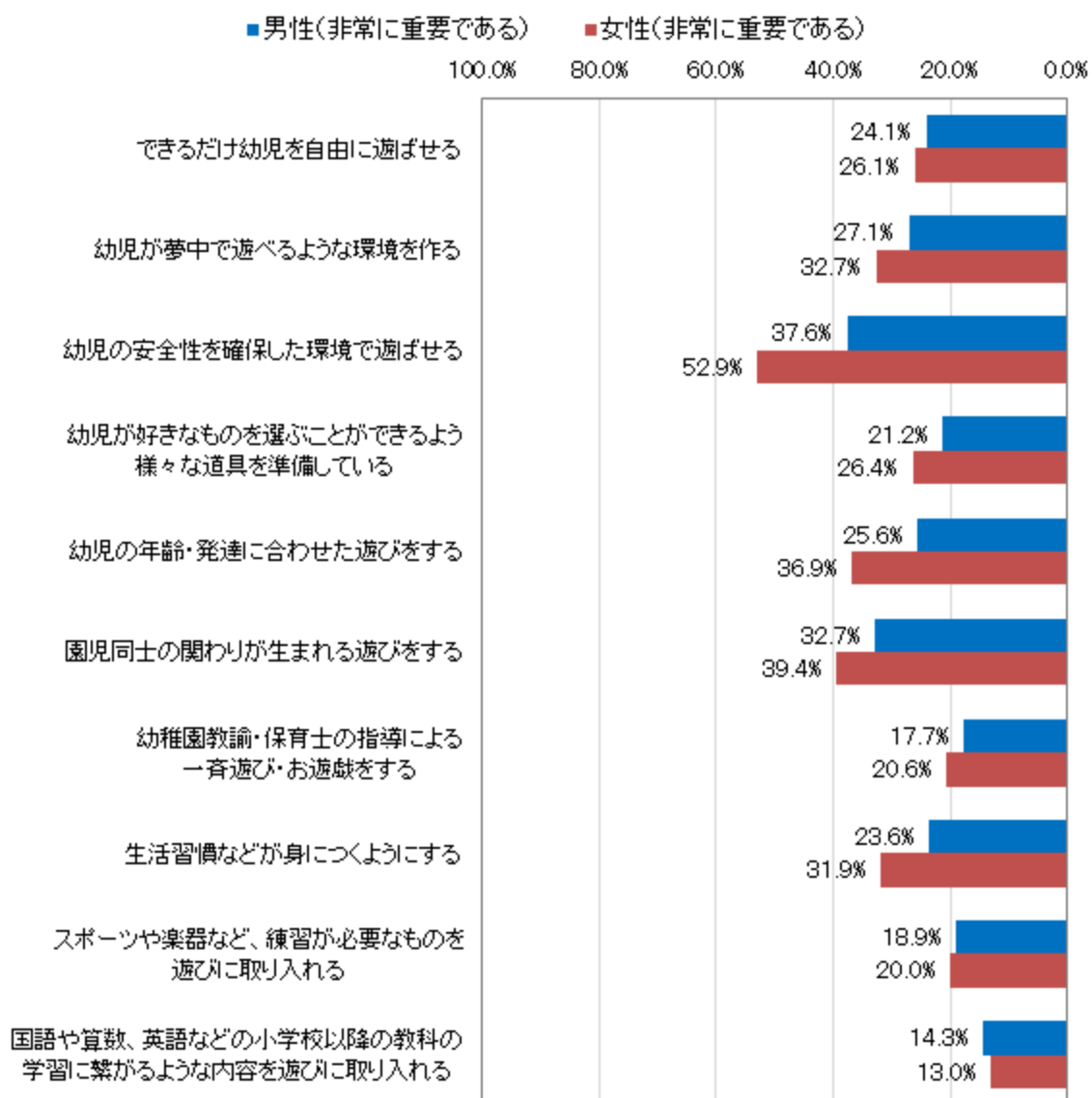


男女別にみると、「幼児の安全性を確保した環境で遊ばせる」は特に女性の割合が高い。

図表 3-54 【男女別】 幼児教育施設で行われる遊びで重要視する事柄

(男女別：「非常に重要である」のみ)

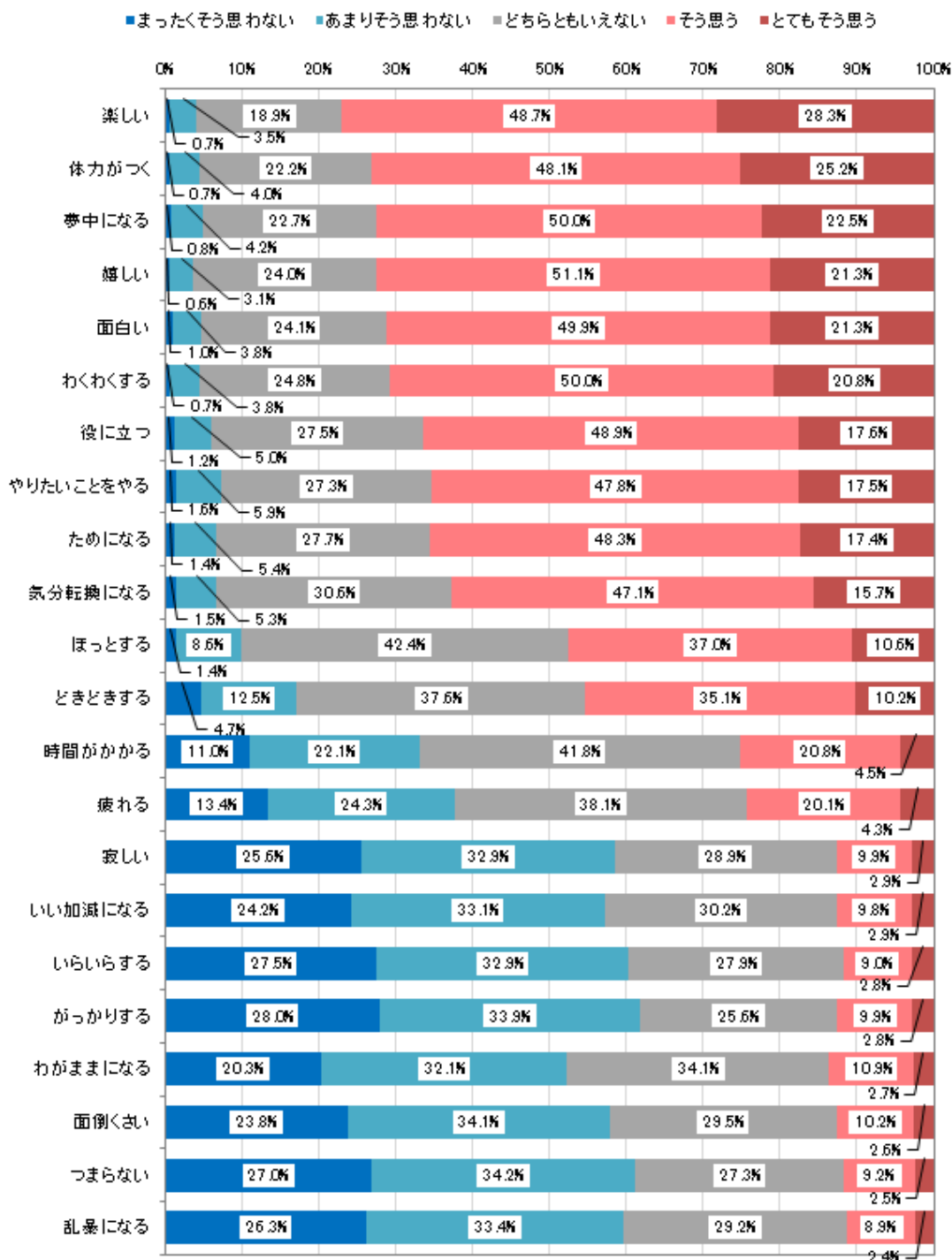
(男性 n=1,008/女性 n= 992)



3-5-3 幼児教育施設での遊びについて持つイメージ

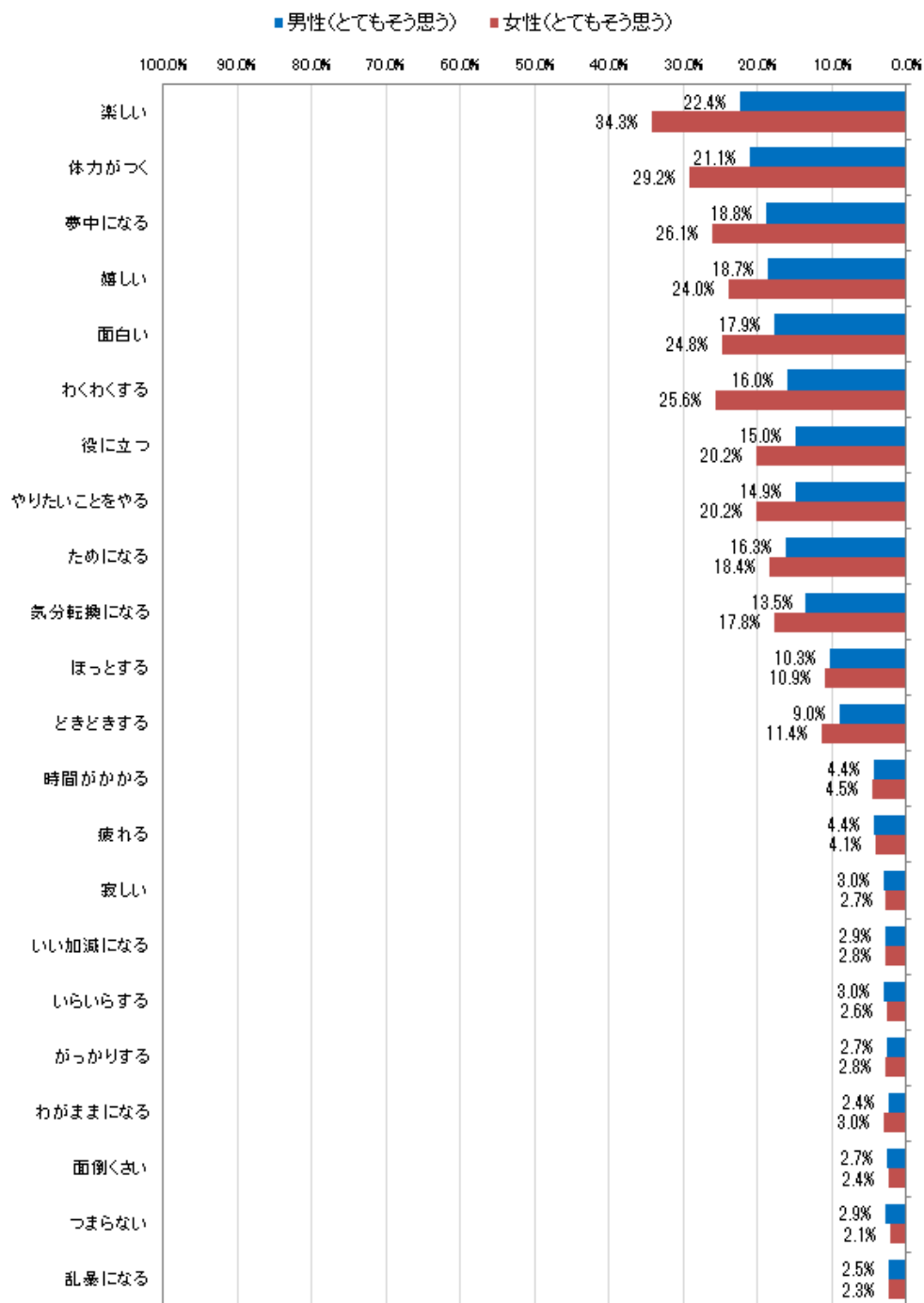
幼児教育施設での遊びについてどのようなイメージを持つかきいたところ、ポジティブなイメージにおいて、「とてもそう思う」1割～3割、「そう思う」5割前後の割合となっている。

図表 3-55 幼児教育施設での遊びについて持つイメージ (n=2,000)



男女別にみると、ポジティブなイメージにおいて、女性の方が「とてもそう思う」割合が高い。

図表 3-56 【男女別】 幼児教育施設での遊びについて持つイメージ
 (男女別:「とてもそう思う」のみ)
 (男性 n=1,008/女性 n= 992)

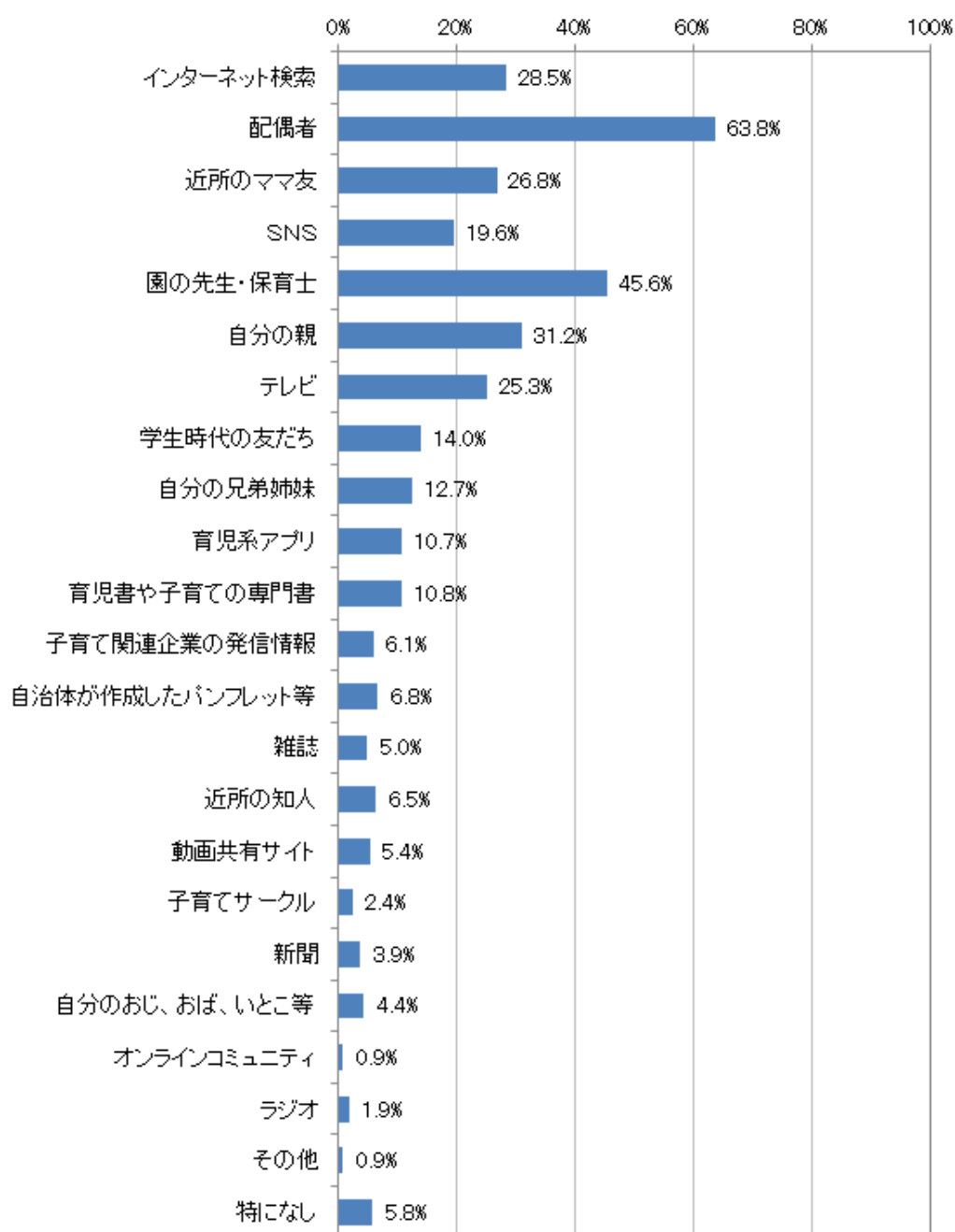


3-6 保護者による子育てや教育に関する情報収集

3-6-1 子育てや子どもの教育についての情報源

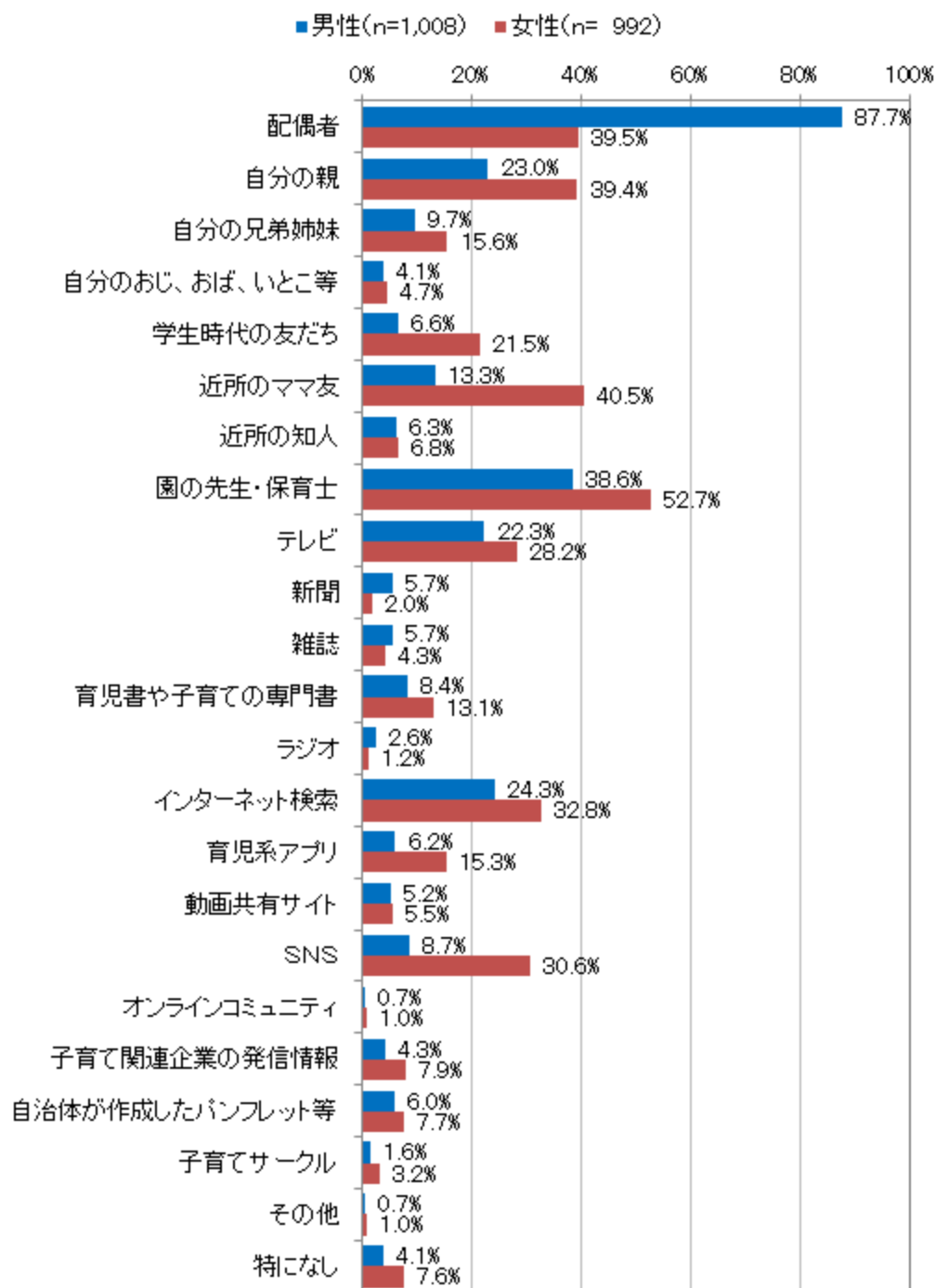
子育てや子どもの教育に関する情報をどのように収集するか聞いたところ、「配偶者」63.8%と最も割合が高い。次いで、「園の先生・保育士」45.6%、「自分の親」31.2%となっている。

図表 3-57 子育てや子どもの教育についての情報源 (n=2,000)



男女別でみると、男性の「配偶者」の割合が高く、父親が母親から情報を得ているものとみられる。当アンケートにおける男性の回答も、配偶者を通して得た情報の場合もあることから、内容の解像度が下がり、各設問の結果に反映されているとみられる。

図表 3-58 【男女別】子育てやお子さんの教育についての情報源



3-6-2 子育てや教育に参考になった・役立った情報

第一子の通う幼児教育施設の教育方針についてきいたところ、以下のような回答が挙げられている。

図表 3-59 子育てや教育について、特に参考になった・役立った情報
(自由記述) (回答数 : 646)

| 園の先生・保育士からのアドバイス |
|---|
| 保育園の先生からのアドバイスは、同年齢の子を見ているだけあってとても参考になる |
| 幼稚園の担任や先生から、子どもの性格について教えてもらったこと。 |
| 担任の先生との会話のなかで聞かれる子育てのエッセンス |
| 良かれあしかれ子育ての方針を決めるのは最終的に親なので、これが特にというのはありません。ただ、保育士の先生方の話はいつも参考になります。 |
| 自分は子どもをマイナスに見ていてしまったが、保育園の先生の言葉で、「でもそれって成長の1つですよ。」と先生はプラスにとらえてくれていたので、はっと気づくことができた。 |
| インターネット (SNS、ブログ、育児・教育系サイトやアプリ、動画) |
| インターネットで調べたもの。主に医者や子育てブログなど |
| てい先生の YouTube やらなければならぬことを気持ちよくやってもらうための声かけの仕方 |
| SNS で子どもへの対応の仕方についていい方法を見つけて実践したら改善することができたので役に立った |
| 子どもへの声かけの仕方を Instagram で見てとても参考になりました。 |
| 子どもへの声かけ、関わり方など、Instagram やアプリなどでたまにとっても共感できる内容がある。 |
| 子育てサイトでの情報共有 |
| ママのアプリで色々情報を調べて役に立ちました |
| 自分の親・兄弟、ママ友 |
| 自分の親からの経験上の情報やアドバイスは役に立った |
| 自分の兄弟の実際の子育てした体験談 |
| 先輩ママ友のはなしはネットなどにのっていない、地域のことや園、学校の詳しいことをきけるので助かります。 |
| 保育園の先輩パパからの行事に関する情報。 |
| その他 |
| 子育て支援拠点(いわゆる児童館)のスタッフ、区役所の職員や保健師、保育園の保育士さんたちのお話と通信教育 |
| 地域で実施されている健診の際、保健士さんの面談の内容 |
| 地域の乳幼児が集まるコミュニティサークル |
| 発達障害の本。療育施設で紹介してもらった本が、指針となっている。こどもをこどものうちにたくさん甘えさせることが大切という中身。 |
| NHK の E テレ、すくすく子育てを何度か観たことがあります。子育て専門の大学の教授とか出演しているので、参考にしていました。 |
| 大学の発達心理学の先生のご講演内容 |

3-7 まとめ

保護者アンケートでは以下のことがわかった。

幼児教育施設とのやり取りや情報共有の取組について、保護者も「登降園の際での会話」「運動会、園内の行事に保護者が参加」と、施設と同じ項目で、実施の認知度や参加度、理解度が高い結果となった。一方で、「掲示物」「園のHPやブログ」「運動会等、園内の行事に保護者が参加」等は保護者では認識が低い。

また、保護者は、幼児教育施設に対して満足している層が8割と高く、幼児教育施設から伝えられている内容についても、どの項目においても「伝えられている（十分に伝えられている+やや伝えられている）」の層が6~7割となっている。

幼児教育の内容や、幼児が修了（卒園）するときに備わってほしいことでは、「論語や百人一首など古典を知ること」を除き、遊びや周囲との関わりに関する項目のほか、知的教育を想起させる項目などのいずれにおいても、重要視する割合が8~9割と高い結果となった。

幼児教育は幼児教育施設と家庭のどちらが中心になって行うほうがよいと考えるかきいたところ、どの項目においても、「幼児教育施設で行うほうがよい（幼児教育施設が中心になって行うほうがよい+どちらかといえば幼児教育施設）」が4割~6割となっており、家庭と施設で協力するものと考えているとみられた。

第4章 比較分析

幼児教育施設アンケートと保護者アンケートの結果を比較し、幼稚園等と保護者の認識の共有状況やずれを分析する。

4-1 幼児教育施設と家庭とのやり取り

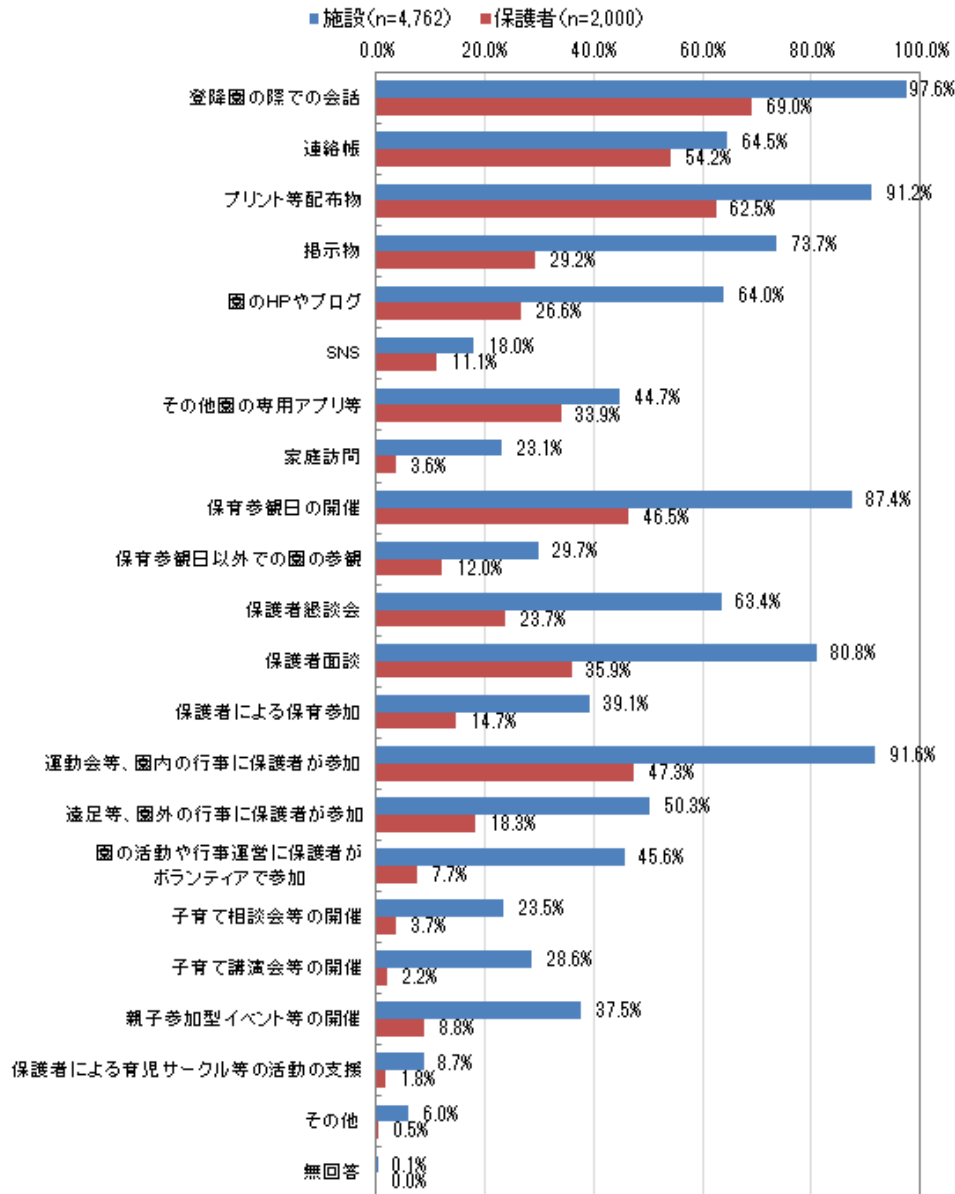
4-1-1 幼児の様子や幼児教育に関する情報の伝え方

幼児教育施設と家庭の間における、やり取りや幼児教育に関する情報の共有方法についてみると、最も割合が高い伝え方は施設・保護者ともに、「登降園の際の会話」となっている。

一方で、「掲示物」「園のHPやブログ」「運動会等、園内の行事に保護者が参加」等については、施設は割合が高く伝え方として実施しているが、保護者では割合が高くなく、施設が想定しているほど活用されていない可能性がある。

図表 4-1 幼児教育施設と家庭の間における、幼児の様子や幼児教育に関する情報の伝え方（複数回答）

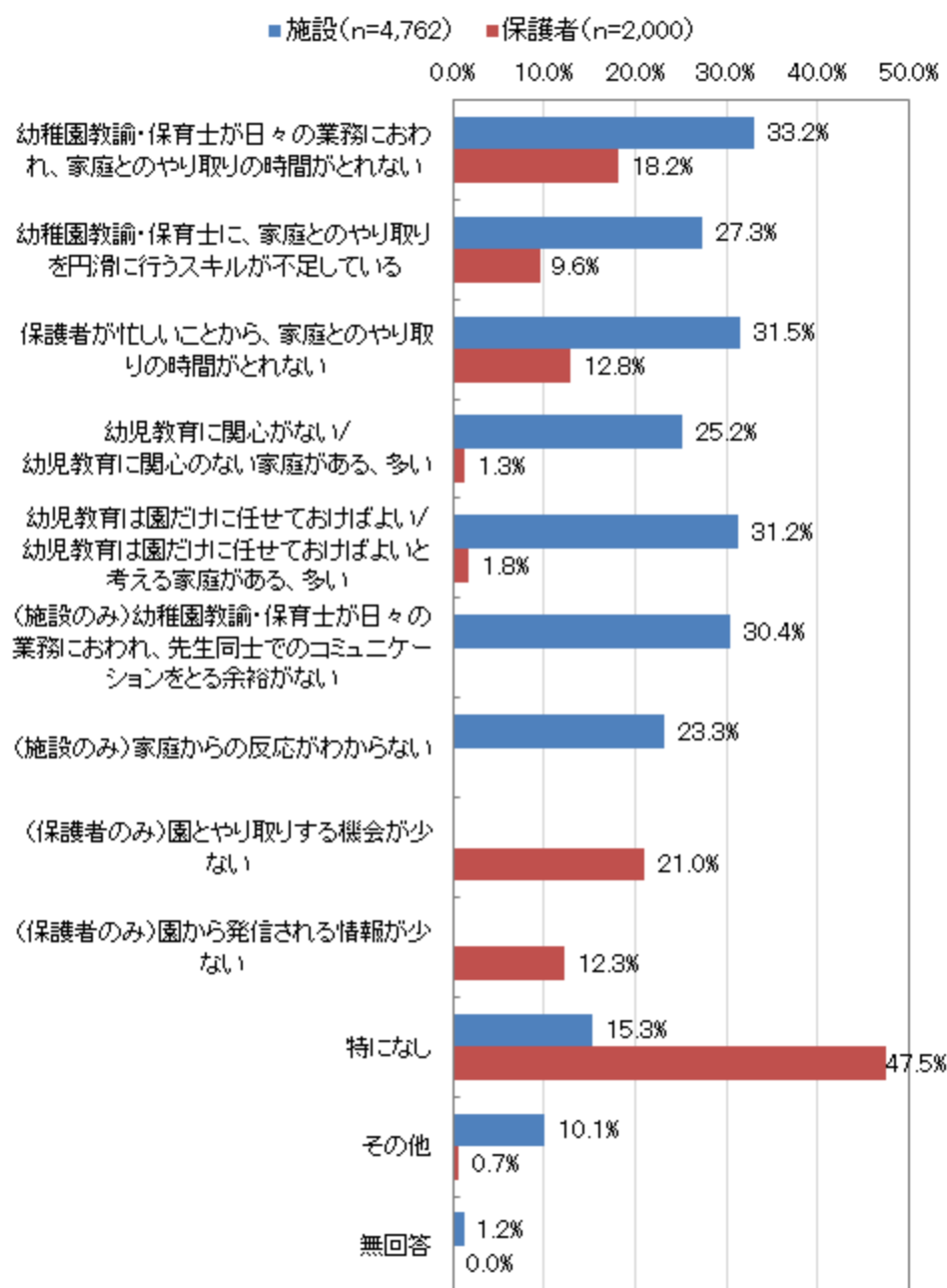
（アンケート施設 問7／保護者 問3）



4-1-2 幼児教育施設と家庭とのやり取りにおける課題感（複数回答）

幼児教育施設と家庭の間における、やり取りや幼児教育に関する情報共有における課題についてみた。施設は、保育者や家庭の時間のなさ、家庭の幼児教育への関心のなさ、施設との考え方の違い等、課題を多岐にわたってあげている。一方、保護者は「特になし」が半数を占めている。また、保護者は2割が「園とやり取りする機会が少ない」を課題としてあげている。

図表 4-2 幼児教育施設と家庭とのやり取りにおける課題感（複数回答）
（アンケート 施設 問 11／保護者 問 8）

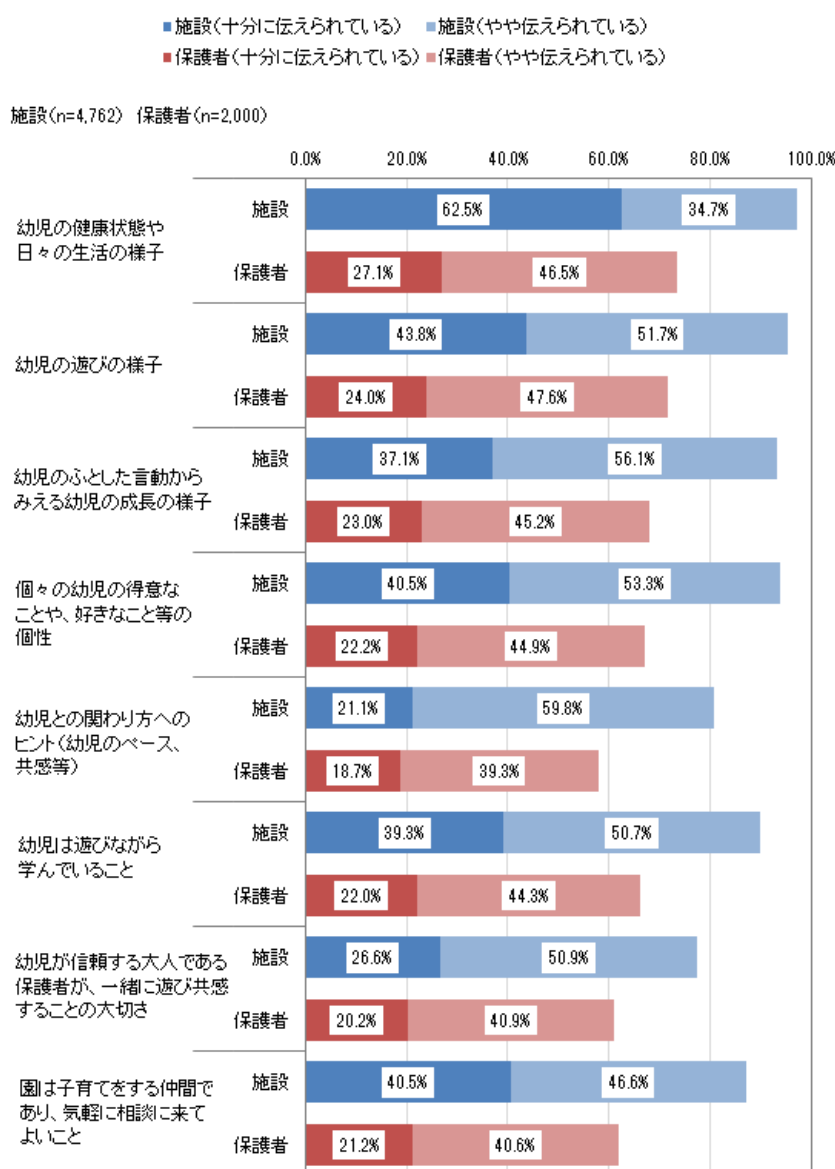


4-1-3 幼児教育施設と家庭の情報共有で、伝えられている内容

幼児教育施設と家庭の情報共有で、幼児教育施設から伝えられている内容について、保護者は「やや伝えられている」を含めた場合、各項目とも6～7割は伝えられている。一方で、保護者の「十分に伝えられている」の割合は、施設の「十分に伝えられている」を下回る傾向にある。

特に、「幼児のふとした言動からみえる幼児の成長の様子」「個々の幼児の得意なことや、好きなこと等の個性」は、施設と保護者で伝えられているとする割合の差が大きく、施設が考えているほど保護者に伝わっていない可能性がある。

図表 4-3 幼児教育施設と家庭の情報共有で、伝えられている内容
(アンケート 施設 問8/保護者 問6)



4-2 教育内容に関する考え

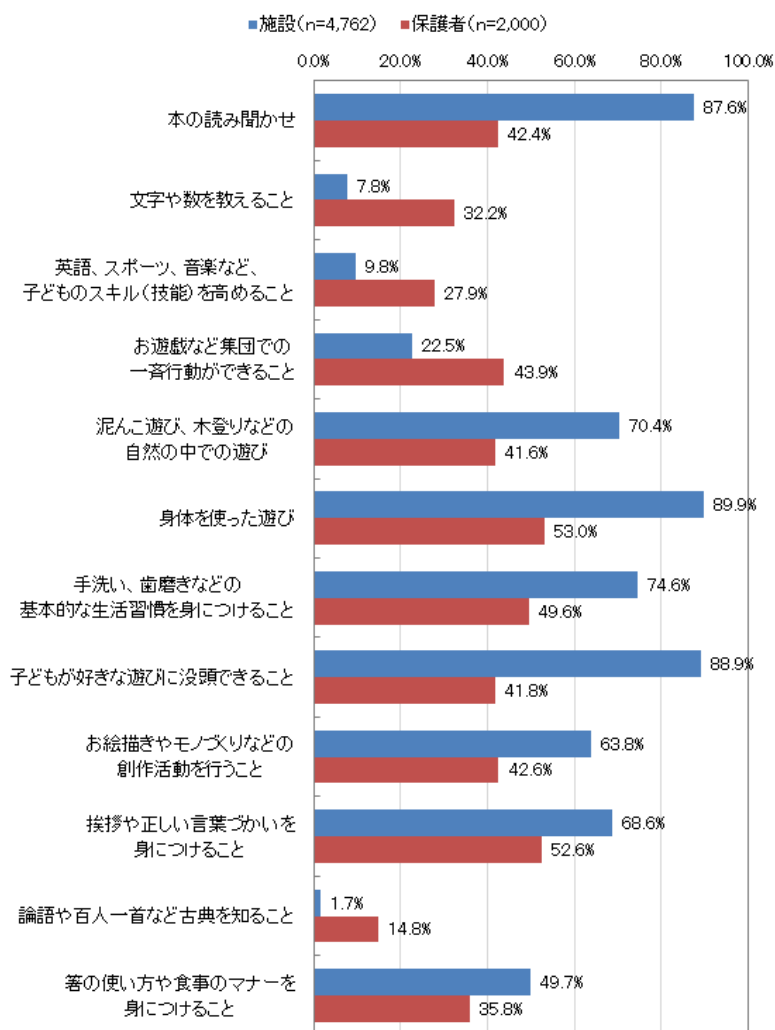
4-2-1 幼児教育施設で行う教育内容として、重要視する事柄

幼児教育施設で行う教育内容として重要視する事柄において、施設は「身体を使った遊び」「子どもが好きな遊びに没頭すること」「本の読み聞かせ」の割合が高い。その一方で、「お遊戯など集団での一斉行動ができること」「英語、スポーツ、音楽等、子どものスキルを高めること」「文字や数を数えること」等の学習に関するものは割合が低いなど、項目によって濃淡がはっきりしている。

一方で、保護者は、「論語や百人一首など古典を知ること」を除き、どの項目も3～5割前後と項目間の差が小さい。また、「お遊戯など集団での一斉行動ができること」「文字や数を数えること」「英語、スポーツ、音楽など、子どものスキルを高めること」等の学習に関するものは、施設より重要であると考えられる割合が高い。施設が考える遊びの重要な内容が保護者には十分伝わっていない可能性もある。

図表 4-4 幼児教育施設で行う教育内容として、重要視する事柄

(アンケート 施設 問 12/保護者 問 10) (※「非常に重要である」と回答した割合)



4-2-2 幼児教育施設を修了（卒園）する時に備わってほしいこと

幼児教育施設を修了（卒園）する時に備わってほしいこととして、施設は「健康な心と体が育つこと」「友達と協力して遊ぶこと」等、健康と友達との関わりを重視する傾向がある。一方で、学習に関する項目は割合が低く、項目によって濃淡がはっきりしている。

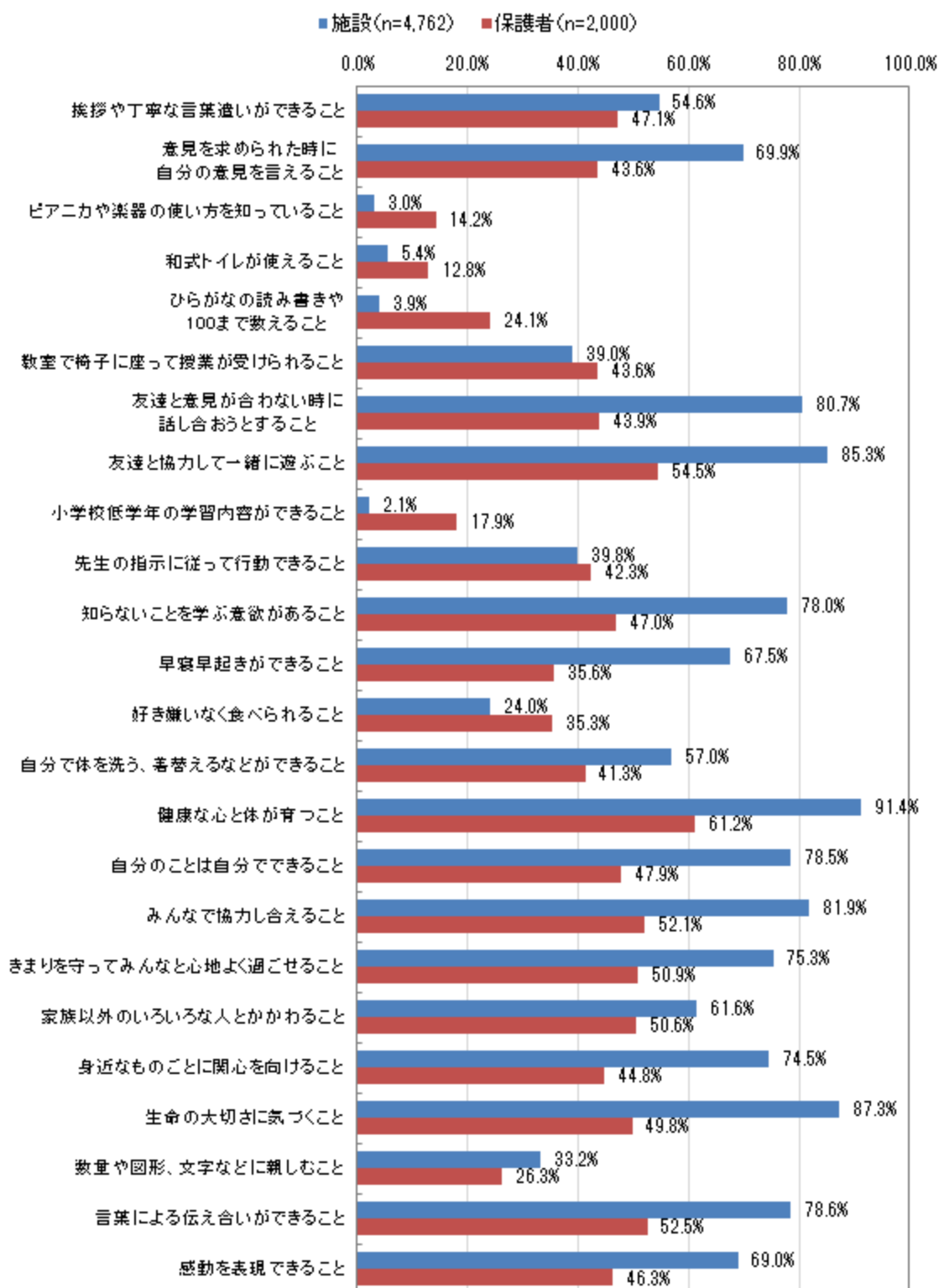
保護者も、施設と回答傾向は似ているが、どの項目も大体3～5割程度となっており、施設と比べると項目間の差が小さい。

また、「ピアノや楽器の使い方を知っていること」「ひらがなの読み書きや100まで数えること」「小学校低学年の学習内容ができること」等の学習に関する項目や、「和式トイレが使えること」は、施設より備わってほしいと考える割合が高い。

図表 4-5 幼児教育施設を修了（卒園）する時に備わってほしいこと

（アンケート 施設 問13／保護者 問12）

（※「非常に重要である」と回答した割合）



4-2-3 幼児教育は幼児教育施設と家庭のどちらが中心か

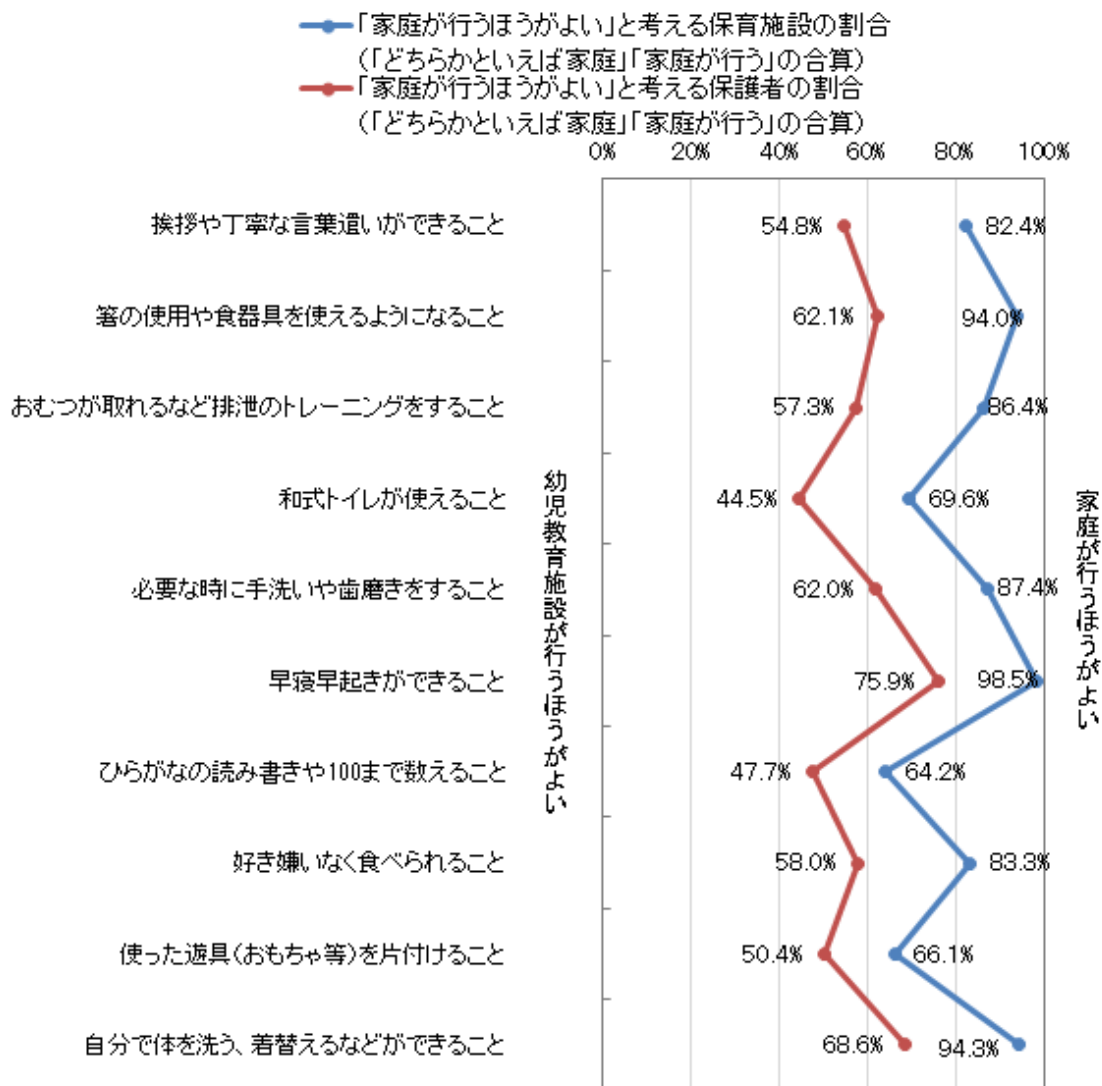
幼児教育は幼児教育施設と家庭のどちらが中心になって行うほうがよいと考えるかについて、施設と保護者ともに割合の傾向は似ており、「早寝早起き」は家庭で、「和式トイレが使えること」は施設の割合が高くなっている。

なお、施設は大体の項目において、8割～9割は家庭が行うほうがよいと回答している。幼児が生活習慣や活動を身につけることは、家庭が主で行うものと考えているとみられる。

一方、保護者はどの項目も4割～6割は幼児教育施設で行うほうがよいと回答している。幼児が生活習慣を身につけることは、家庭と施設で協力するものと考えているとみられる。

図表 4-6 幼児教育は幼児教育施設と家庭のどちらが中心になって行うほうがよいと考えるか

(アンケート 施設 問14/保護者 問13)

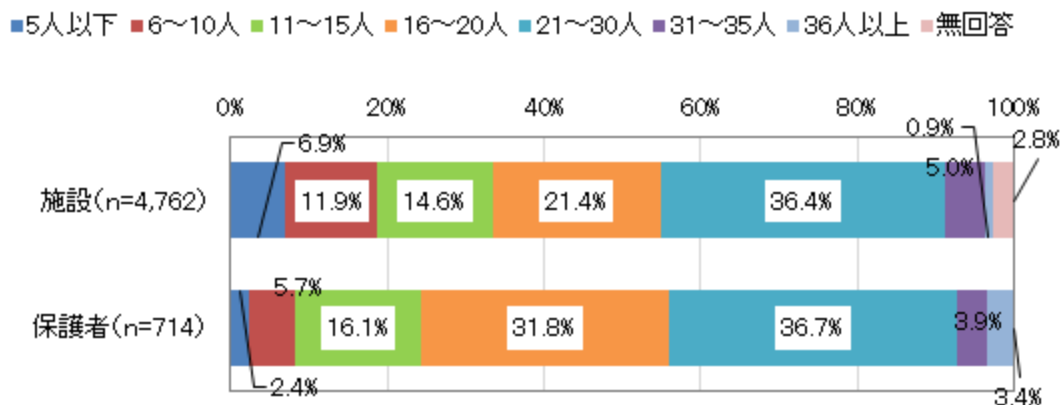


4-3 幼児教育施設について

4-3-1 適切なクラス人数

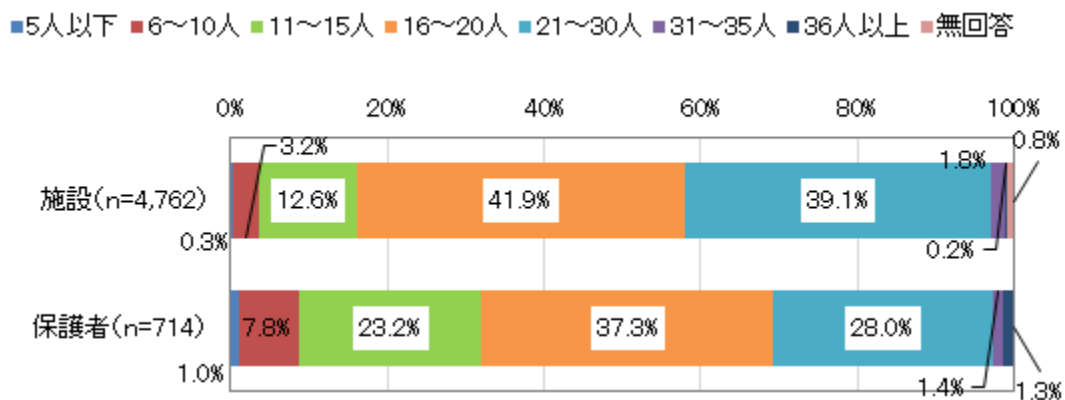
現在の5歳児クラスの人数は以下の通り。

図表 4-7 幼児教育施設の5歳児クラスの人数は何人ほどか
(施設 問 15/保護者 問 14 ※5歳児の保護者のみで集計)



5歳児クラスの理想の人数についてきいたところ、施設・保護者ともに、最も割合が高いのは「16~20人」となっている。保護者のほうが、より小さい集団を求めている。

図表 4-8 幼児教育施設の5歳児クラスの人数は何人ほどが理想であると思うか
(施設 問 15/保護者 問 14 ※5歳児の保護者のみで集計)



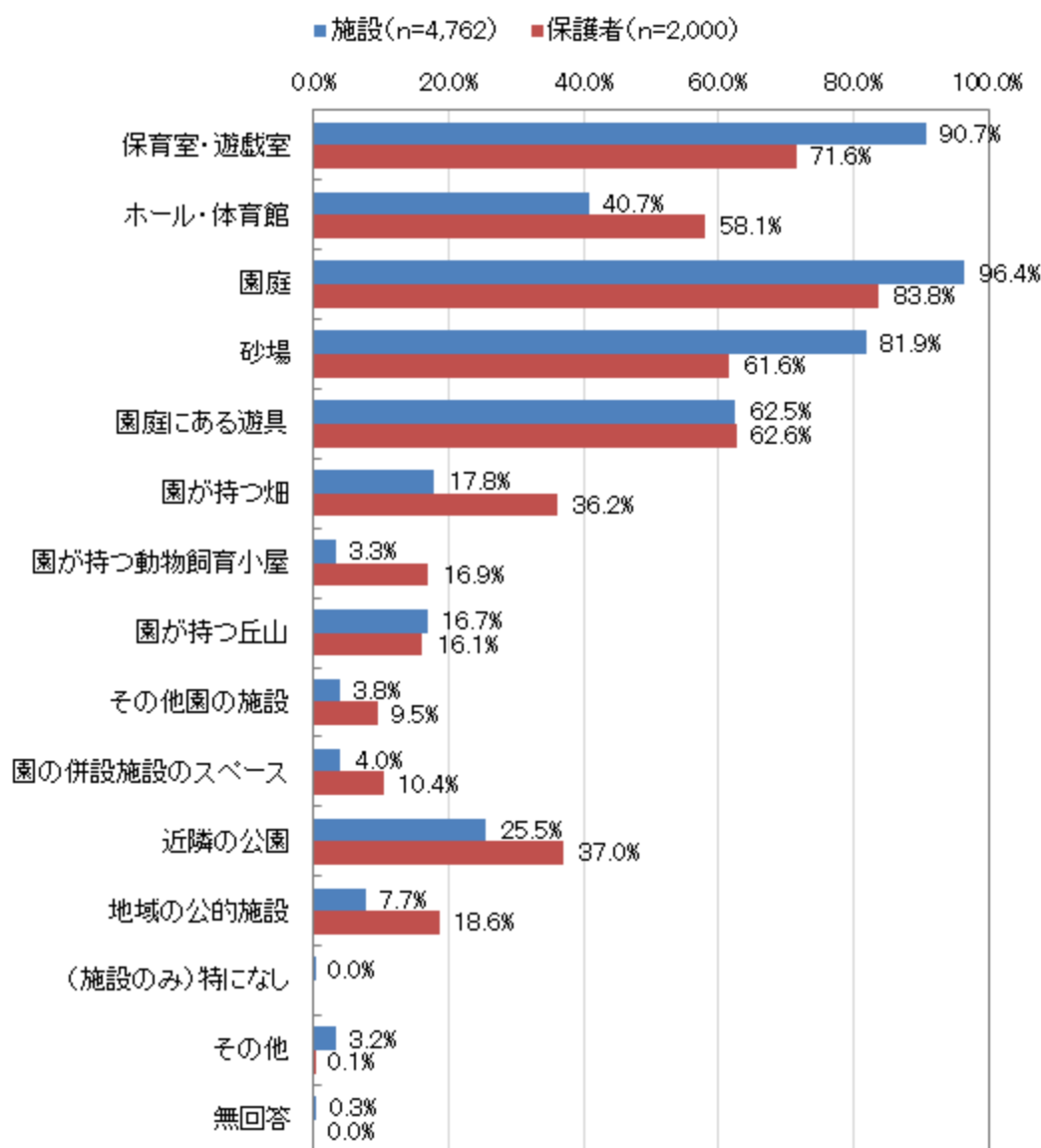
4-3-2 幼児教育施設での遊びの場所

幼児教育施設での遊びは、どのような場所で特に盛り上がるか／遊びが行われると良いと思うかきいたところ、「保育室・遊戯室」～「園庭にある遊具」までは、施設と保護者の間でもそれほど差はない。

「園が持つ畑」以降は、そもそもその場所がない施設が多いため、施設の割合が低く保護者のほうが逆転している。

図表 4-9 幼児教育施設での遊びは、どのような場所で特に盛り上がるか／遊びが行われると良いと思うか

(アンケート 施設 問18／保護者 問17)



4-4 遊びについて

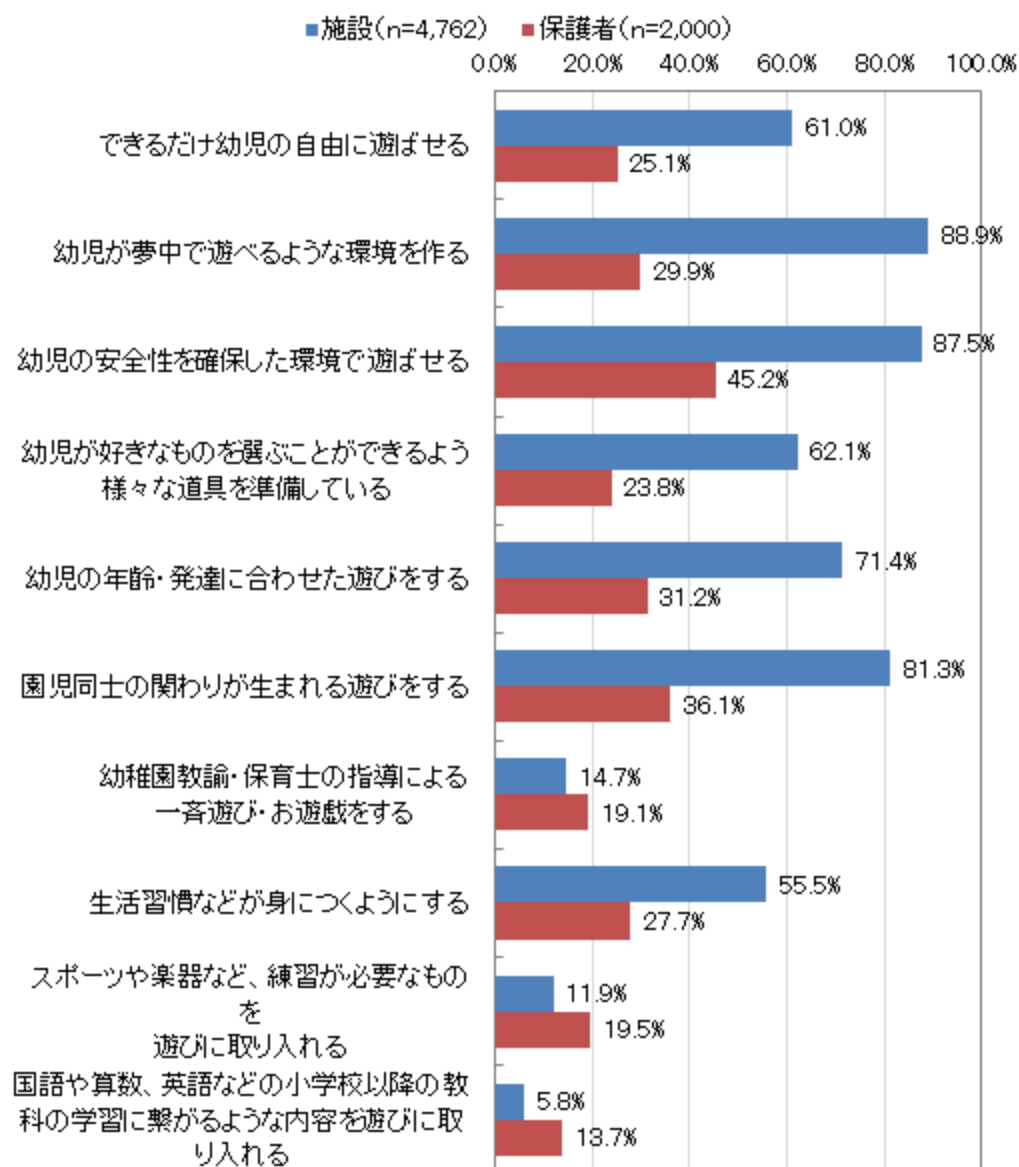
4-4-1 遊びを行う中で重要視する事柄

遊びを行う中で重要視する事柄についてきいたところ、「幼児が夢中で遊べる環境を作る」「園児同士の関わりが生まれる遊びをする」の項目で、施設が8～9割であることに対し、保護者は3割となっている。

また、保護者は「幼児の安全性を確保した環境で遊ばせる」の割合が最も高い。施設は、幼児の安全性に加え「幼児が夢中になって遊べる」ことを重要視している。子どもが、夢中になって遊ぶことについては、保護者の理解が進んでいない可能性がある。

図表 4-10 遊びを行う中で重要視する事柄

(アンケート 施設 問 19/保護者 問 18) (※「非常に重要である」と回答した割合)



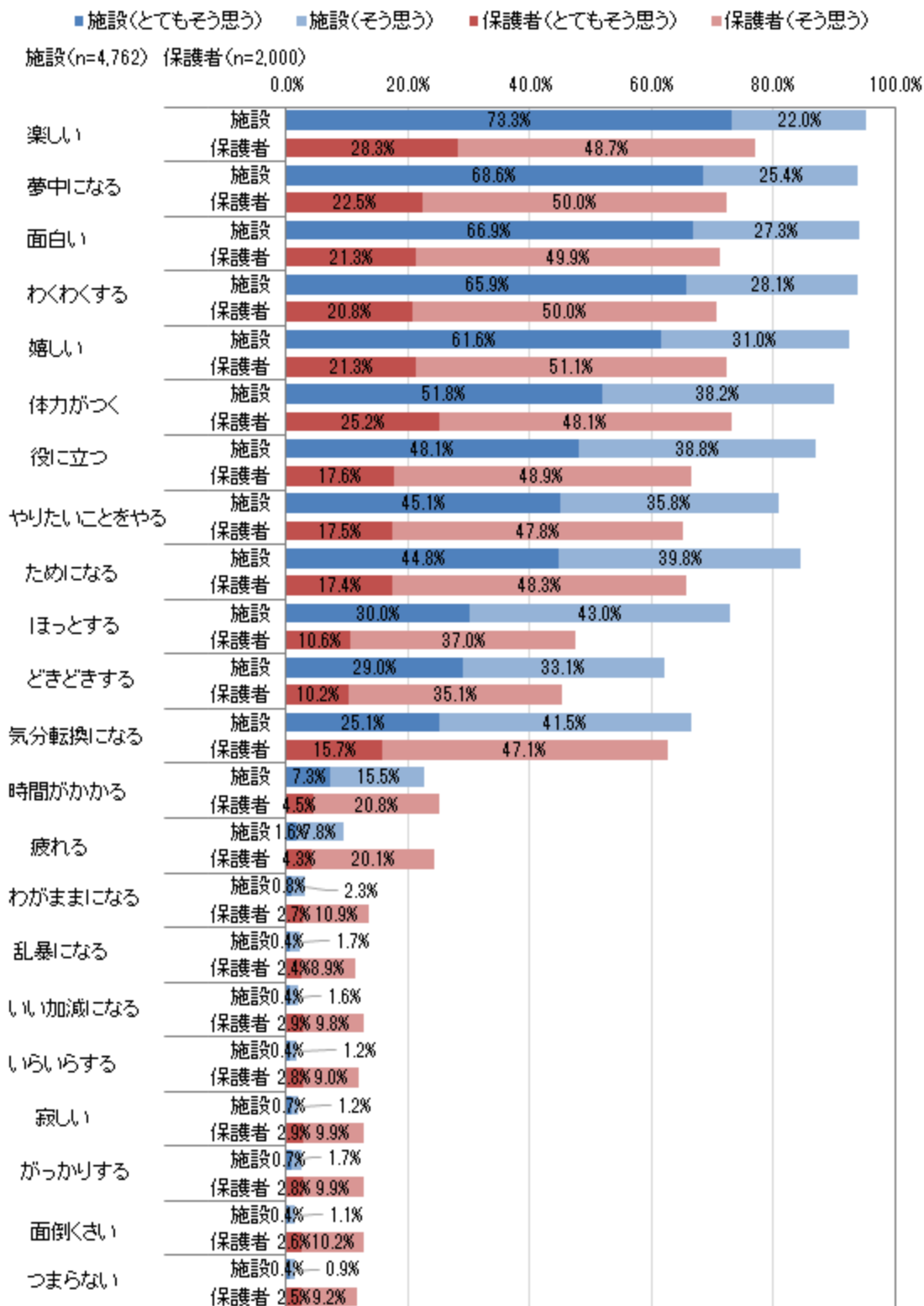
4-4-2 幼児教育施設での幼児の遊びについて持つイメージ

幼児教育施設での幼児の遊びについて持つイメージについてきいたところ、施設・保護者ともに傾向は似通っているが、保護者が「そう思う」の割合が高いことに対し、施設は「とてもそう思う」の割合が高く、濃淡がはっきりしている。

図表 4-11 幼児教育施設での幼児の遊びについて持つイメージ

(アンケート 施設 問 22/保護者 問 19)

(※「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合)



4-5 まとめ

施設アンケートと保護者アンケートの回答結果を比較したところ、以下のことがわかった。

幼児の遊びに関する重要性についても、大きな部分では傾向は似通っているものの、施設と保護者で以下のような認識の差異がみられた。

- ・保護者は、施設が考えるほど「身体を使った遊び」「子どもが好きな遊びに没頭すること」「本の読み聞かせ」等を重要視しておらず、「お遊戯など集団での一斉行動ができること」「英語、スポーツ、音楽等、子どものスキルを高めること」「文字や数を数えること」等は保護者の方が重要視している。
- ・幼児教育施設を卒園する時に、施設は「健康な心と体が育つこと」「友達と協力して遊ぶこと」等が備わってほしいと考えているが、保護者はそこまで強く考えていない。
- ・遊びを行う中で施設は、「幼児が夢中で遊べる環境を作る」「園児同士の関わりが生まれる遊びをする」ことを重要視しているが、保護者の重視度は高くない。

また、幼児教育施設と保護者との間における、やり取りや幼児教育に関する情報の共有方法についてもいくつかの課題がみられた。幼児教育施設と保護者とのやりとりは、両者ともに「登降園際の会話」の割合が高く共通しているものの、「掲示物」「園のHPやブログ」「運動会等、園内の行事に保護者が参加」等については、幼児教育施設が実施しているほど保護者が活用していない可能性がみられた。

また、共有内容については、「幼児のふとした言動からみえる幼児の成長の様子」「個々の幼児の得意なことや、好きなこと等の個性」などの情報は、施設が考えているほど保護者に伝わっていない可能性がある。

さらに、やり取りや情報共有における課題について、施設が保育者や家庭の時間のなさなど多くのことについて課題だと感じているのに対し、保護者側はあまり課題として感じていなかった。ただし、保護者は2割が「園とやり取りする機会が少ない」を課題としてあげているなど、機会の少なさが一部の保護者にとっては課題となっている。

第5章 ヒアリング調査

幼児の遊びに関する重要性に関する認識の差異や、幼児教育施設と保護者との間におけるやり取りにおいて保護者と認識の差異の解消に向けて、幼稚園等の幼児教育施設がどのような方法で家庭等との連携を行っているか、具体的な取組内容を明らかにするためにヒアリング調査を行う。

5-1 調査方法

5-1-1 調査対象

保護者アンケート「幼児教育施設からの情報共有における、特に理解できる方法（図表 3 29）」において、上位であった以下の取組について、施設アンケートで自由記述に具体的な方法を記載しており、特徴的な取組を行っていた施設を対象にヒアリングを行う。

■幼児教育施設からの情報共有で保護者が特に理解できる方法(上位5つ)■

- (1) 登降園の際の会話
- (2) 連絡帳
- (3) プリント等配布物
- (4) 保育参観日の開催
- (5) 行事に保護者が参加

施設アンケートの以下の2つの質問において、上の5つの方法に関する特徴的な取組を行っていた園（計7園）に対して、各施設の取組について、どのような方法で家庭等との連携を行っているか、家庭等との連携を行い幼児教育に関する認識を家庭等と共有することで、幼児の成長や発達促進においてどのような効果があったか等をヒアリングした。

- ・家庭とのやり取りや、幼児の様子を伝える取組について、貴園での特徴的な取組や、実施してみて効果的な取組がありましたらご紹介ください（図表 2-13）
- ・「遊びの重要性」を伝える方法について、具体的な方法をご回答ください。（図表 2-24）

この回答の中から、「何があったかの情報を伝えるだけでなく、保育者がみとった子どもの遊びの様子や成長の様子を伝えるような工夫をしている」「保護者に、子どもがどのように遊んでいるか実際の様子を伝えるとともに、遊びを通じてどのような経験を重ねているか、どのように成長しているかを、経過とともに伝えている」事例を抽出した。

また、ヒアリングでは、上記5つの方法以外にも、ヒアリング対象園が実施している以下の方法（園からみて有効だと感じられた方法）についてもヒアリングを行い、結果を取りまとめている。

■その他、ヒアリングで話を伺った取組■

- (6) 掲示物
- (7) 園のHPやブログ、連絡アプリ等、SNS
- (8) 親子参加型イベント等の開催
- (9) 講演会・説明会の開催、入園説明会

なお、アンケートにおいてヒアリング可否を聞いており、ヒアリング可の園の中から抽出している。また、他園への参考になることを念頭に、園児数が少ない園については対象外としている。

5-1-2 調査方法

オンライン（Zoom）（各施設45分程度）

5-1-3 実施期間

令和6年1月25日～令和6年2月22日

5-2 ヒアリング結果

7園のヒアリングから、各やり取りの具体的な内容を紹介する。幼稚園等では、以下のような取組が行われていた。

5-2-1 登降園の際の会話

同園は徒歩通園であり、朝・夕の登降園は保護者による送迎が行われる。特に降園時は、一斉に帰るので、保護者全員に向けて、子ども達の今の姿を伝えるようにしている。数分程度ではあるが、その日、どのような遊びをしたか、どのように育っているかを毎日伝えている。また、幼児の引き渡しの際には、各保護者と個別のやり取りも行っている。

全体に向けて遊びの内容を伝える際は、「●●の遊びをしたが、共通してこんな姿がみられた」「こういったことが育った」と、保護者が自分の子どもも関わることでイメージができるように伝えている。

個別の保護者とのやり取りにおいても、例えば「遊びのときにこんなアイデアを出してくれました」といった、その子どもの良さや成長がみられたことを伝えている。

同園は保護者による送り迎えが行われている。降園時は、保護者に保育室まで入室し集ってもらい、その日一日の活動内容や幼児の様子、その様子を見て担任が感じたことや成長がみられたことなどを保護者全体に伝えている。また、保護者は、保育室に入るので、幼稚園での子どもの様子やクラスの様子、友だち関係などを知ることができる。

帰る際には、担任の先生は親子一組ずつ話し、その子どもの一日の遊びや行動、成長をみられたこと、トラブルやけがなどを毎日伝えている。また、この時間は、担任にとっては、子どもの家庭での様子を聞く機会にもなっている。

日々の降園時や、降園時間帯後に実施している園庭開放において、園長や担任から保護者へ向けて「今日こんなことがあり、こんな成長がみられましたよ」と、子ども一人ひとりについての様子を伝えるようにしている。特に、遊びの中で子どもに今までになかった姿や成長が見られた際は、細やかに保護者に伝えている。

5-2-2 連絡帳

アプリによる連絡事項の発信や SNS での遊びの様子の発信を行っているが、手書きの連絡帳も残している。子どもの体調などの保護者が共有したい情報や相談等、様々なことを書いてもらっている。

アプリや園だよりのほか、連絡帳によって、保護者とのやり取りに使っている。連絡帳は保護者が使いたいように使っており、使わない保護者や簡単な連絡のみに使う保護者もいれば、日記的に使う保護者もいる。

クラスダイアリーによって、クラス担任と保護者のやり取りを行っている。A6 判の用紙で、左半分には担任が子どもの様子や日々の成長の姿などを書き込み、右半分には保護者が感想や質問、幼児の家での様子などを書き込んで返信する。月 1、2 回程度、担任と保護者でやり取りを行い、子どもに対する共通理解を深めている。

5-2-3 プリント等配布物

カラーコピーが一般普及した平成 9 年ごろより、カラー印刷の園だより（新聞）を発行している。日々の様子や行事などをカラー写真で掲載することで、子ども達の遊びの姿を、臨場感をもって伝えることができる。さらに、写真について副園長がコメントし、担任と保護者によるやり取りとはまた違った全体的な視点から、保育のねらいや子ども達の成長の様子を保護者に伝えている。

図表 5-1 カラー印刷の園だより



園からの連絡事項は、アプリ等を通じて行うが、クラスだより・学年だより・園だよりなど紙のものも毎月出している。アプリは見流してしまう保護者もいるため、重要事項は紙でも伝える。

5-2-4 保育参観日の開催（参観日における説明）

同園は2か月に1回程度、保育参観（参加）や保護者会の前に、子ども達の普段の遊びの様子を撮った写真を使ったスライドショーを30分程度、実施する。

スライドショーでは写真を見せるだけでなく、担任による解説も行う。遊びの内容とねらい、実際に遊んだ様子から教諭が読み取った幼児の成長など、細かなニュアンスまで伝え、保護者が我が子の姿につなげて理解できるように解説している。

また、スライドショーでの紹介は、2か月という少し長期的なスパンでの活動を紹介することを意識している。担任は、2か月間で何があったのか、どんなところが育っているのかを振り返りながら、スライドショーを作成する。

子どもたちの普段の体験や、今の時期に大切にしていることなどを事前に伝えることで、保護者の遊びに対する理解が深まった状態で保育参観を行うことができる。

保護者が幼児の遊びを体験できるように、保護者の保育参加「ファミリーランド」を年3回開催している。

初回の際、保育に入る前に、保護者に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿¹」を解説する説明会を開催する。説明会では、同園が作成した「10の姿レジュメ」（解説資料）を用いて、遊びを通して子どもの主体性・思考力・協調性などが養われていくことを説明する。

2回目以降の開催時も、保育に入る前に約30分間の幼児教育に関するワークショップを実施し、幼児の遊びの重要さや、子育てについて大切にしたいことについて理解を深めている。

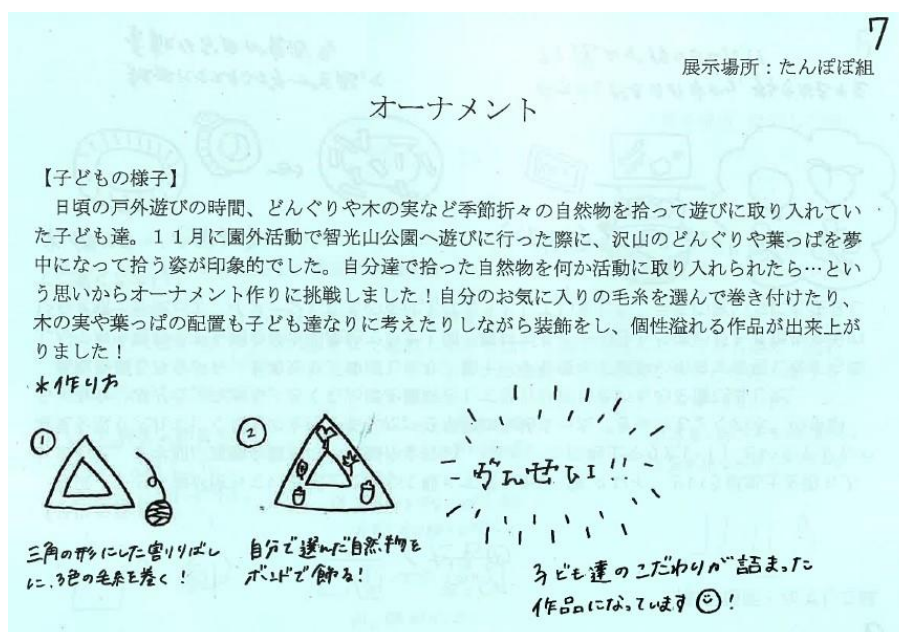
¹ ※「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示）より

5-2-5 保護者の行事参観・参加（開催時における説明等）

行事は普段の生活からかけ離れたものではなく、普段の園生活や遊びの延長として行っている。そのことを保護者に伝えるために、行事の解説冊子を作成している。どのような遊びが発展して行事につながっているのか、行事までに幼児がどのようなことを楽しみながらがんばってきたのかをまとめている。

例えば、絵の作品展では、冊子にて「このタケノコの絵は、園の森でのタケノコ堀に感動して描いた」「この絵は絵の具が塗られていたが、雪のあとの泥の様子に感動した子が、その思いを表現した」といった説明を書いている。絵を見る際は表現力や技術力だけでなく、子ども達が遊びを通じてどんな経験をして、気持ちをどのように作品に表現したかについて見てほしいと伝えている。

図表 5-2 行事の解説冊子



大きな行事の前日に、園長から「なぜこの行事をするのか」という旨を挨拶とともに保護者にメール配信している。

例えば、お遊戯会の際には、「なぜお遊戯をするか？」から解説をしている。お遊戯を通じて、音に合わせてほかの幼児と一緒に踊る協同性、踊る表現、どんな踊りが良いか自分たちで考える自主性が育ち、「上手くやれているかではなく、幼児自身がいかに楽しんでいるかを見てほしい」といった内容を行事にみあった言葉で伝えるようにしている。

また、行事は、子ども達と一緒に作っており、その経過はメールで保護者に伝えるようにしている。

5-2-6 掲示物

その日の出来事や遊びの様子の写真に、園長・副園長がコメントをつけた掲示物を幼稚園正門（園内側）に掲示し、降園時に保護者が閲覧できるようにしている。

園長・副園長が書くコメントでは、「自立心」「健康な心と体」といった「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10のキーワードを盛り込み、子ども達が遊びを通じてどのように成長しているかがわかるようにしている。

例えば、幼稚園内でゆずを収穫した際は「ゆずが何個とれたか数を数えた＝思考力の芽生え」「いい匂いがすると喜んだ＝豊かな感性と表現」など10の姿のキーワードを付与し、わかりやすく解説している。

登降園での保護者との会話の際、この掲示物があることで、保護者の理解も深まる。

図表 5-3 「10の姿」キーワードを盛り込んだ掲示物



同園では、職員の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解を深めるために、普段の保育の中でみられた幼児の行動から、10の姿の能力がどう育っているか話し合う研修を月1回実施している。研修の際には、幼児の育ちが感じられた様子の写真をもとに、職員で「自立心が付いている」「言葉による伝え合いの姿がある」と、どのような力が育っているか話し合う。

その研修で挙げた幼児の成長の姿を、保護者に共有するために、話し合いの内容を模造紙に書き込み園庭掲示板に掲示して、職員が共有した学びを保護者にも共有している。

5-2-7 園のHP やブログ、連絡アプリ等、SNS

子ども達の日頃の遊びの様子などをInstagramにて発信している。2～3日に一度のペースで掲載しており、写真だけでなく動画も投稿している。

この他、連絡事項の発信や欠席連絡には SNS ツールも導入している。同園は、バス通園か保護者による自動車での送迎が多いが、SNS の導入もあり家庭との連携は密になっている。行事のボランティア募集などが簡便になり、保護者からの評判も良い。

園と保護者の連絡アプリを導入している。連絡アプリでは、日頃の連絡事項の配信のほかに、行事の様子や日々の様子を撮影した動画配信も行っている。

この他、園だよりを紙媒体の発行だけでなく、同園HPや保護者との連絡アプリでも閲覧可能にしている（ID・PWによる保護あり）。遠方に住む祖父母等にも子ども達の様子を伝えることができる。

保護者に向けて、Instagramで日々の遊びの様子を伝えている。写真を掲載するだけでなく、遊びを通してどのようなことを子どもたちは学んでいるか、どういったことを保育者はみているかについて解説のコメントもつけている。

5-2-8 親子参加型イベント等の開催

同園は、遊びの中でも身体を使った遊びを重要視し、身体を使った遊びによって体幹を鍛えることを重視し、懇談会等でも保護者に伝えている。

さらに、月に一度降園時に園庭開放「親子で遊ぼう」を行い、保護者と幼児が一緒に身体を使った遊ぶ機会を提供している。「親子で遊ぼう」では、縄跳びやドッジボールなど親子で遊ぶなど、子どもの遊びを保護者が体験する機会となっている。

5-2-9 講演会・説明会の開催、入園説明会

子どもたちが遊んでいる様子を撮影した写真を使って、「子育てトーク」と称したスライドショーを学期に1回開催している。スライドショーでは園長が、写真を見ながら、遊びの中で幼児がどのような経験をしているか、どのような学びを得ているかを伝えている。

園の入園説明会にて、幼児教育における遊びについてパワーポイントなどで分かりやすく解説している。子ども達の遊びの様子写真を使って「いまこの遊びを通して何が育っているか」と保護者に問いかけながら、遊びは子どもの学びにつながる重要なものであることを伝えている。例えば「砂場で水遊びをした際、水が染み込んでいく様子を見て、発見や感動、気付きなど学びの芽が育った」など具体的な事例を通して、保護者に伝えている。

5-3 まとめ

施設ヒアリングの結果から、特徴的な取組を行う幼稚園等が実施している家庭との連携方法のポイントを整理する。

(1) 幼児の様子だけでなく、その様子を園や保育者はどのようにみているかまで伝える

幼児の遊びの様子、特に幼児の成長の様子や幼児の個性を伝える際には、ただその様子や情報を伝えるのではなく、施設がどのような意図で活動を行ったか、実際に活動を行って幼児の様子からどのように感じたかといった点もあわせて伝えることが重要である。幼児の行動から、どのような成長が読み取れるのか、また保育者はどのようなことを読み取ったのかまであわせて伝えることで、保護者の理解が深まる。

(2) 園や家庭の特性を踏まえた手法の選択

アンケートにおいて「登降園の際の会話」が、施設・保護者ともに最も実施されているやりとりであった。ただし、登降園の時間が十分とれるかは、園や家庭の状況（徒歩通園・バス通園等、延長保育の多さ等）によっても異なる。どのような方法により、何を重点的に伝えるかは、園や家庭の特性を踏まえて選択する必要がある。

登降園の時間が十分とれるようであれば、登降園時でのコミュニケーションを軸に情報伝達を行うことが考えられる。一方で、登降園時に保護者と会話する時間がとれない園では、例えば、SNS を有効活用するのも1つの方法といえる。幼児の日々の活動の様子の写真に解説をつけて SNS で発信することで、忙しく保護者と保育者の時間がなかなか合わせられない中でも、情報をとどけることができる。

(3) 写真や映像の有効活用

ヒアリングでは、写真や映像をつかった情報伝達は、保護者からの評判が良いという意見が多くあがった。例えば、保護者会などで幼児の遊びについて紹介する際に、話だけで伝えようとするのではなく、写真のスライドショー、あるいは動画などをみせながら話をすることで、保護者も実際の成長のイメージがしやすくなる。

また、インスタグラムや幼児教育施設向けアプリ等の SNS を活用し、幼児が遊ぶ写真・動画の配信と共に、その姿がどのような幼児の成長につながっているかのコメントをつけることで、保護者に遊びの重要性を伝えることができる。

(4) 伝える内容や重要性に応じた手法を使う・用意する

保護者の生活様式や家庭環境が多様化しており様々なニーズに対応するためにも、施設と保護者とのやり取りの手段は、伝えたい内容やその重要度に応じて複数の取組を組み合わせる行うことが考えられる。例えば、前述した SNS を導入したとしても、必ず保護者が

目を通して理解してもらいたい内容があれば紙で周知するという方法を残しておくことが有効である。

第6章 まとめ

これまでの調査結果を踏まえて、幼児教育施設と家庭の連携の実態と課題について整理を行う。

6-1 施設アンケート

(1) 家庭とのやり取り

施設アンケート結果をみると、幼児教育施設では、家庭に幼児の様子や幼児教育に関する情報を伝える際に、「登降園の際での会話」や「プリント等配布物」といった方法や、「運動会、園内の行事に保護者が参加」することや「保育参観日の開催」などを通じて、様々な形で日頃のやり取りを行っていた。また、日々やり取りする内容については、「幼児の健康状態や日々の生活の様子」「幼児の遊びの様子」「幼児は遊びながら学んでいること」など、施設における幼児の様子や幼児教育に関する様々な情報を施設が保護者に対して伝えていることがわかった。

他方で、家庭とのやり取りにおける課題としては、「幼稚園教諭・保育士が日々の業務におわれ、家庭とのやり取りの時間がとれない」「幼稚園教諭・保育士が日々の業務におわれ、先生同士でのコミュニケーションをとる余裕がない」など教諭・保育士の忙しさを背景とするもの、「保護者が忙しいことから、家庭とのやり取りの時間がとれない」「幼児教育は園だけに任せておけばよいと考える家庭がある、多い」「幼児教育に関心のない家庭がある、多い」「家庭からの反応がわからない」など家庭・保護者に要因があると思われるもの、「幼稚園教諭保育士に、家庭とのやり取りを円滑に行うスキルが不足している」など教諭・保育士のスキルに関するものなど、複数の要因から保育者が課題感を感じていることがわかった。

(2) 教育内容や遊びについて

幼児教育施設で行う幼児教育の内容や、幼児が修了（卒園）するときに備わってほしいことでは、遊びや周囲との関わりに関する項目を重要視する傾向であることに対し、「英語、スポーツ、音楽など子どものスキル（技能）を高めること」「論語や百人一首など古典を知ること」といった知的教育を想起させる項目は重要視する割合が低いなど、幼児教育施設として重要視するものの濃淡がみられた。

また、幼児教育は幼児教育施設と家庭のどちらが中心になって行うほうがよいかは、身に付ける生活習慣や活動のどの項目においても、「家庭が中心になって行うほうがよい」が7～9割を占めている。

幼児教育施設で遊びを行う中で重要視している点については、「幼児の安全性を確保した環境で遊ばせる」ことのほか、「幼児が夢中で遊べるような環境を作る」「園児同士の関わり

が生まれる遊びをする」ことについて「非常に重要である」と回答した割合が8割を超えて高い。

なお、幼児教育施設における「遊び」のあり方に関する自由記述においては、同施設内の教諭・保育士同士の間でも遊びの認識にズレがあることが示唆された。遊びのとらえ方については、施設と保護者の間だけでなく、施設内の保育者同士あるいは施設間においても同一の認識を持つことが課題であることがわかる。

6-2 保護者アンケート

(1) 幼児教育施設の満足度

保護者アンケートをみると、幼児教育施設の「保育や教育の内容」「教諭・保育士の子どもへの対応」など様々な項目に対して満足している保護者が8割以上と高い。

(2) 幼児教育施設とのやり取り

幼児教育施設とのやり取りや情報共有の取組について、保護者も施設からの多様な方法において、幼児の日々の様子等を共有されていると感じており、特に「登降園の際での会話」や「運動会、園内の行事に保護者が参加」することを通じて理解を深めていることがわかった。また、幼児教育施設から伝えられている内容についても、施設における幼児の様子や幼児教育に関する情報についてどの項目においても6~7割の保護者が「伝えられている」と認識している。また、幼児教育施設とのやり取りや情報共有において課題に感じていることは、4割以上が「特になし」と回答している。

(3) 幼児教育施設に求める教育内容

幼児教育施設に求める幼児教育の内容や、幼児が修了（卒園）するときに備わってほしいことでは、「論語や百人一首など古典を知ること」を除き、遊びや周囲との関わりに関する項目のほか、知的教育を想起させる項目などのいずれにおいても、重要視する割合が8~9割と高い結果となった。

幼児教育は幼児教育施設と家庭のどちらが中心になって行うほうがよいと考えるかきいたところ、身に付ける生活習慣や活動のどの項目においても、「幼児教育施設で行うほうがよい（幼児教育施設が中心になって行うほうがよい+どちらかといえば幼児教育施設）」が4割~6割となっており、家庭と施設で協力するものと考えているとみられた。

また、幼児教育施設で遊びを行う中で重要視する点については、「幼児の安全性を確保した環境で遊ばせる」が4割強と最も高かった。

6-3 幼児教育施設と保護者の比較

(1) 幼児の遊びに関する重要性

施設アンケートと保護者アンケートの回答結果を比較したところ、幼児の遊びに関する考え方や重要性についても、大きな部分では傾向は似通っているものの、施設と保護者で以下のような認識の差異がみられた。

- ・施設と保護者との間で特に乖離が大きく見られた点では、幼児教育施設で行う教育内容として、「身体を使った遊び」「子どもが好きな遊びに没頭すること」「本の読み聞かせ」等について保護者は施設と比べて重要視しておらず、「お遊戯など集団での一斉行動ができること」「英語、スポーツ、音楽等、子どものスキルを高めること」「文字や数を数えること」等は施設と比べて保護者の方が重要視している。
- ・幼児教育施設を卒園する時に、施設は「健康な心と体が育つこと」「友達と協力して遊ぶこと」等が備わってほしいと考えているが、保護者はいずれの内容に関してもそこまで強く卒園時までには育つことを重要視していない傾向にある。
- ・遊びを行う中で施設は、「幼児が夢中で遊べる環境を作る」「園児同士の関わりが生まれる遊びをする」ことを重要視しているが、いずれも保護者の回答との乖離が大きく、幼児教育施設において遊びを行う中で重要と考えている事柄が保護者にあまり理解されていない可能性がある。
- ・幼児教育は幼児教育施設と家庭のどちらが中心になって行うほうがよいと考えるかについては、施設と保護者ともに回答の傾向は似ているものの、施設は「8割～9割は家庭が行うほうがよい」と回答しているのに対し、保護者は「4割～6割は幼児教育施設で行うほうがよい」と回答している。

(2) 幼児教育施設と保護者とのやり取り

施設アンケートと保護者アンケートの回答結果を比較したところ、幼児教育施設と保護者との間における、やり取りや幼児教育に関する情報の共有方法についてもいくつかの差異がみられた。

幼児教育施設と保護者とのやり取りは、両者ともに「登降園の際の会話」の割合が高く共通しているものの、「掲示物」「園のHPやブログ」等について、それほど保護者が活用していない可能性がみられた。

また、共有する内容については、特に「幼児のふとした言動からみえる幼児の成長の様子」「個々の幼児の得意なことや、好きなこと等の個性」などの情報は、施設が十分に伝えられていると回答する割合に比べて、保護者が十分に伝わっていると回答する割合が低い。

さらに、やり取りや情報共有における課題について、施設が保育者や家庭の時間のなさなど多くのことについて課題だと感じているのに対し、保護者側はあまり課題として感じていなかった。ただし、保護者の2割が「園とやり取りする機会が少ない」を課題としてあげているなど、機会の少なさが一部の保護者にとっては課題となっている。

(3) クラス人数

5歳児クラスの理想の人数についてきいたところ、施設・保護者ともに、最も割合が高いのは「16～20人」となっている。保護者のほうが、より小さい集団を求めている。

6-4 まとめ

施設アンケート、保護者アンケートの結果と比較から、施設と保護者の間においては、やりとりや幼児教育に関する情報共有の取組が行われており、保護者も伝えられている内容を認識し、施設に対する満足度も高い傾向にあることがわかった。

ただし、調査結果からは、幼児教育施設と保護者の間では、「幼児教育」や「遊び」についての認識に差異がある可能性も示唆された。また、施設と保護者の情報共有に一定の課題があることも伺えた。幼児教育施設と保護者との連携強化に向けた課題点を下記に示す。

(1) 集団の中での学びに対する認識の共有

幼児の集団の中での学びは、幼児教育施設だからこそ実施できる側面も大きい。だが、「幼児教育施設を修了（卒園）する時に備わってほしいこと」をみると、「友達と協力して遊ぶこと」等、集団の中での友達との関わりに関する項目について、保護者は必ずしも施設ほど重視していない傾向がみられた。

また、5歳児クラスの理想の人数については、施設・保護者ともに「16～20人」と回答した割合が最も高かった。実際のクラス編成が15人以下である施設においても「16～20人」程度が理想と回答しており、一定規模の集団であることを重要視している結果が伺える。なお、全体的に保護者のほうが、より小さい集団を求めている傾向がみられた。

保護者は、自分の子どもがどのような知識やスキルを身に付けたかという成長に関心が行きがちになるが、幼児教育施設は同年代の幼児との集団生活を営む場であって、他者とのかかわりや協力を通じて主体性や社会的態度を育むことの重要性や、実際に集団の中で学ぶ姿を保護者に対して丁寧に伝えていくことが重要といえる。

(2) 遊びの重要性に関する認識の共有

幼児期においては幼児の自発的な活動としての遊びを通じて様々なことを学んでいくことが重要であるが、遊びを通じて学ぶという幼児教育の特性に関する認識は保護者に十分に共有されていないように伺える。

幼児教育施設の考える遊びの重要性等に関する項目について、例えば、「身体を使った遊び」「子どもが好きな遊びに没頭すること」や、「健康な心と体が育つこと」「友達と協力して遊ぶこと」等の遊びにおける重要な要素が、保護者には十分に認識されていなかった。アンケート結果をみると保護者は遊びにおいて安全面を最も重視しており、保護者は施設に対し「安全に預かってくれていること」以上のことは求めておらず、施設への信頼を示している結果とも読み取れる。

幼児教育における「遊び」は、漠然とイメージされる遊びとは違って、幼児が遊びの中で身体を動かし想像力を発揮しつつ友達ともかかわりあい様々なことを学んでいることを伝

える必要がある。その際は、日々の教育実践とあわせて具体性を持って伝えることが効果的であると考えられる。

さらに、施設アンケートの自由記述において「施設内の教諭・保育士同士の間でも遊びの認識にズレがある」ことが示唆されており、同じ保育者であっても幼児の遊びのあり方を共有することの難しさが表れている。遊びの考え方について、どのような幼児の姿が望ましいのか、どのような成長を目指していくのかについて、園内外での保育者同士の話し合いや遊びあいの機会を確保し、施設内や施設類型を超えた保育者間での共通理解を図った上で、保護者との連携を密にしていくことが重要といえる。

(3) 幼児教育の役割に関する認識の共有

幼児教育は幼児教育施設と家庭のどちらが中心になって行うほうがよいと考えるかについては、施設と保護者の回答傾向は似ており認識が共有されていることが明らかになった。

ただし、施設は大体の項目において8割～9割は家庭が行うほうがよいと回答しており、「幼児が生活習慣や活動を身につけることは、家庭が主で行う」と考えているのに対し、保護者は4割～6割は幼児教育施設で行うほうがよいと回答しており、「幼児が生活習慣を身につけることは、家庭と施設で協力するもの（一部は、幼児教育施設に任せるもの）」と考えていた。

幼児教育は、家庭や幼児教育施設のいずれかのみがタスクを負うものでなく、各主体が連携・連動しながら子どもを育てていくことが重要であるが、家庭と幼児教育施設の連携を深めるためには、家庭においては幼児の成長の基礎となる心の基盤を育成する、施設においては、家庭では体験できない(1)でみた集団での学びや幼児の発達を促す環境を通じて子どもの育ちを支える、など各主体の主な役割を認識した上で共に協力し合うことも重要であると考えられる。

(4) 教諭・保育士、保護者の忙しさへの対応

このように幼児教育施設と家庭がそれぞれ幼児教育を担う主体として密に連携することが重要であることは言うまでもないが、施設と家庭とのやり取りにおける課題として、施設は「教諭・保育士の忙しさ」「教諭・保育士のスキル不足」「家庭・保護者の忙しさ・関心のなさ」をあげている。教諭・保育士、保護者ともに忙しく、教諭・保育士については保護者とのやり取りを円滑に行いたいと望んでもスキルアップの時間が十分にとれない状況もうかがえる。家庭とのやり取りを円滑に進める上では、教諭・保育士が保護者と十分に向き合える時間やスキルアップのための時間の確保が課題であり、そのためには保育者の働き方改革を進める必要がある。

一方で、保護者は施設とのやり取りについて5割近くが「課題なし」と回答している。この結果は、施設からの情報共有が十分であるとして保護者が満足しているとも読み取れる一方で、幼児教育に対する「無関心層」が一定数いることを示唆している可能性もある。こ

のことは、施設の 1/4 程度が「幼児教育に関心のない家庭がある、多い」「家庭からの反応がわからない」と回答していることや、子どもの通う幼児教育施設を選んだ理由として「住んでいるところの近くであるから」と回答した保護者の割合が約 8 割であること等からも伺える。施設が無関心ではないかと感じる理由としては保護者が忙しく関心がないように見えることや、幼児教育が今後の人格形成の基礎となる重要なものであるとの理解が進んでいないことも要因ではないかと考えられる。無関心に見える保護者に対して、どのような手法で、あるいはどのような内容であれば興味深くアプローチできるかも課題といえる。

(5) 日々の幼児の様子や幼児教育に関する情報の効果的な共有

幼児教育に無関心に見える保護者に対してどのようにアプローチするかといったことに加え、施設と保護者のやり取りについて、施設が考えているほど、保育者には伝わっていない可能性もみられた。アンケート結果の比較からは、「幼児のふとした言動からみえる幼児の成長の様子」「個々の幼児の得意なことや、好きなこと等の個性」などの情報は、施設が十分に伝えていていると回答する割合に比して保護者にそれほど伝わっていなかったことがわかった。

このような、幼児教育や遊びの重要性等の認識の共有について、施設ヒアリング事例では、子どもの様子を保護者に伝える際に、「幼児の活動の様子だけでなく、その様子を園や保育者はどのようにみているかまで伝える」よう工夫をしていた。保護者とのやり取りにおいては、幼児の活動の様子を伝えたり写真等でみせたりするだけではなく、スライドショーや動画等を通じて実際に成長した様子を保護者が見て取れるよう工夫することは有効である。また、施設からの一方的な情報発信であっても、双方向のコミュニケーションが生ずるときでも、保育者がどのような意図で活動を行ったか、実際に活動を行って幼児の行動からどのような成長が読み取れるのか、また保育者はどのようなことを読み取ったのかまであわせて伝えることで保護者への理解が深まるのではないかと考えられる。

本報告書は、文部科学省の「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業」の委託費による委託業務として、株式会社リベルタス・コンサルティングが実施した令和5年度幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業の成果を取りまとめたものです。
したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承諾が必要です。